

1. 都市づくりに関するアンケートについて

《調査の概要》

都市計画マスタープランの改定にあたり、都市の問題点やまちづくりに関する市民の意識や意向を把握し、計画に反映することを目的とする。

1. 調査対象	福井市民（18 歳以上）無作為抽出 2,000 人
2. 調査方法	郵便による配布、回収 インターネット(URL と QR コード)
3. 調査期間	R5 年 9 月 1 日～9 月 15 日
4. 回答数	762 件 回収率 38.1% インターネット 218 件 郵送 543 件 来庁 1 件

《設問の構成》

- ・地区ごとの市民意識を把握するため、地区の状況と今後の取り組みに関する設問を設けています。
- ・福井市のまちづくりの方向性について、意向を把握するため、まちづくりの方向性に関する設問を設けています。
- ・地域拠点の現況を把握するため、地域拠点に関する設問を設けています。
- ・これまで取り組んできた中心市街地のまちづくりの今後について、意向を把握するため、中心市街地に関する設問を設けています。
- ・災害への意識を把握するため、災害に関する設問を設けています。

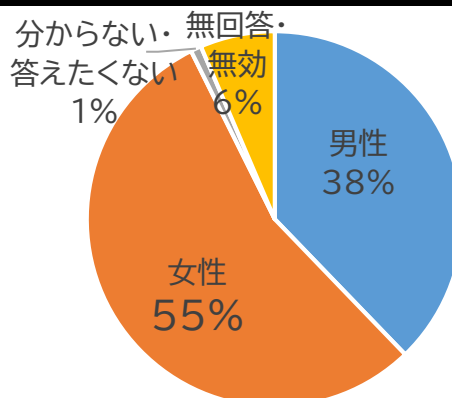
2. 都市づくりに関するアンケート 単純集計結果

はじめに、あなた自身のことについて、お聞かせください。

問1 あなたの性別

男性(自認する性を含む)	288
女性(自認する性を含む)	418
分からない・答えたくない	7
無回答・無効	49
合計	762

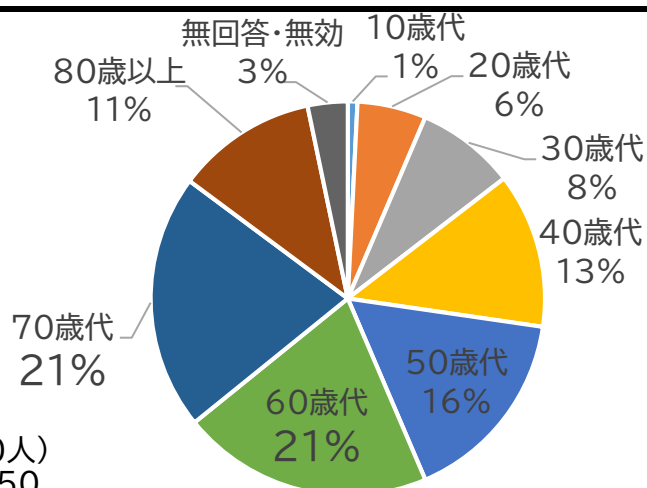
○回答者の性別は「男性」が38%(288人)、「女性」が55%(418人)



問2 あなたの年齢

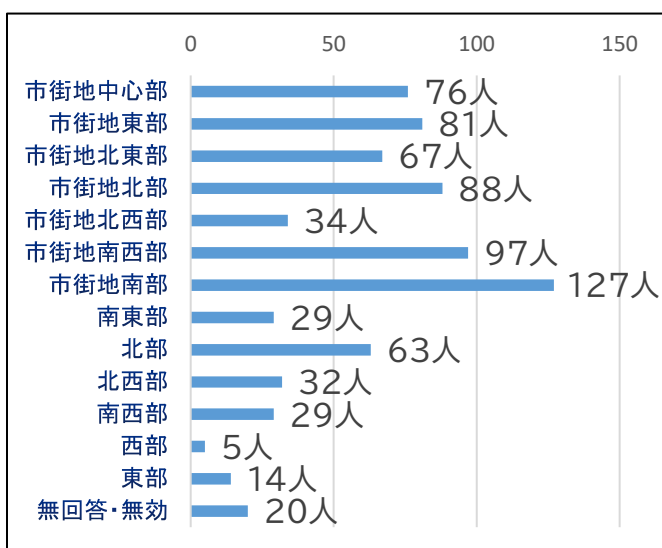
10歳代	6
20歳代	43
30歳代	62
40歳代	97
50歳代	124
60歳代	157
70歳代	160
80歳以上	88
無回答・無効	25
合計	762

○最も多いのが「70歳代」の21%(160人)
○次いで「60歳代」が21%(157人)、「50歳代」が16%(124人)の順に多い。



問3 あなたのお住まいの地区

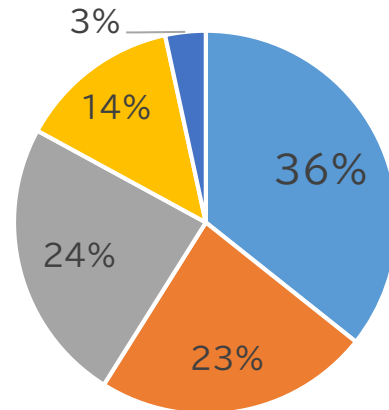
市街地中心部	76
市街地東部	81
市街地北東部	67
市街地北部	88
市街地北西部	34
市街地南西部	97
市街地南部	127
南東部	29
北部	63
北西部	32
南西部	29
西部	5
東部	14
無回答・無効	20
合計	762



○最も多いのが「市街地南部」の17%(127人)
○次いで「市街地南西部」の13%(97人)、「市街地北部」の12%(88人)の順に多い。

問4 あなたの居住歴 ※福井市と合併した町村の方は、福井市としてお考え下さい。

福井市に生まれて、ずっと福井市に住んでいる	272
福井市に生まれて、福井市以外で生活をしたことがあるが、現在は福井市に住んでいる	177
県内の他の市町村から転入してきた(福井市以外で生まれた方)	183
県外から転入してきた(福井市以外で生まれた方)	104
無回答・無効	26
合計	762



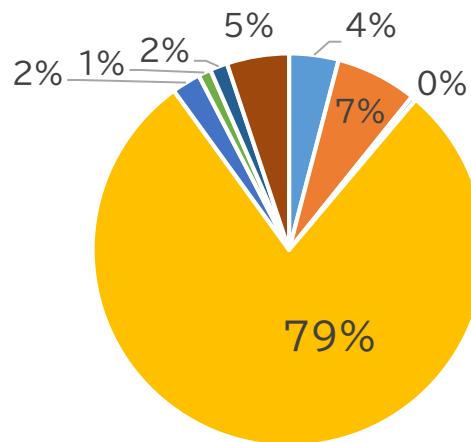
○最も多いのが「福井に生まれて、ずっと福井に住んでいる」の36%(272人)

○次いで「県内の他の市町村から転入してきた(福井市以外で生まれた方)」の24%(183人)、「福井市に生まれて、福井市以外で生活をしたことがあるが、現在は福井市に住んでいる」の23%(177人)の順に多い。

- 福井市に生まれて、ずっと福井市に住んでいる
- 福井市に生まれて、福井以外で生活をしたことがあるが、現在は福井市に住んでいる
- 県内の他の市町村から転入してきた(福井市以外で生まれた方)
- 県外から転入してきた(福井市以外で生まれた方)
- 無回答・無効

問5 通勤・通学や買い物、通院など、日頃、外出する際に最も利用する交通手段は何ですか。

徒歩	31
自転車	51
オートバイ(原付含む)	3
自動車	601
バス(路線バス、地域コミュニティバス等)	18
鉄道(JR、福井鉄道、えちぜん鉄道)	8
その他	11
無回答・無効	39
合計	762



(その他の意見)

- ・タクシー
- ・デマンドタクシー
- ・家族に頼む
- ・今は外出しない

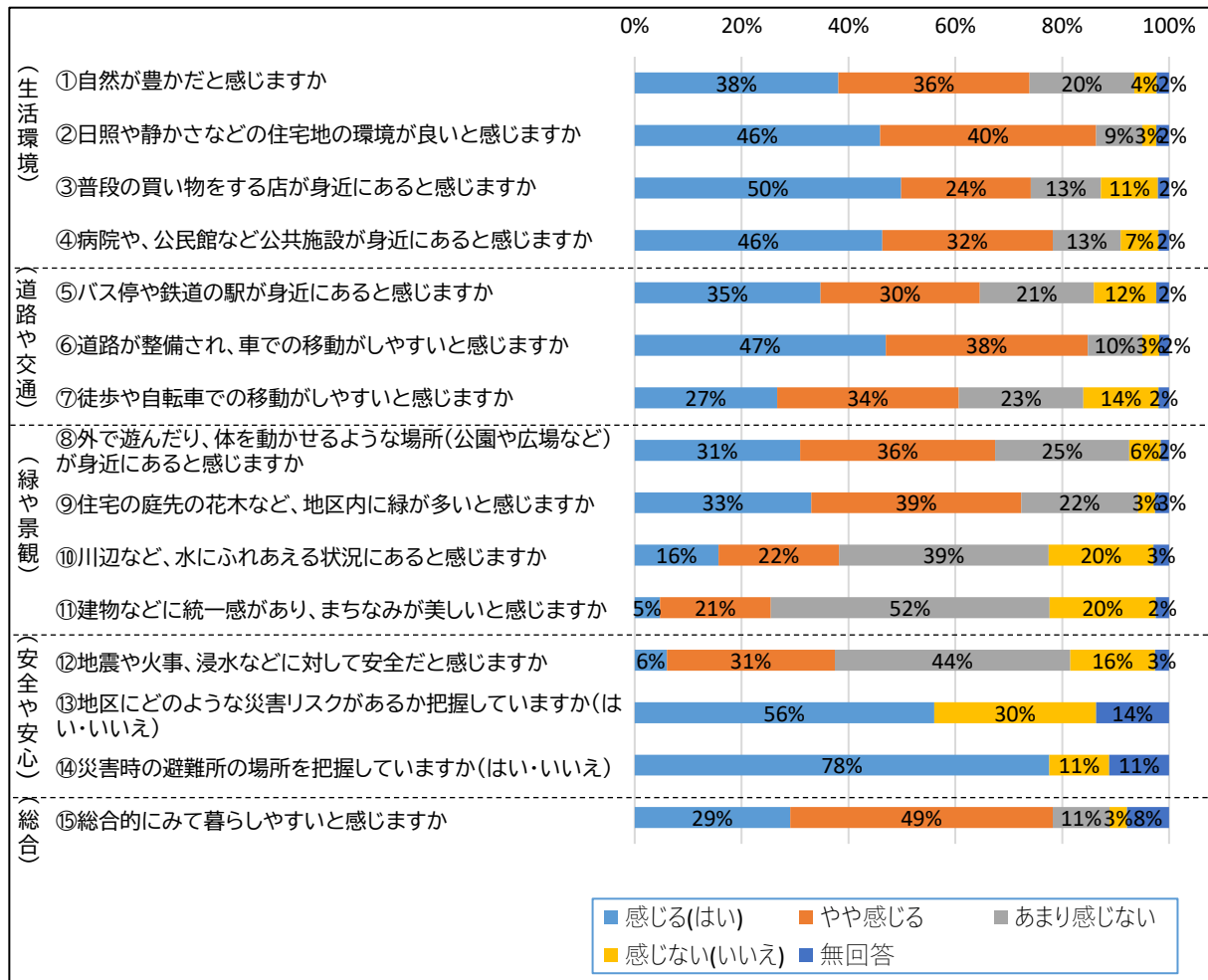
○最も多いのが「自動車」の79%(601人)

○次いで「自転車」の7%(51人)、「徒歩」の4%(31人)の順に多い。

- 徒歩
- 自転車
- オートバイ(原付含む)
- 自動車
- バス(路線バス、地域コミュニティバス等)
- 鉄道(JR、福井鉄道、えちぜん鉄道)
- その他
- 無回答・無効

あなたがお住まいになっている地区の状況について、お聞かせください。

問6 項目ごとに当てはまるところに○を付けてください。



(生活環境)

- ”感じる”、”やや感じる”の合計に着目すると、4項目全てで7割以上となっている。
- 「②住環境の良さ」が最も高く86%、次いで「④公共施設の身近さ」が78%、「③普段の買い物をする店が身近にある」が74%、「①自然の豊かさ」が74%の順に高い。

(道路や交通)

- ”感じる”、”やや感じる”の合計に着目すると、3項目全てで6割以上となっている。
- 「⑥道路が整備され、車での移動がしやすい」が最も高く85%、次いで「⑤バス停や鉄道の駅の身近さ」が65%、「⑦徒歩や自転車での移動のしやすさ」が61%の順に高い。

(緑や景観)

- ”感じる”、”やや感じる”の合計に着目すると、⑧と⑨は約7割となっている一方で、⑩と⑪は4割以下と低い。
- 「⑨住宅の庭先の草木など、地区内に緑が多い」が最も高く72%、次いで「⑧公園や広場などの身近さ」が67%、「⑩川辺など、水に触れあえる状況にあると感じる」が38%の順に高い。

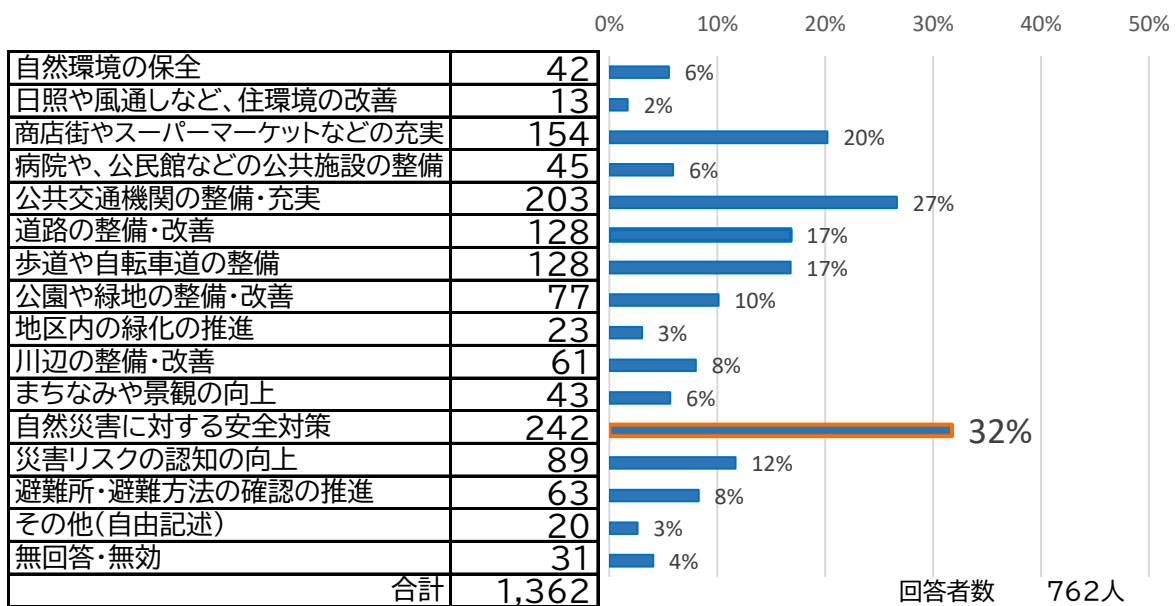
(安全や安心)

- 「⑫地震や火事、浸水などに対しての安心」は37%
- 「⑬地区内の災害リスクを把握している」は56%
- 「⑭災害時の避難場所を把握している」は78%

(総合)

- 「⑮総合的にみて暮らしやすいと感じる」は78%

問7 問6の項目に関連して、あなたのお住まいの地区で今後、特に取り組んでいくことが重要であると思われる点について、お聞かせください(〇は2つまで)



(その他の意見)

- ・治安の向上
- ・高齢独居者のすごしやすさ
- ・降雪時の除雪
- ・どれも大事だと思うので選べない

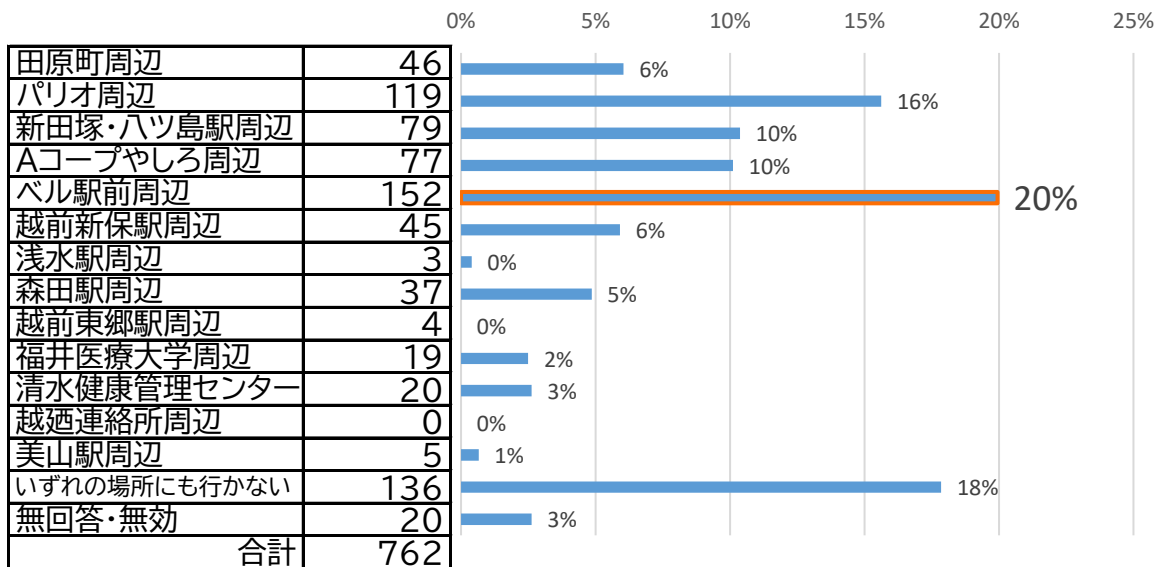
〇最も多いのが「自然災害に対する安全対策」の32%(242件)

〇次いで、「公共交通機関の整備・充実」の27%(203件)、「商店街やスーパーマーケットなどの充実」の20%(154件)の順に多い。

日常の外出について、お聞かせください。

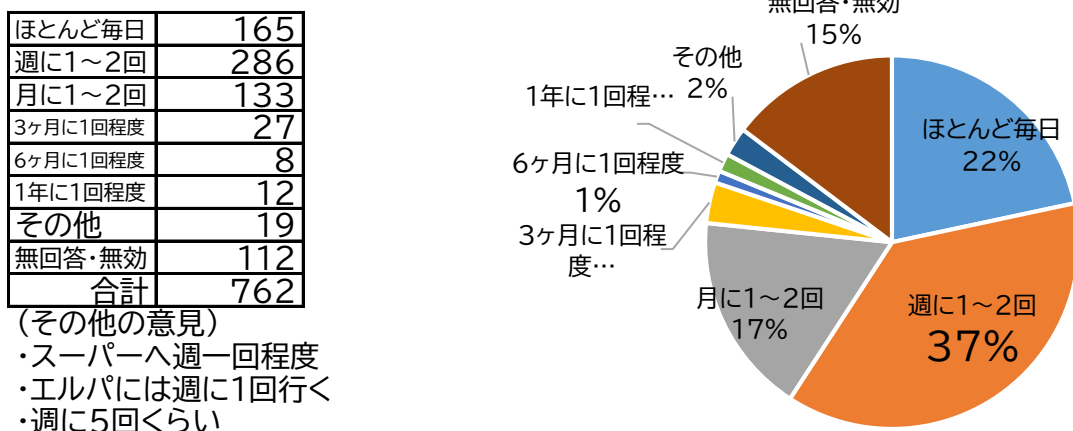


問8 あなたが一番よく行く地域拠点はどこですか。



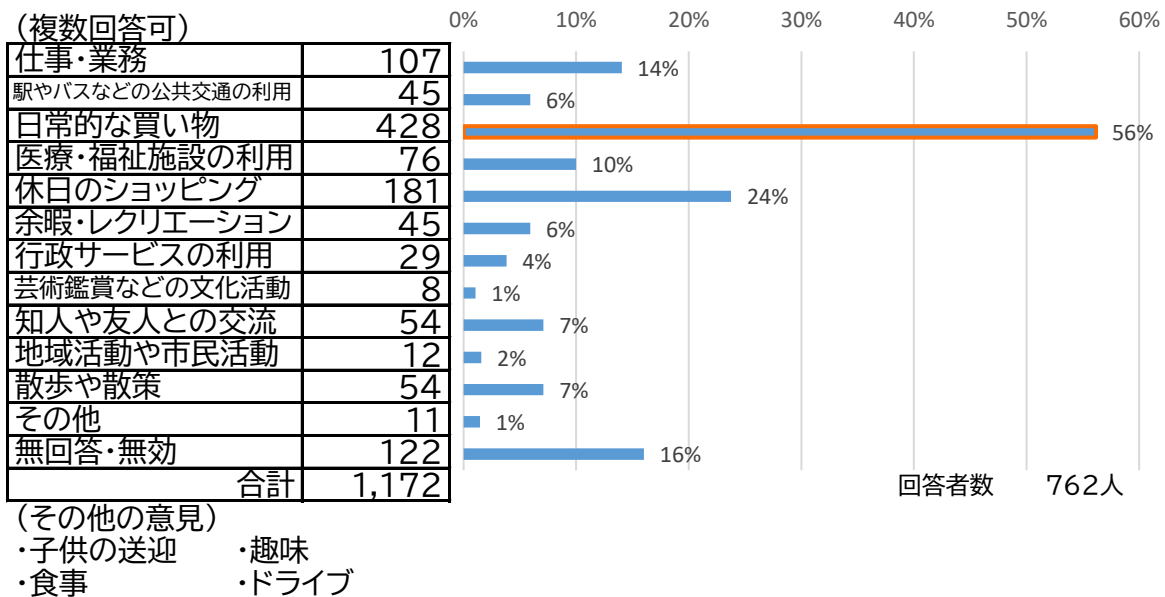
- 最も多いのは「ベル駅前周辺」の20%(152人)
 ○次いで「パリオ周辺」が16%(119人)、「新田塚・ハツ島駅周辺」が10%(79人)である。
 ○「いずれの場所にも行かない」は18%(136人)

問9 問8で回答した地域拠点へ行く頻度はどれくらいですか。



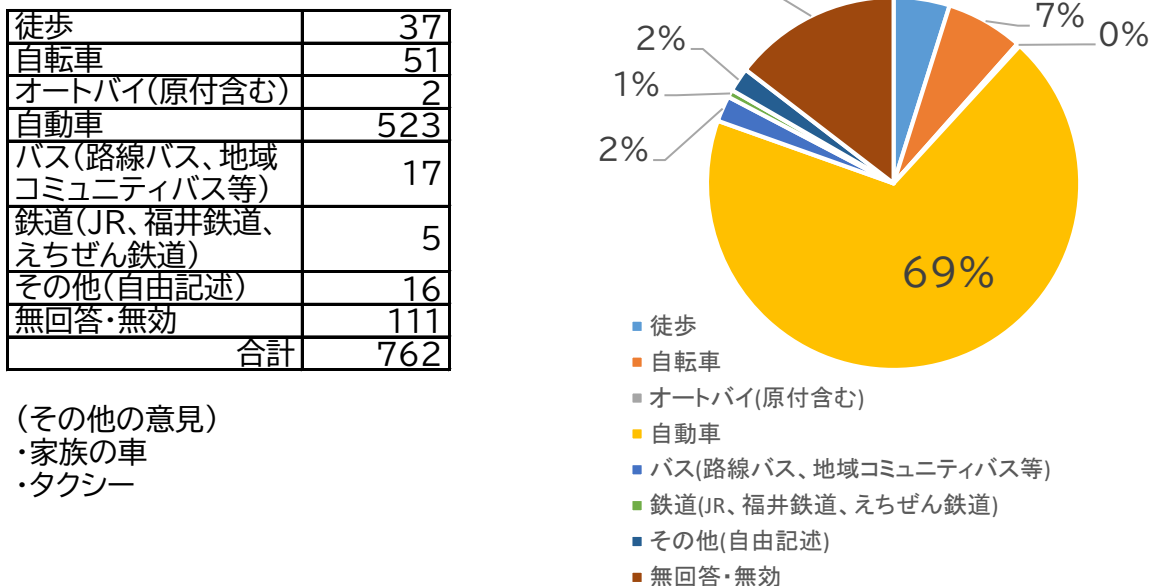
- 最も多いのが「週に1～2回」の37%(286人)
 ○次いで「ほとんど毎日」が22%(165人)、「月に1～2回」が17%(133人)の順に多い。

問10 問8で回答した地域拠点へ行く主な目的はどれですか。(当てはまるものすべて)



○最も多いのが「日常的な買い物」の56%(428件)
 ○次いで「休日のショッピング」が24%(181件)、「仕事・業務」が14%(107件)の順に多い。

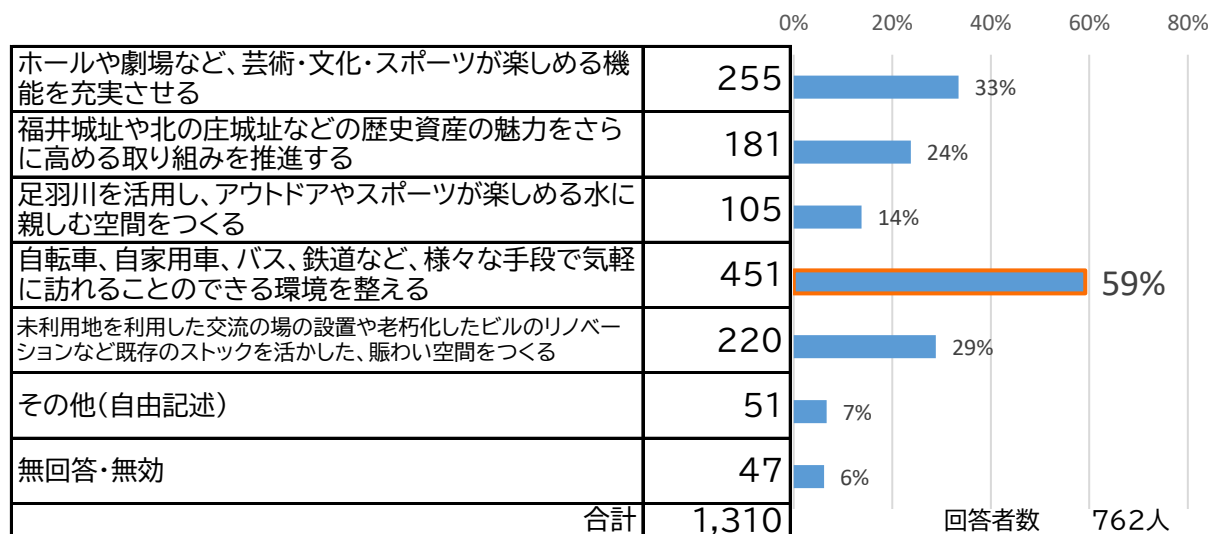
問11 問8で回答した地域拠点へ行く場合、主にどのような交通手段を使いますか。



○最も多いのが「自動車」の69%(523人)
 ○次いで「自転車」が7%(51人)、「徒歩」が5%(37人)の順に多い。

問12 JR福井駅を中心とした中心市街地において、福井市では、商業や文化機能を集積させるとともに、にぎわい創出にも取り組んできました。そのにぎわいを持続させるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

(〇は2つまで)

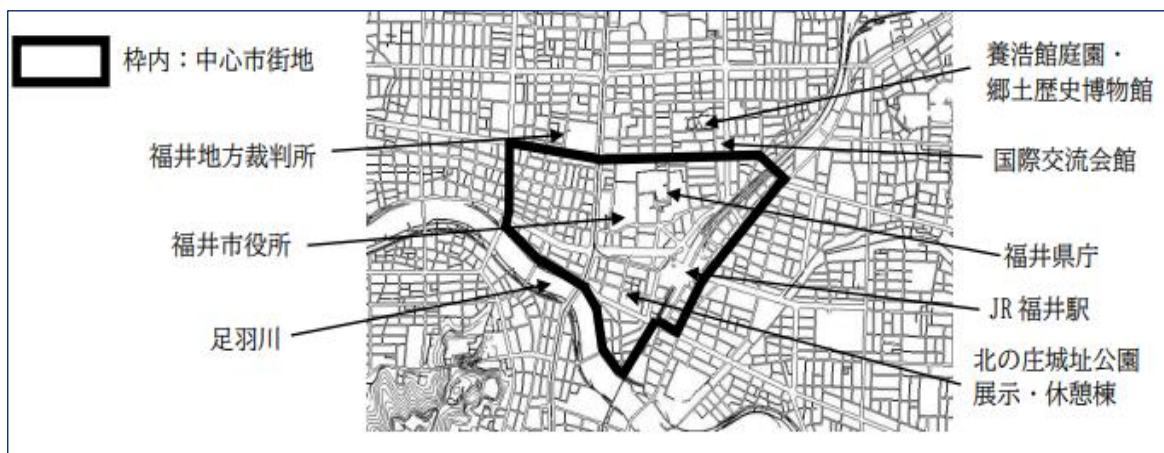


(その他の意見)

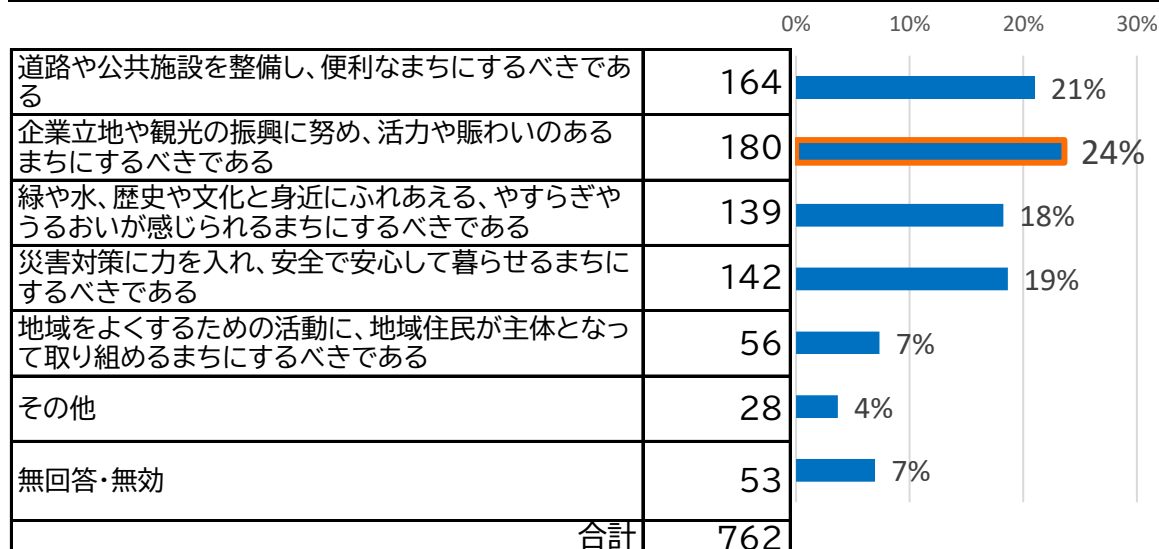
- ・高齢者と若者が集える場
- ・駐車場の無料化
- ・常に情報発信をし、定期的にイベントを行う

〇最も多いのが「自転車、自家用車、バス、鉄道など、様々な手段で気軽に訪れることのできる環境を整える」の59%(451件)

〇次いで「ホールや劇場など、芸術・文化・スポーツが楽しめる機能を充実させる」で33%(255件)、「未利用地を利用した交流の場の設置や老朽化したビルのリノベーションなど既存のストックを活かした、賑わい空間をつくる」で29%(220件)の順で多い。



問13 今後は市全体として主にどのようなまちづくりの方向に進むべきだと思いますか。



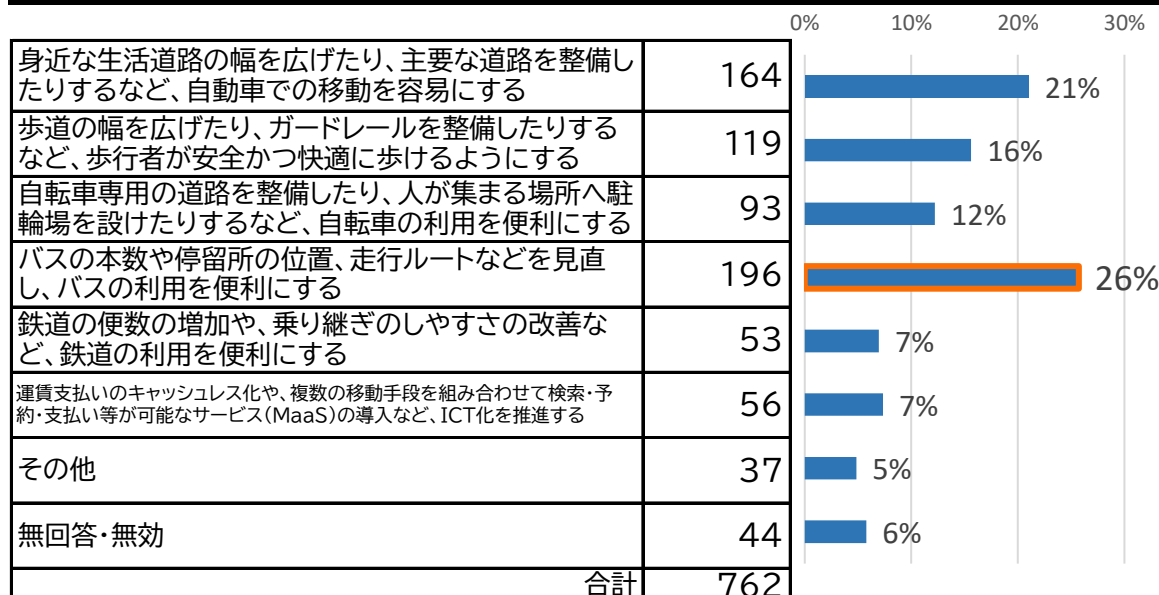
(その他の意見)

- ・高齢者が進んで参加出来る空間・場所の創設
- ・若者が一度は訪れたい町にするべき

○最も多いのが「企業立地や観光の振興に努め、活力や賑わいのあるまちにするべきである」の24%(180人)

○次いで「道路や公共施設を整備し、便利なまちにするべきである」が21%(164人)、「災害対策に力を入れ、安全で安心して暮らせるまちにするべきである」が19%(142人)の順に多い。

問14 交通対策について、今後、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。



(その他の意見)

- ・既存の交通を手軽に利用するような仕組み
- ・高齢者が利用しやすいコミュニティバス等の整備

○最も多いのが「バスの本数や停留所の位置、走行ルートなどを見直し、バスの利用を便利にする」の26%(196人)

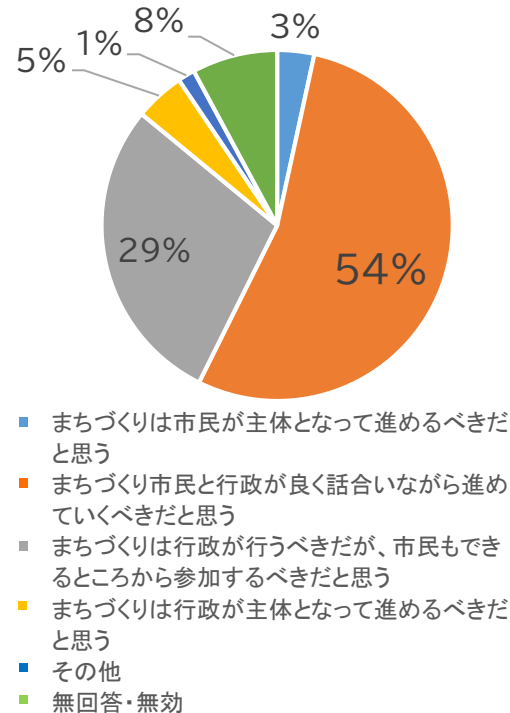
○次いで「身近な生活道路の幅を広げたり、主要な道路を整備したりするなど、自動車での移動を容易にする」が21%(164人)、「歩道の幅を広げたり、ガードレールを整備したりするなど、歩行者が安全かつ快適に歩けるようにする」が16%(119人)の順に多い。

問15:今後のまちづくりにおいて、市民の皆さんと行政の関係はどうあるべきだと思いますか。

まちづくりは市民が主体となって進めるべきだと思う	26
まちづくりは市民と行政が良く話し合いながら進めていくべきだと思う	411
まちづくりは行政が行うべきだが、市民もできることから参加するべきだと思う	218
まちづくりは行政が主体となって進めるべきだと思う	35
その他	12
無回答・無効	60
合計	762

(その他の意見)

- ・まちづくりは行政、それを納得、理解につとめる(賛成する)市民だと思う。
- ・市民の意見を一番に取り入れるべきだと思う。
- ・まちづくりは行政と有能なデザイナー、専門家を中心に進めるべきだと思う。



○最も多いのが「まちづくりは市民と行政がよく話し合いながら進めていくべきだと思う」の54%(411人)

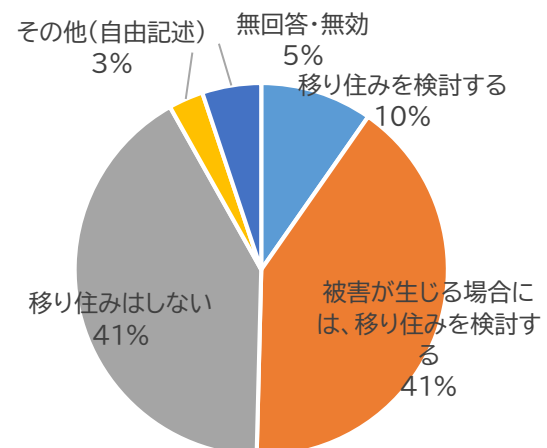
○次いで「まちづくりは行政が行うべきだが、市民もできることから参加するべきだと思う」が29%(218人)、「まちづくりは行政が主体となって進めるべきだと思う」が8%(35人)の順に多い。

問16. あなたのお住まいが災害リスクのある地区であった場合、移り住みを検討しますか。

移り住みを検討する	74
被害が生じる場合には、移り住みを検討する	310
移り住みはしない	316
その他(自由記述)	23
無回答・無効	39
合計	762

(その他の意見)

- ・持家ではないので、移住先を用意してくれれば検討する。
- ・その時になってみないと分からない。
- ・予想される被害の大きさによる。



○最も多いのが「移り住みはしない」41%(316人)

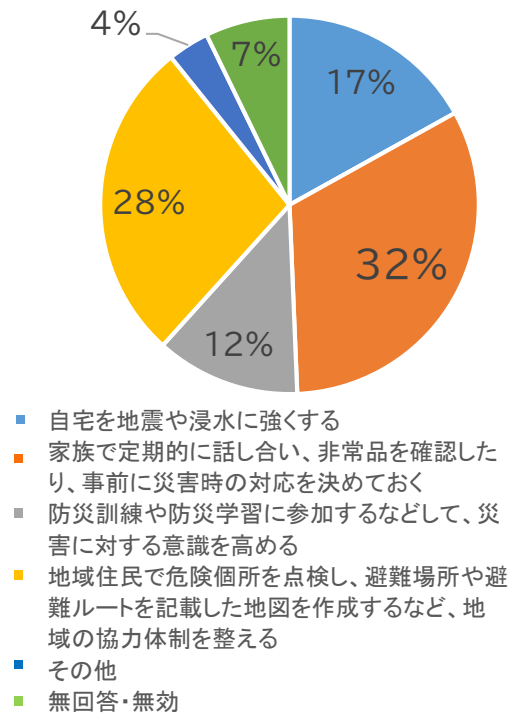
○次いで「被害が生じる場合には、移り住みを検討する」が41%(310人)、「移り住みを検討する」が10%(74人)の順に多い。

問17:災害に強いまちづくりを進めていく上では、市民の皆さんの取り組みが重要となってきます。災害を軽減するためには、どのようなことに取り組むべきだと考えますか。

自宅を地震や浸水に強くする	129
家族で定期的に話し合い、非常品を確認したり、事前に災害時の対応を決めておく	247
防災訓練や防災学習に参加するなどして、災害に対する意識を高める	94
地域住民で危険個所を点検し、避難場所や避難ルートを記載した地図を作成するなど、地域の協力体制を整える	210
その他	27
無回答・無効	55
合計	762

(その他の意見)

- ・橋、土手等、地震や浸水に耐えられるインフラ整備。
- ・災害時にいち早く市民に情報や避難等について伝えるしくみを整える。



○最も多いのが「家族で定期的に話し合い、非常品を確認したり、事前に災害時の対応を決めておく」の32%(247人)

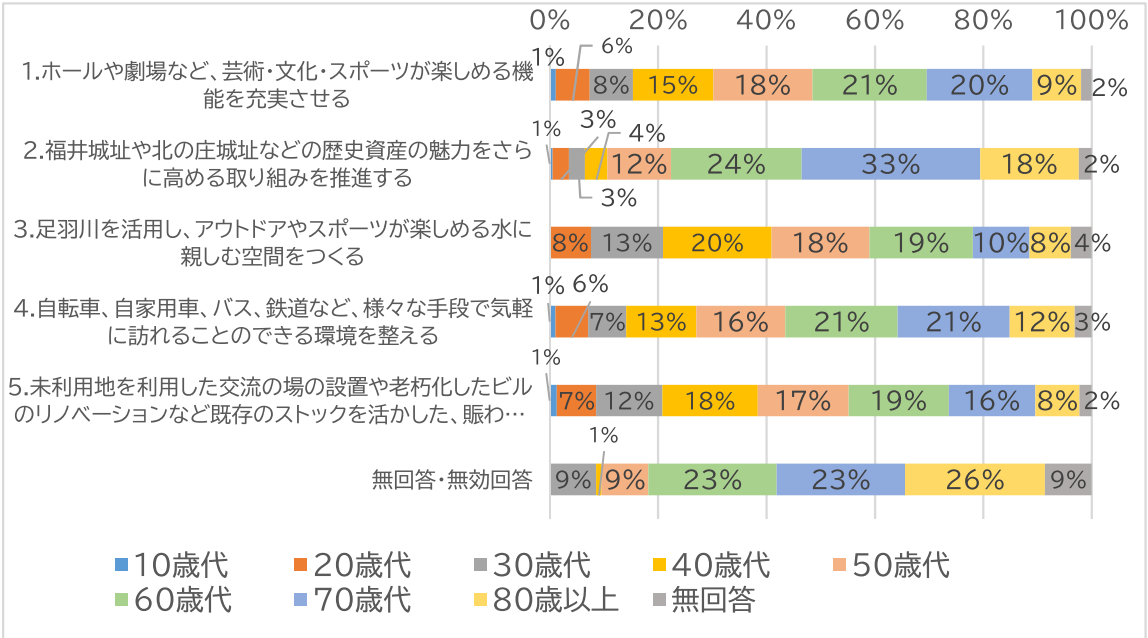
○次いで「地域住民で危険個所を点検し、避難場所や避難ルートを記載した地図を作成するなど、地域の協力体制を整える」が28%(210人)、「自宅を地震や浸水に強くする」が17%(129人)の順に多い。

3. 都市づくりに関するアンケート クロス集計結果

問12 JR福井駅を中心とした中心市街地において、福井市では、商業や文化機能を集積させるとともに、にぎわい創出にも取り組んできました。そのにぎわいを持続させるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は2つまで)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	総計
回答1	3	16	19	38	47	54	50	23	5	255
回答2	1	6	5	7	20	41	56	31	4	171
回答3		8	14	21	19	20	11	8	4	105
回答4	5	27	34	58	74	93	93	54	14	452
回答5	3	16	27	39	37	41	34	18	5	220
無回答・無効回答			4	1	4	11	11	12	4	47

回答数 1250

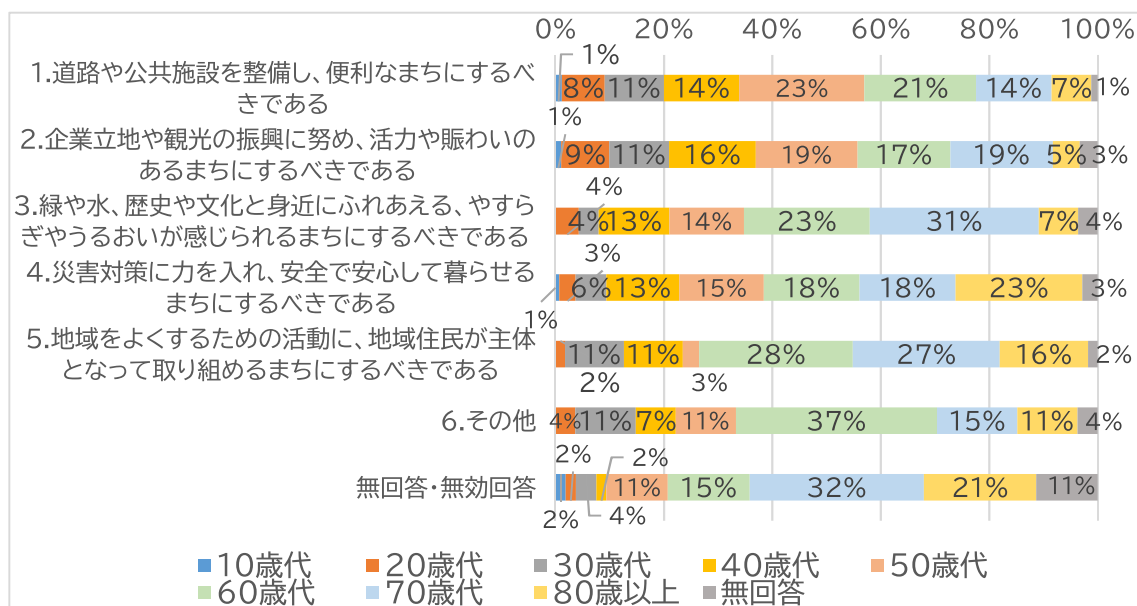


〇20歳代以下では「3.足羽川を活用し、アウトドアやスポーツが楽しめる水に親しむ空間を作る」と「5.未利用地を利用した交流の場の設置や老朽化したビルのリノベーションなど既存のストックを活かした、賑わい空間をつくる」がどちらも8%で最も割合が高い。
〇30～60代の割合が最も高いのは、「3.足羽川を活用し、アウトドアやスポーツが楽しめる水に親しむ空間を作る」で70%
〇70歳代以上の割合が最も高いのは「2.福井城址や北の庄城址などの歴史資産の魅力をさらに高める取り組みを推進する」で51%

問13 今後は市全体として主にどのようなまちづくりの方向に進むべだと考えますか。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	総計
回答1	2	13	18	22	38	34	23	12	2	164
回答2	2	16	20	29	34	31	33	9	6	180
回答3		6	5	18	19	33	43	10	5	139
回答4	1	5	8	19	22	25	25	33	4	142
回答5		1	6	6	2	16	15	9	1	56
6.その他		1	3	2	3	10	4	3	1	27
回答なし								1		1
無回答・無効回答	1	1	2	1	6	8	17	11	6	53

回答数 762



○20歳代以下の割合が最も高いのは、「2.企業立地や観光の振興に努め、活力や賑わいのあるまちにするべきである」で10%

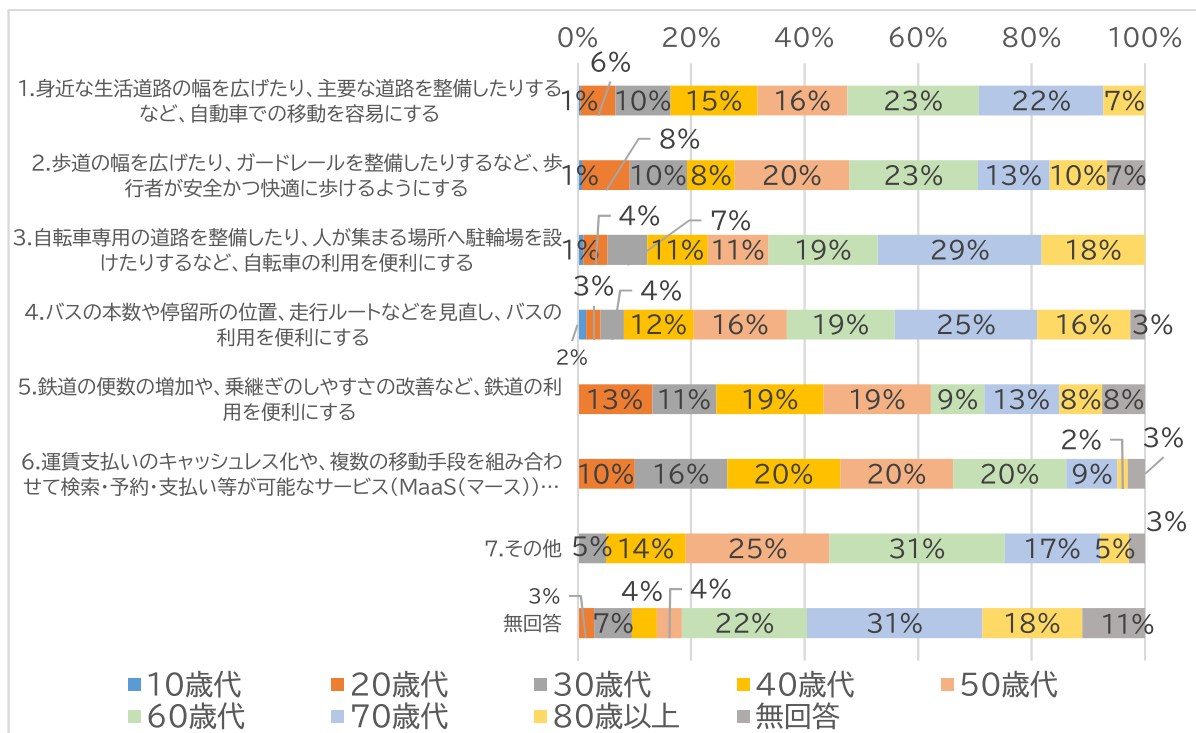
○30～60歳代の割合が最も高いのは、「1.道路や公共施設を整備し、便利なまちにするべきである」で69%

○70歳代以上の割合が最も高いのは、「5.地域をよくするための活動に、地域住民が主体となって取り組めるまちにするべきである」で43%

問14 交通対策について、今後、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	総計
回答1	1	10	16	25	26	38	36	12		164
回答2	1	10	12	10	24	27	15	12	8	119
回答3	1	4	6	10	10	18	27	17		93
回答4	3	5	8	24	32	37	50	32	5	196
回答5		7	6	10	10	5	7	4	4	53
回答6		6	9	11	11	11	5	1	2	56
7.その他			2	5	9	11	6	2	1	36
無回答		1	3	2	2	10	14	8	5	45

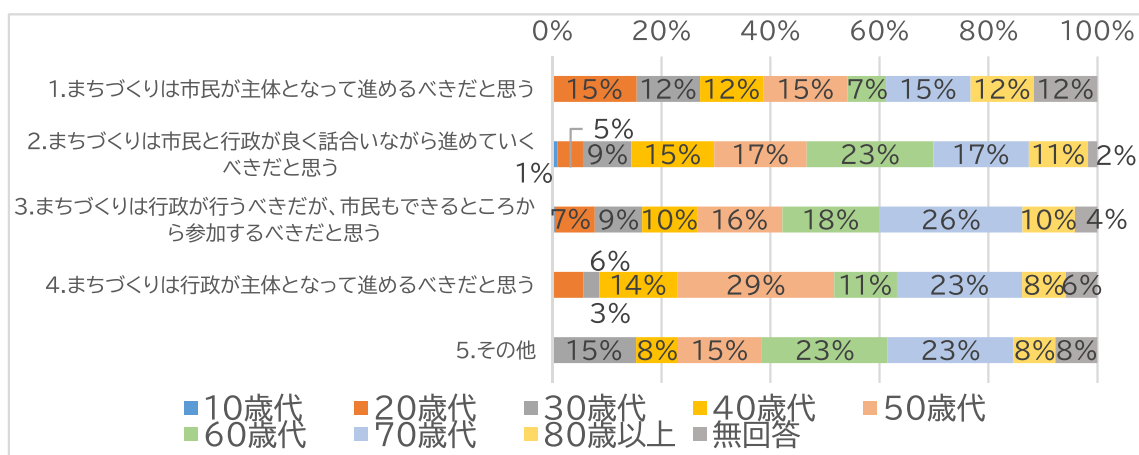
回答数 762



○20歳代以下、30～60歳代以下で最も割合が高いのは、「6.運賃支払いのキャッシュレス化や、複数の移動手段を組み合わせる検索・予約・支払い等が可能なサービスの導入など、ICT化を推進する」で、20歳代以下は10%、30～60歳代は76%
 ○70歳代以上の割合が最も高いのは、「3.自転車専用の道路を整備したり、人が集まる場所へ駐輪場を設けたりするなど、自転車の利用を便利にする」で47%

問15:今後のまちづくりにおいて、市民の皆さんと行政の関係はどうあるべきだと思いますか。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	総計
回答1		4	3	3	4	2	4	3	3	26
回答2	4	19	36	64	69	97	71	44	7	411
回答3	1	16	19	22	34	39	57	21	9	218
回答4		2	1	5	10	4	8	3	2	35
5.その他			2	1	2	3	3	1	1	13
無回答・無効回答	1	2	1	2	5	12	17	16	3	59
回答数										762

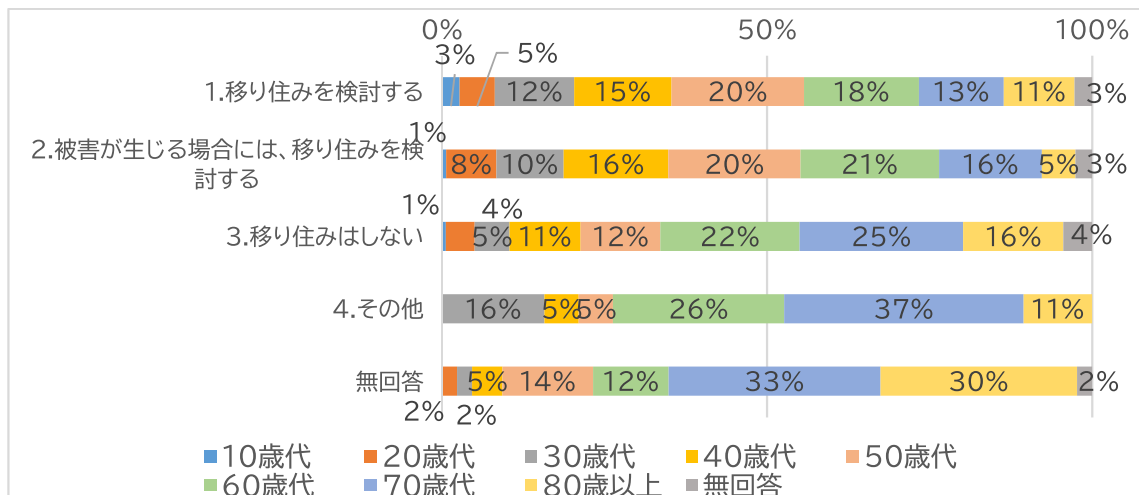


○20歳代以下の割合が最も高いのは、「1.まちづくりは市民が主体となって進めるべきだと思う」で15%
 ○30～60歳代の割合が最も高いのは、「2.まちづくりは市民と行政が良く話し合いながら進めていくべきだと思う」で64%
 ○70歳代以上の割合が最も高いのは、「3.まちづくりは行政が行うべきだが、市民もできることから参加するべきだと思う」で36%

問16. あなたのお住まいが災害リスクのある地区であった場合、移り住みを検討しますか。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	総計
移り住みを検討する	2	4	9	11	15	13	10	8	2	74
被害が生じる場合には、移り住みを検討する	2	24	32	50	63	66	49	16	8	310
移り住みはしない	2	14	17	33	39	68	80	49	14	316
その他			3	1	1	5	7	2		19
無回答		1	1	2	6	5	14	13	1	43

回答数 762



- 20歳代以下、30～60歳代以下で最も割合が高いのは、「2.被害が生じる場合には、移り住みを検討する」で、20歳代以下は9%、30～60歳代は67%
- 70歳代以上の割合が最も高いのは、「3.移り住みはしない」で41%

4. 中学生アンケート調査について

《調査の概要》

市民意識・意向調査（アンケート調査）について、対象年齢が18歳以上となっているが、将来を担う子ども達の意向も把握し、計画策定の参考にすることを目的とする。

1. 調査対象	福井市立中学校24校 2年生2,194人
2. 調査方法	インターネット(URLとQRコード)
3. 調査期間	R5年9月15日～10月6日
4. 回答数	1,844件 回収率84%

《設問の構成》

- ・福井市の好きなところについての設問（自由意見）を設けています。
- ・福井市のまちづくりの方向性について、意向を把握するため、まちづくりの方向性に関する設問を設けています。
- ・将来福井市に住み続けたいかどうか、またその理由についての設問を設けています。
- ・もし市長になったらどんなまちづくりをしたいかについて設問（自由意見）を設けています。

問1 あなたの中学校

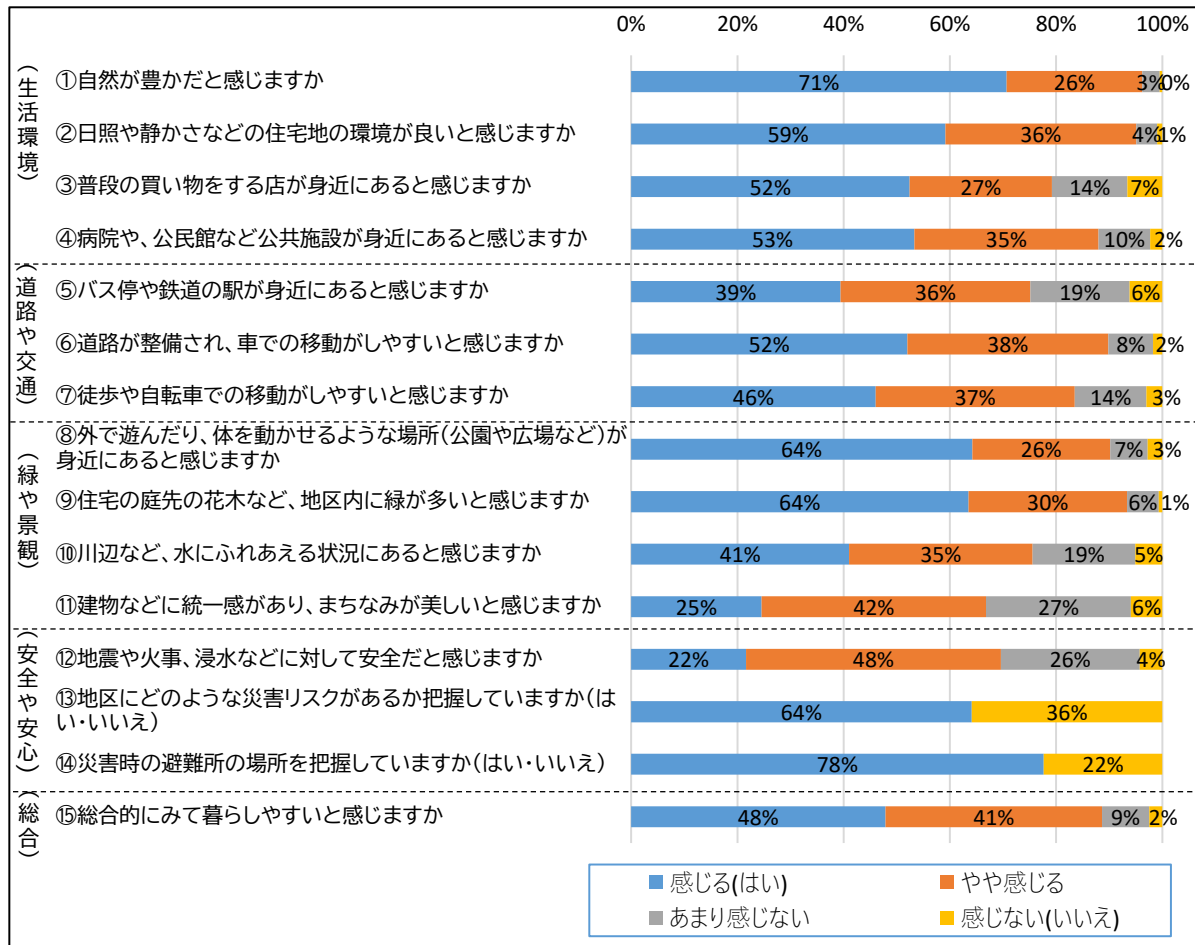
学校名	回答数	学校名	回答数	学校名	回答数
明倫中	151	至民中	113	足羽中	143
光陽中	118	国見中	2	足羽第一中	80
明道中	124	大東中	143	藤島中	66
進明中	110	殿下中	1	社中	145
成和中	153	川西中	41	美山中	22
安居中	19	桑中	7	越廼中	2
大安寺中	7	鷹巣中	15	清水中	70
灯明寺中	191	森田中	110	杉坂中	2
		不明	9	合計	1844

問2 あなたの「福井市のココが好き」を教えてください。

自然豊かなところ
おいしい食べ物
人が優しい
治安がいい、犯罪が少ないところ
駅前
公園が多い
ショッピングセンター
都会過ぎず、田舎過ぎず

あなたがお住まいになっている地区の状況について教えてください。

問3から問17 項目ごとに当てはまるところに○を付けてください。



(生活環境)

- 「感じる」、「やや感じる」の合計に着目すると、4項目全てで7割以上となっている。
- 「①自然の豊かさ」が最も高く97%、次いで「②住環境の良さ」が95%、「④公共施設の身近さ」が88%、「③普段の買い物をする店が身近にある」が79%順に高い。

(道路や交通)

- 「感じる」、「やや感じる」の合計に着目すると、3項目全てで7割以上となっている。
- 「⑥道路が整備され、車での移動がしやすい」が最も高く90%、次いで「⑦徒歩や自転車での移動のしやすさ」が83%、「⑤バス停や鉄道の駅の身近さ」が75%の順に高い。

(緑や景観)

- 「感じる」、「やや感じる」の合計に着目すると、4項目全てで6割以上となっている。
- 特に⑧と⑨については、9割を超える高い数字となっている。
- 「⑨住宅の庭先の草木など、区域内に緑が多い」が最も高く94%、次いで「⑧公園や広場などの身近さ」が90%、「⑩川辺など、水に触れあえる状況にあると感じる」が76%の順に多い。

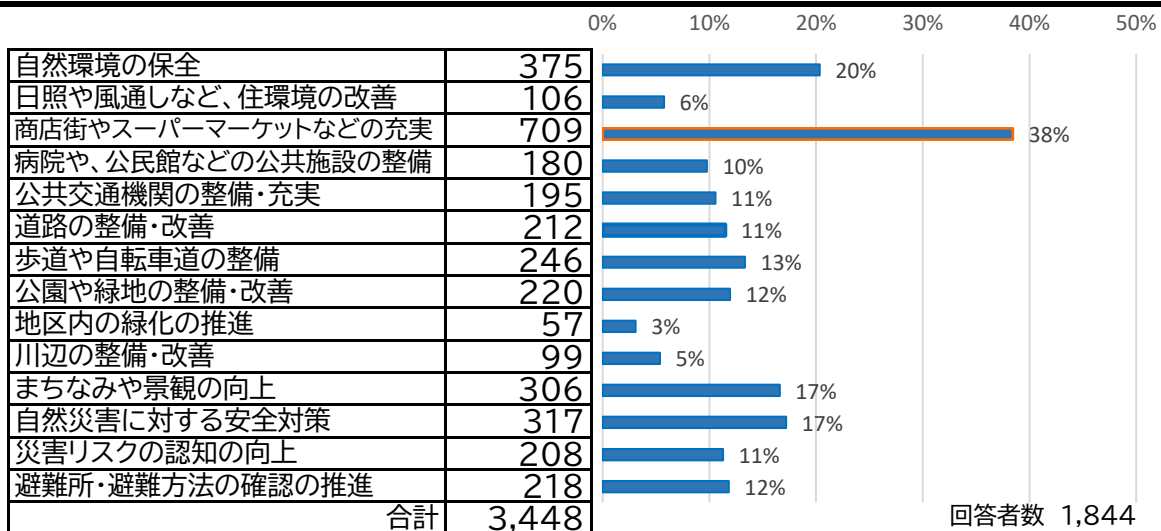
(安全や安心)

- 「⑫地震や火事、浸水などに対しての安心」は70%
- 「⑬地区内の災害リスクを把握している」は64%
- 「⑭災害時の避難場所を把握している」は78%

(総合)

- 「⑮総合的にみて暮らしやすいと感じる」は89%

問18 あなたのお住まいの地区で今後、特に取り組んでいくことが重要であると思われる点について、お聞かせください(〇は2つまで)

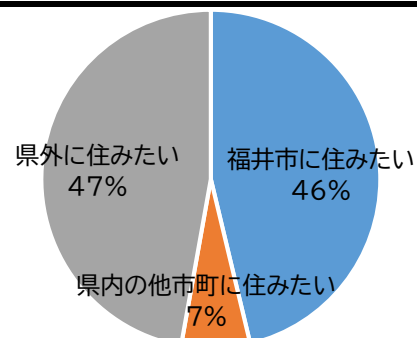


〇最も多いのが「商店街やスーパーマーケットなどの充実」の38%(709件)
 〇次いで、「自然環境の保全」の20%(375件)、「自然災害に対する安全対策」17%(317件)の順に多い。

今後の福井市について思うことを教えてください。

問19 あなたは、将来も福井市に住みたいと思いますか。

福井市に住みたい	853
県内の他市町に住みたい	121
県外に住みたい	870
合計	1,844



問20 問19の理由を教えてください。

福井市に住みたい

- ・住み慣れている・住みやすい・落ち着く
- ・自然が豊かだから
- ・安全・安心
- ・福井市が好き
- ・食

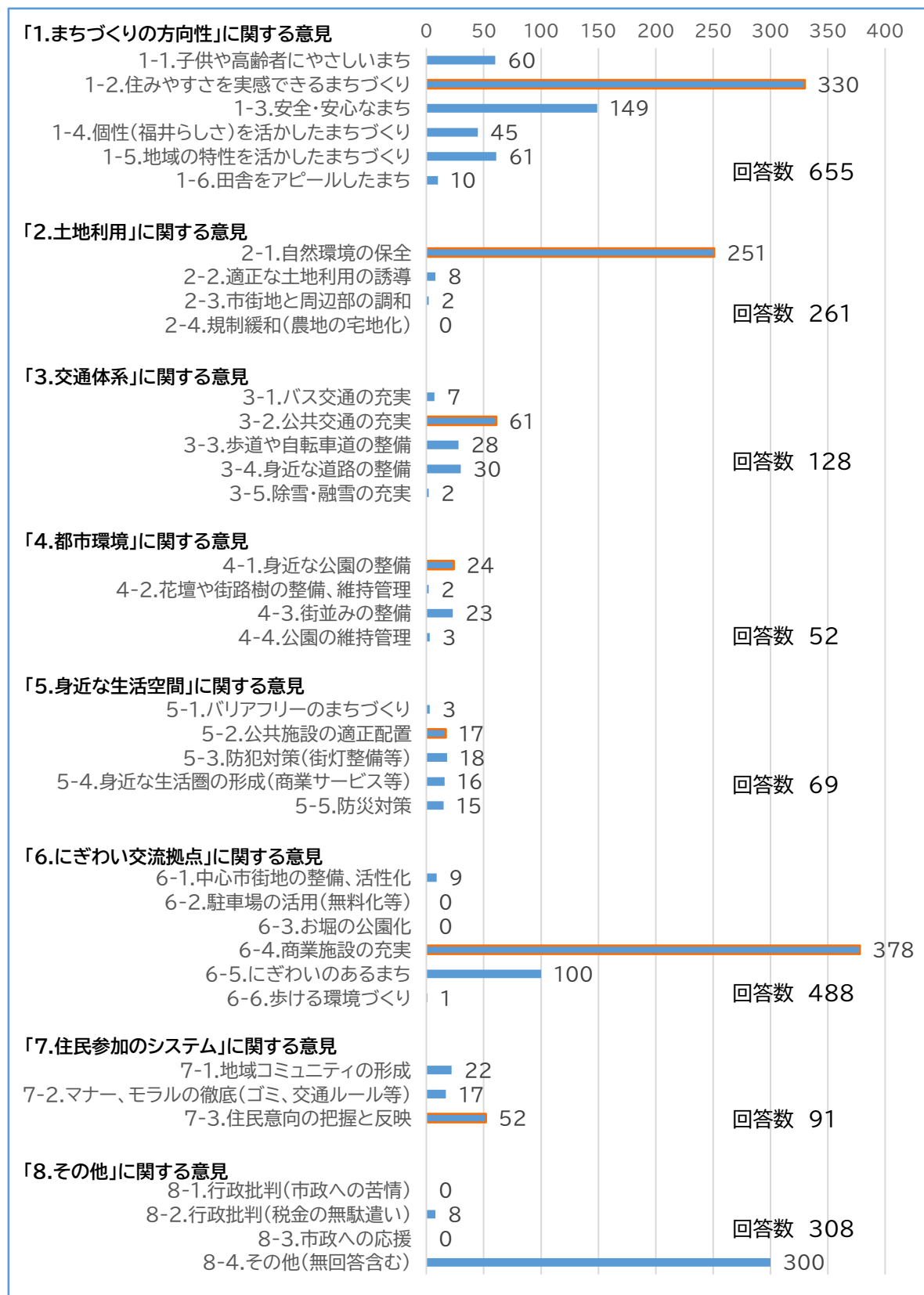
県外に住みたい

- ・他県への好奇心
- ・田舎だから(都会がいい)
- ・遊べる場所・店がないから
- ・進路(就職、スポーツ)
- ・交通の便が悪い
- ・生活しにくい
- ・魅力がない

市外に住みたい

- ・福井県の他の市も知ってみたいから
- ・自宅の周辺環境が不便だから(コンビニ、交通、災害の心配)
- ・同じ県内の他の市町に住むことで新しい発見や福井県の魅力を再発見できると思うから
- ・福井市より他の市町の方が東尋坊や海などのスポットが多いと感じるから
- ・春江はいっぱい店があるから
- ・越前市の方が街並みとかが良いから
- ・もう少し自然が多くて静かな所に住みたいから
- ・県外だと家族に会いにくいので 県内の他市町に住みたい

問21 あなたがもし市長になったら、どのようなまちづくりがしたいですか。



5. 意見・要望（都市づくりに関するアンケート）

「まちづくりの方向性」に関する意見

子どもや高齢者にやさしいまち（21件）

高齢化が進む未来なので 交通弱者に優しいまちづくりをお願いしたいです。
安心して子育てのできるまち。子供が多くなると、未来は先細りになっていってしまう。
子どもたちが安全に通学できる環境を整えたまちづくりを期待します。福井は車社会なので、自転車通学で学校に行くことに毎日心配してます。
私の住んでいる地区は、高齢化が進み、住宅が減り、駐車場があちこちに増えてきています。若い世帯が増え、子育てし易い環境があり、福井に多い3世代の世帯が増えるといいです。
一人暮らしの高齢者でも人とつながり楽しく暮らせるまちであって欲しいものです。

住みやすさを実感できるまちづくり（20件）

私が歩きたくなる街は、歴史を感じさせるものがきれいに整備されており、公共交通機関や車でのアクセスもよく、散策のほかショッピングや飲食も可能な地域である。
私が住み続けたい街は便利さと自然の共存している街です。
今後人口減少が著しくなるにつれて、過疎地へのライフラインの維持などは非常に大変になると思います。人の住む地域を集約させ、コンパクトで便利な街づくりを行なうことが将来的な市民の住みやすさや街への満足度に繋がるのではないかと思います。
農業地域に暮らす者として、商業地域や住宅地と比較し、交通インフラや暮らしの利便性に格差があると感じる。
今後住みやすい街にするためには、歩きやすい道、歩道の整備や公共交通機関の便や路線の増加、空き家、空き地など利用し小さな公園、広場を増やし、いこいの場所、休む場所、木陰を作るなど徒歩でも移動しやすい環境が整う必要があると思う。

安全・安心なまち（20件）

大雨などの水災害に強い町にしてほしい。
子供達だけで安全に遊べる場所(公園など)、犯罪が無いようにする。
災害に強いまちづくり、行政と市民の話し合いをしながら進めてほしい。
私が住み続けたい町は、年老いても安心して暮らせる街です。将来、車の免許を返納しても、近くにお店や医療機関がある。(近くにない場合は、そこまでの公共交通機関が充実している)そんなまちにしてほしいと思います。
災害に強いインフラを行政をお願いします。

個性（福井らしさ）を活かしたまちづくり（19件）

人口増は期待できない中で、コンパクトでやさしい福井らしさを出していくといいと思います。
どこにでもある地方都市を目指してもらいたくはない。
水や川に親しむまちづくりについて。足羽川や九頭竜川、日野川の上流は本当にきれいだと思います。また鷹巣の海なども美しいと思います。でも福井市民はあまり、海やキレイな川へ行かないように思います。バスで行くのも難しい(値段的にも便数的にも、泳ぐスポットからのバス停の距離的にも)し、行った先に、シャワーや休むところがあるわけではないので、行きにくいです。市内中心部の足羽川は整備も大切ですが、同じ福井市として、美山や越前海岸方面の開発もしてほしいです。そうでないと、福井市にも海や川があるのに、県内外の人は海や川のレジャーに池田町や嶺南の海に流れてしまうと思います。
福井の町に帰ってきたらホッとすると、いつも思っていました。人込みや騒音は都会にまかせて、福井らしさを、良さを高めて自然の美しさ、人の良さ、落ち着ける場所であって欲しい。
新幹線が開通し、他県からの観光客が増えると思います。TVでも福井市の朝倉遺跡など再々取り上げられています。福井城址など歴史に深い史跡があります。歴史に興味深い方はたくさんおられます。もっともっと深掘して歴史のまちにしてはどうでしょうか。

地域の特性を活かしたまちづくり （５件）

歴史や文化、自然が感じられる町並み。
石川、富山、岐阜などの近郊県と比べて海外国内含め観光客を誘引できていないように感じる。スキー、サーフィン、川など自然系のアクティビティを奨励して欲しい。
ここに来たらこれがある。ここに来たらあれがある。その地区、地域、の色をもっと出していいといい。今週はあそこに行こう。次はあそこに行こう。福井県内でも行きたい場所が多くできるといいと思う。

田舎をアピールしたまち （３件）

越前市、鯖江市、など方向性をしっかり考えたまちづくりによって整っていく様を見ていると、福井市は本当に魅力のない市だと痛感します。都会を目指すのではなく、田舎らしいあたたかいまちづくりをお願いします。
世界中に災害が起こり、電気代や税金が上がり、精神的に追い込まれるような事ばかりが起こる「今」だからこそ、都会を真似てビルを建てると言うよりは、自然を大切に共存し調和する街づくりをして欲しいです。

「土地利用」に関する意見

自然環境の保全 （２件）

地球にやさしいまちづくり。自然環境の保全。ZEH 住宅（省エネ）。電気自動車の推進、普及。（CO2 削減）

適正な土地利用の誘導 （２件）

高齢化もさることながらここ近年空き家が非常に増えてきている。ここ 10 年以内に半数近くが空き家になるのではと…。子供の声がしない田舎になっている。
地区毎に、法律に関係なくゾーニングを考えてみたらいいのでは。

市街地と周辺部の調和 （１件）

現在の市街化区域外の山地や農地で住宅地に適した土地は住宅地として利用して、市街化区域、調整区域が共に繁栄して、災害に強いまちづくりをお願い致します。
--

「交通体系」に関する意見

バス交通の充実 （１８件）

各駅へのアクセスが悪く、公共交通機関が使いづらい。バス代が高すぎる
毎日子の送迎などで必要で、あまりにも不便です。バスや電車の増便を望みます。特に灯明寺地区は東西を結ぶ路線がなく不便。老後は運転が出来なくなる懸念があり、都心への転居を予定しています。
バス停も近くになく、スマイルバスに乗りたくても近くを通ってくれないため大分歩いてバス停まで行かなくてはならず不便です。
交通機関(バス)の路線の見直しをして欲しい。
病院や駅前に小さなバスで便利良く行けるようお願い致します。

公共交通の充実 （３５件）

車社会からの脱却が必要と感じます。自宅から徒歩圏内では最寄駅にすら行くことが難しく結局車で向かいます。最寄りの無人駅には駐車場がないため家族の送り迎えが必要です。
電車、バス、JR、どれも停留所が遠くてどこへ行くにも車で行くしか出来ない。年を取り、歩くのも大変だし、この先車の運転が出来なくなったら、どうすればいいのか考えています。

公共交通機関の充実を進めて頂きたいです。
高齢者が増えることから、高齢者が安心して生活できるように買い物が出来る場所、医療機関を集約して居住地からの公共交通機関を充実させる。
私が住み続けたいまちは、車を使わなくても便利に色々な場所へ行けるまち。福井は車がないととても住みづらいです。高齢になり、免許を返納したあと、外出出来ない方を良く見かけます。もっと健全なまち、車がなくても外出したくなるまちづくりを是非ご検討頂ければと思います。よろしくお願い致します。

徒歩や自転車道の整備 （１１件）

自転車、ベビーカーで移動中歩道の段差が気になる。衝撃がかなりある。もっと段差をなくしてほしい。
小学校周辺だけでも歩道をしっかり作ると良いと思います。
誰でもが安心して歩ける歩道作りを進めてください。
自転車と人が通りやすい歩道の幅を楽に通れるように整備してほしい。自動車道路の右折ラインのない交差点は作ってほしい。

身近な道路の整備 （２４件）

福井の道作りが良くないです。金沢のように、どこからでも繋がるように作るべきです。福井は８号以外の道が全て微妙です。なので８号沿いがすごく混むし、流れが悪い。循環道路など増やすべきです。
ガードレールがない道路も多く、子どもが歩くには危険な歩道が多々見られる。
道路のでこぼこが多いと歩く人も自転車や車も、不便です。横断歩道の線など消えてしまって、見えない所もあります。基本的なことをきちんと整備したうえで出かけたくなる街づくりをお願いします。
自動車での移動が主なため、交通量が多いのに狭い道路は改善してほしい。また、積雪に備える点でも、道路は整備して欲しい。

除雪・融雪の充実 （１８件）

特に福井の冬期の対策を考慮して行くべきと考えます。例えば、社西地区のことを述べさせてもらおうと、市内バスのルートくらいは融雪路線を早急に行って頂きたい。バスが雪による渋滞の原因ってダメでしょ。
雪害対策に力を入れて欲しいです。道路などが未だ傷んでいるのが気になります。生活や経済面のインフラがストップしてしまうのが一番問題かと思います。
大雪でバスが通れなかったり、除雪が進まなかったりと過去にありました。大きい病院の道路、バスが通る道路には融雪装置を設置するなどをして、雪に強い福井市にして欲しいです。
積雪の多い時に車道の除雪もだが、歩道の除雪がされていれば住みやすい。
特に冬が嫌い、雪が苦痛。福井市の除雪は他市町村より下手であると思う。憂鬱になる。雪があっても行動し易い、気分がアップするようなまちであつたなら辛い冬も何とか過ごせるのでは？

「都市環境」に関する意見

身近な公園の整備 （６件）

コロナ禍が緩和し、子供達が十分に外で遊べる場所、公園などが充実してくるとまちも自然と活性化されるのではないかと思います。人との関わりが寸断されてしまった子供達により良い環境を作ってあげられるといいなと思います。
福井には小規模の公園は多数あるが、森のような自然いっぱいの公園は、東京のように街中にはないので、あったらとてもいいなと思う。
この地区は新しい住宅が増えてしましますが、それといっしょに緑化も進めていったら良いと思います。公園にも低木や高木を多めに植えてほしい。
きれいな公園ができると楽しいと思います。

花壇や街路樹の整備、維持管理 （6件）

花が好きなので散歩しながら見て楽しんでいます。
住み続けるために街路樹は落葉の事や害虫の事も考えて植えて欲しいです。
お花がもっとあると、歩いていても癒されます。プランターでよいので、市民にも呼び掛けて協力すると良い。
緑の多い街になると良いと思います。

街並みの整備 （3件）

空き家をそのままにしておくと景観的に悪いと思います。
私が住みたくなるまちは歴史ある箇所の整備、散策などが容易に出来、公園等で安全に休憩が獲れる環境が充実することです。幸い自然環境は恵まれているので、住んでいるまちを知り、一緒に共存できるようなまちであると良いと思います。

公園の維持管理 （1件）

小さい子がいるので公園の草木の手入れ、遊具の整備をこまめにしてください。他にも雨の日や暑い日にも遊べる室内遊び場があれば嬉しいです。
--

「身近な生活空間」に関する意見

公共施設の適正配置 （8件）

地区の保育園も閉園し、中学校は生徒数六名です。潤いも何もない地区です。もうどうしようもないと思うのですがせめて小中で合併できないかと思っています。
公民館や避難所が遠いです。もっと身近にあると良いと思います。
文化の為の施設が少ない。

防犯対策（街頭整備等） （6件）

街灯がなく夜間に暗くて危ない箇所が複数あるので、それらの場所に街灯を設置して欲しいです。
夜間、街灯が少なく徒歩移動に危険性を感じるため、車移動が多くなる。
福井は美しくて住みやすいという事ですが、いくつもの県に住んでみて思う事は、福井は歩道と街灯がとても少ないということです。安全で住みやすく、どんどん歩きたくなるようなまちにするため、是非歩道と街灯を増やして下さい。

身近な生活圏の形成（商業サービス等） （12件）

私の住んでいる地区は自然豊かで良い所なのですが、車がないと不便な所です。私が将来免許返納したら買い物、病院、レジャー施設などの訪問が困難になると思います。現在も不便を感じて高齢になっても車を手放せない方は沢山いらっしゃると思います。近くに徒歩で行けるショッピングセンターでもあれば便利だろうと思います。
自転車・徒歩圏内にスーパーがある所に住みたい。
夫婦が高齢になり、自転車で食料品を買う為のお店がなく、今年免許を返納して今日現在一番困っています。日常生活をするには非常に不便なまちになってしまい、出来ればスーパーマーケットが近くにある処に移りたいと思っています。
身近に散歩が出来るコースが欲しい。
私が住みたいまちは、日常の買い物など、生活に必要なものが歩いて行ける範囲にある便利なまち。

防災対策（9件）

防災訓練への参加率が低いと思います。本当に全員が参加しなければ、災害が起こったときに、みんな同じ動きができないと思います。みんな同じ認識で同じ行動ができないと、渋滞を引き起こしたり、買い占めが起こったり、災害以外の二次災害が起こると思います。東日本大震災を東京で経験しましたが、計画停電が起こった時や、みんながスマホや携帯が不通になったとき、流通がストップしたときに、どう動くのかを練習したほうがいいと思います。足羽川の氾濫、大雪など地震以外にも生活がストップすることが多くなると思うので、全員(または半数以上)が参加するような大規模訓練をするべきだと思います。子供だけ、公務員や高齢者だけではなく、日中働いている人、外国人の方、あらゆる生活タイプの人が参加することで、実際に起こる不都合がわかると思います。
大雨が降るとすぐ浸水する。非常に困る。アンダーパス等排水をもっと考えてほしい。
私は障害があるため、日常での不都合が生じる。災害においては、共助、公助に頼らざるを得ない。自助も含めそれらの対策の備えを重要と考える。
豪雨の恐怖を日々感じています。福井豪雨以来2020年から特に豪雨の回数が増えて、私が住んでいる西木田地区は水かさが増して膝上までも何度もあります。ポンプ場のことはもちろんですが雨水の排出力を強くしてほしいです。家族でもいろいろ対策していますが長く住み続けるために、若い人もこの地区に住みたくなるまちづくりのためによろしくお願いします。

「にぎわい交流拠点」に関する意見

中心市街地の整備、活性化（22件）

駅前地使用してない店などをもっと活用して行きたくなるようにしてほしい。
2024年3月福井に新幹線が開通しますが、福井市は福井の中心ではあるが、いまひとつ魅力が無いのではないのでしょうか。開発は途中ではありますが、今後は行政と市民が一体となり、きれいな居心地がいい街並みを目指してほしいと思います。最近旅行に県外に出掛けた時に、商店街がとてもきれいだと感じました。
商業施設・娯楽施設の充実も大切ですが、計画性と統率性の調和の取れたまちづくりをして欲しい。ともすれば経済性の追及が中心となりがちに見える。無駄でも自然や水、緑が散りばめられた福井市になってほしい。
福井城など歴史のあるものをもっと活用してきちんと観光客の来たい街並みにすべき(高山市などを参考に)土地の賃貸料を安くしてデモ店の誘致を。はっきり言って県外の人々がっかりする駅前です。北の庄、朝倉等歴史があるものもあるのに、全然活かされていない。おしゃれな感じにすると若者も来る。
車以外での交通の便が悪すぎるため、駅前行こうという気持ちも無く、今ビルを建てているが、市民が望んだものなのか？若者は特に駅前行くことがない。やることもない。活気もなくなる。良いことはなのではないか？車で行っても駐車料金がかかり、わざわざ行くことがない20代です。若者の意見も聞いたらいいと思いました。
駅周辺がすごく素敵になっていて、駅へ行く回数が増えました。素敵になっていてありがとうございます。

駐車場の活用（無料化等）（14件）

福井駅に乗降スペースをもっと作って欲しい。列車到着時間になると混み合い不便である。
駅周辺の無料駐車場の整備。
駅前周辺の駐車場がもう少しあるといいなと思います。中央公園もきれいに整備されましたが、周辺住民しか利用されていないため、市民が行きやすい環境になるといいと思います。大人がゆったり、のんびりできる空間がもっとあると嬉しいです。

商業機能の充実（28件）

もっと若者が喜びそうなショップができればいいと思います。
福井の文化だけでは、今後の集客には繋がらないと思います。もっと都会を参考にして、新しい事に挑戦すべきだと感じています。アオッサの一階も閑散としており、不安を感じています。これからの日本を担っていく若者が、福井の駅前行が楽しい！！と思えるような店舗を構える等、検討してもらいたいです。福井の歴史、文化も大事ですが、それだけでは街の活性化には繋がらないと思います。

県外の方から福井駅周辺でおすすめのお店を聞かれたが、返答に困った。
福井駅前に遊びに行っても、西武・ロフトぐらいしか買い物する所が無いように思います。素敵な生活雑貨が買い物出来るようにおしゃれな店が増えたらいいなと思いました。
駅前周辺がもっと魅力のある街並みになって欲しいと思います。バスで出掛けてみようと思っても、行きたいと思う場所がない。どんどん駅前周辺が寂れてしまつてとても残念です。色々なお店があると良いのですが。

にぎわいのあるまち （20件）

20代、10代の意見を大いに取り入れ、若者が元気で楽しく生活できる街に魅力を感じる。若者に活気があると、年配の方々も元気になると思う。
市民が一体となって盛り上がるものが少ないのでプロスポーツチームとより連携していただきたい(スタジアム・アリーナ・練習場整備など)。
郊外の大型ショッピングセンターには人が物凄く集まる。新幹線で観光客が来ても駅前には閑散としていて活気も賑やかさや魅力がない。これでは、首都圏からお客さんが来ても長続きはしない。やはり、金沢のように駅前や駅近辺に魅力的なものがないといけない。
謎解きミステリーなど、街の要所をめぐりながら、クリアして、ふるさと品などがもらえるイベントがあれば、地元をゆっくり回ってみようと思えます。
県内外の人が集合するような芸術、スポーツの施設を建てた方が良いと思います。

歩ける環境づくり （5件）

河川敷の整備をして、サイクリングや散歩 ジョギングなどできると良いと思います。
緑が多く囲まれた所を散歩出来たり、ドックランがある等、車を気にせず歩行者天国みたいに出来たらいいかな。

福井城址 （6件）

福井には立派な石垣も壕もあるのにお城が無いのは残念しいです。
県の顔と言わべきお堀内を市民に提供出来ないのなら駅前に賑わいは戻らないと思います。
県庁のある所に福井城を作って欲しい。桜の咲くころ県外の人が集まるのでは。

「住民参加システム」に関する意見

地域コミュニティの形成 （15件）

強制ではなく誰もがまちづくりに参加したいと思うような雰囲気も大切だと思います。
私達が40才～50才のころ、地区で色々な行事が行われた時、中心になってみんなで協力して頑張ってきた。現在は婦人会もなくなり、町内の行事に参加する人が少なくなり残念です。若い人の考えが変わることを祈るばかりです。
市に頼らずまず自分達が動かなければいけないと思います。まず、その為には、地域の行事に参加して、地区の人たちと仲良くなり、情が移ること！そうすれば助け合いの精神が生まれると思います。自分のまちを好きになる事、そうすれば何でも頑張れます。
高齢者の集う場所がありません。何となく休みたい、誰かと話したいと思うことがあるのですがつい出不精になっています。

マナー、モラルの徹底（ゴミ、交通ルール等） （6件）

公園のごみ捨てができないように一人一人が持ち帰る。
街をきれいに！ゴミをなくす、落とさない、拾う！
福井市はゴミのポイ捨てが異常に多い、歩道に雑草、ゴミがある、交通ルール無視多すぎる。スーパーも選べな

い、遠い等々住みにくいと感じる。多少古い町並みでもきれいで、安全で買い物しやすければ人は定住すると思う。

住民意向の把握と反映 （５件）

このようなアンケートは継続して、様々な施策に活かしていただきたい。市民は、回答することでまちづくりに参加している感じになり、行政との距離が縮まると思う。結果、一定の信頼関係が醸成されれば、それが「住みやすいまち」につながるのではないのでしょうか。

市民委員会を設置し、多様な意見を集約し市政に反映していくべき。

高校生や大学生がまちづくりに参加できたり、話し合いができる場をふやしていけたら、若い意見を取り入れられるので良いのではないかと思います。

「その他」に関する意見

行政批判（市政への苦情） （１８件）

従来は箱物建設主体のまちづくりをしてきているが、その方向性を改めるべき時期。また、JR 福井駅周辺に集中しすぎではないか。

まちの中心に体育館等がなくても郊外に持って行っても良かったのではないかと思います。

そもそも公務員というものは日頃は皆様方の税金を糧としてお仕事をしていますので、ひとたび町内の役員などに選出して一般市民の為に奉仕、福祉、感謝の心で尽くしていただきたいと思います。

行政批判（税金の無駄遣い） （２件）

本当に必要な場所は工事せず、後でも良い所を先に工事しているように思う。税金の無駄遣いと感じる。福井を良くしたいと思うのであれば、住民の声を取り入れ、税金の無駄遣いはしないでほしい。予算の内訳を公表するなどし、住民の理解を得たうえで物事を進めていただきたいと思います。

市政への応援 （１０件）

私的には今の環境は満足しております。ありがとうございます。福井は観光する所もたくさんあると思います。もっと PR すると福井に来られる方も増えると思います。

福井は、私にとって良い所です。

旭地区は中心部に近く、いろんな面で便利だと思いますが、アンケートに書かれていることはどれも重要なことばかりで○印をつけがたいです。これからも、福井市の街づくりのため、ご健闘されることをお願いします。感謝。

その他 （１７件）

地域の為の活性化と考えR158 フラワーロードの花の推進員をしていて国道を通る皆さんの心が和んで下さればと思って活動しています。

無理に変化を求める必要性は無いと思います。

市がされている取り組みが何かは分かりません。教えてほしい。

私は田舎に住む高齢者なので、まちづくりと言われても??

6. 意見・要望（中学生アンケート）

「まちづくりの方向性」に関する意見

子どもや高齢者にやさしいまち（60件）

年齢が小さい子供や高齢者まで、誰とでも触れ合えるような街づくりをしたい。
どの年齢層でものびのびと暮らせる街づくりがたい。
子供が生き生きと暮らせるようにすると、子供を育てやすい環境にするまちづくり。
お年寄りからこどもまでに好かれる市にする。
どの校区にも、子供が楽しめる場所を置き、安全に楽しめるようにしたいです。

住みやすさを実感できるまちづくり（330件）

人から愛される街にしたい。
みんなが笑顔で元気に過ごせる町。
移住者を増やすまちづくりと地元の人が地元を好きになれるようなまちづくり。
一度住んだら引越しを考えなくなるほど居心地のいい町作りたい。
小さい子から大人、高齢者という幅広い世代の人たちが誇れる、ずっと住み続けたいと感じる街づくりをしたい。
みんなが『福井が好き！』って言えるようなまちづくりがしたい。
福井市に住んでる人が、将来、福井にずっと住んでいたい、福井県に住んでみたいと思われるようなまちづくりをしたい。

安全・安心なまち（147件）

安心安全で誰もが落ち着いて楽しく過ごせるようなまちづくり。
皆が、災害などに困らない様な街づくりにして行きたいなと思います。災害などで、停電・断水などが発生しても、すぐに対応が出来る様な、福井市にしていきたいと思います。
いじめがなくて平和なまちづくり。
みんなが安心して暮らせるような、事故の少ない町にしたい。
安心安全で、みんなが自分らしく生きられるようなまちづくり。
平和で事件などが起こらないみんなが平等なまち。
交通事故が日本で1番少ないような町を目指したいです。

個性（福井らしさ）を活かしたまちづくり（45件）

福井の良さを県外の人にPRして観光客が増えるようなまちづくりをしたい。
お米が美味しいことたくさんの人に知ってもらおう。
あんまり発展させすぎないで、都会にはない福井ならではの事をもっとアピールする。
福井にしか無いものをたくさん作る。
福井に残る名所や自然豊かな場所を残して、もっと県外の人や海外の人が来てくれるようにPRする。

地域の特性を活かしたまちづくり（61件）

遺跡とかしっかりそのまま残して観光客とか増やしたり住みやすいような環境にしたい。
福井市の伝統的な文化を守り抜いていきたい。
観光スポットとなるところを増やしたい。
魅力ある建物やお祭り、観光スポットなどを作り観光客を増加させる。

福井の昔ながらや今の良いところを継続させながら、新しくさまざまなことを試し、取り入れる。
福井県には多くの歴史がありその中で福井市の歴史を広めていきたい。

田舎をアピールしたまち （１０件）

福井市などの田舎と呼ばれるところは空気が美味なのが売りだからもっと空気が美味になる街づくりをしたいです。
植林などの自然を増やす。←をアピールポイントにする
農業や漁業などの支援制度の見直し、福井市の PR をどんどんしていく。
田舎感を押し出す街並みをつくる。ビルというよりかは城下町みたいな感じの「日本」の雰囲気を残していきたい。観光客向けのやつ。
住みやすさを全国にアピールする。

「土地利用」に関する意見

自然環境の保全 （２５１件）

自然豊かで、どんな人でも住みやすい環境のまちをつくりたい。
森林の見栄えを暗い感じではなく、いい印象を持てる森林にする。
最近家の近くの田んぼが住宅地に変わっているから田んぼを残していきたい。
自然環境がしっかりと保全されていて自然が身近に感じれる街。昔ながらの物を大切にできる街。
住むのに便利で、自然の豊かさも残っているような暮らしやすさと自然を大切にしたまちづくりをしたい。

適正な土地利用の誘導 （８件）

もう使われていないビルや建物をリフォームして、最先端の建物を作る。
使っていない建物の取り壊し。

市街地と周辺部の調和 （２件）

発達しているところと、自然豊かなところを分ける。
自然と街の一体感を心掛ける。

「交通体系」に関する意見

バス交通の充実 （７件）

駅周辺だけにバス停などを作るのではなくエルパなどの買い物がきがるに出来る所にバス停を作る。
車を使わなくてもいろいろなところに行けるようにバスをたくさん通るようにする。子供だけでも移動できるようにする。
もっとバスの運行を増やす。
福井専用の観光バスをつくる。

公共交通の充実 （６１件）

福井市内の路面電車を増やして、学生が過ごしやすくしたい。
福井に IC カードを普及させる。

交通機関をさらに充実させ、誰でも簡単にどこにでも行けるようなまちをつくりたい。
地下鉄つくって交通をよくする。
県外への移動手段を充実させる。

徒歩や自転車道の整備 （２８件）

道路や歩道がガタガタしていて自転車に乗っていると特にそれを感じるので僕が市長になったら、道路や歩道を自転車でも自動車でも通しやすいものにしたいです。
小さい子供やお年寄りまでが安心して歩くことができるように歩くところに木などの緑を多くして、歩きやすいように歩道を整備する。
道路とかをもっときれいに整備して車も自転車も徒歩も安全で楽に通れるようにしたい。（今の福井は道路が狭い）
登校するときの道がとても狭くて、２列並べるのがやっとなので、もっと道路を広くしたい。
小さな道路も人が安全に歩ける様に整備したい。

身近な道路の整備 （３１件）

道路を整備して、河川などの堤防を高くしたい。
道路の整備をしたい。信号機をつけたい。
道が細く車で移動しにくい場所があることを改善したい。また、信号が無く通るのが困難な道があることを改善したい。
道路の整備などをして移動しやすいまちづくりをしたい。
道を滑らかにする。

除雪・融雪の充実 （１件）

毎年来る雪害対策を設ける

「都市環境」に関する意見

身近な公園の整備 （２４件）

子供達が楽しく遊べるように、公園などの遊ぶところをつくる。
一つ一つの地区に大きい公園を作りたい。
公園に水で遊べるところを作る。
公園でサッカーができるようにしたい
公園など、子供と親と一緒に遊べる場所を作りたい。

花壇や街路樹の整備、維持管理 （２件）

大きな道路に街路樹がきれいなまち。仙台みたいな。
綺麗なお花などを植えたい

街並みの整備 （２３件）

統一感のある街並みを目指したい。
自然の豊かさを保ちいい綺麗な街並みにする。
住みやすく、町並みや景観が美しい街づくり

公園の維持管理 （３件）

公園のトイレが汚くて、使おうと思っても使えないので、新しくたい。

公園とかの草がたくさん生えているところを整備したり、木の根っこで盛り上がっている地面を整備したいです。

「身近な生活空間」に関する意見

バリアフリーのまちづくり （３件）

バリアフリーな環境作りをしたい。

福利厚生がいい町・福祉になっている町

公共施設の適正配置 （１７件）

公共の施設をきれいにしたい。

子供達の将来を考えて、色々な分野の専門学校を建設したい。

室内での体を動かせる施設が少ないので作りたいたです。

公園や図書館などの増設。

防犯対策（街頭整備等） （１８件）

不審者対策をする。

もうちょっと道に電灯を増やして夜を歩いてても怖くない。

安全な町がいいから、ミラーとかを、もっと取り付ける。

犯罪などが一切無い、みんなが安心して暮らせるまちにしたい

身近な生活圏の形成（商業サービス等） （１６件）

近くにお店がある街づくり。

もう少し病院が身近にある存在にしたいです。

防災対策 （１５件）

災害のために色々各地域で準備・備えをする。

自分の住んでる地区の災害のリスクを知ってもらう。

避難所などの確認をしてもらうよう呼びかける。

「にぎわい交流拠点」に関する意見

中心市街地の整備、活性化 （９件）

福井駅周辺に店をたくさん置く

駅前や駅前周辺をもっと綺麗に整備する

駅前を発展させる。駅前付近にもっと人が集まり、住みたくなるような環境やものをつくる。

商業機能の充実（３７８件）

エルパのような大型ショッピングモールや、大きなライブ会場を作り、福井県内や周りの県などの身近なところからの観光客を増やす取り組みをしたい。
色々な商業施設を建てにぎやかな街にしたい。
食べ歩きができる場所をつくる。
小さい子でも安全に楽しく遊べる場所や、大人などが買い物を楽しめる場所をもっと作りたい。
もう少し遊べる場所やショッピングセンターを増やす。
イオンモールやラウンドワン、IKEA など、他県にあるお店を福井市にも建てたい。
子供達が雨の日でも楽しめるようなものを作りたい。

にぎわいのあるまち（１００件）

観光客を増やして、活気のある町づくりをしたい。
都会のような活気溢れるようにしたい。
まちを活性化するために全世代が楽しめるイベントやアピールをする。
地域の人と関わることができる祭りを開催してみる。福井県の美味しい食べ物が食べられるフェスをハピリンなど、人の多いところで行う。
脱・田舎を目指す。

歩ける環境づくり（１件）

街を歩きやすくする。

「住民参加システム」に関する意見

地域コミュニティの形成（２２件）

地域の人と触れ合えるような場をつくって、交流できるようにしたい。
地区の行事などに積極的に取り組めるまちづくりがしたいです。
福井市の人たちが簡単に意見を言える様な街づくり。
若者が地域の一員であると感じて、みんなで手を取り合って生活できるようなまち。

マナー、モラルの徹底（ゴミ、交通ルール等）（１７件）

川や用水路のごみを減らす活動をしたい。
ゴミを街中に出さない綺麗な福井にしていきたい。

住民意向の把握と反映（５２件）

市民の声、意見を聞いてまちづくりをする。
住んでいる人の意見が聞けるように、目安箱を設置したいです。
10代などの若い人達の視点を取り入れ、革新的かつ、より市民に寄り添った街にする。

「その他」に関する意見

行政批判（税金の無駄遣い）（８件）

税金を下げて暮らしやすい環境にしたいと思います

みんなが税金にとらわれずに過ごせるまちづくりがしたいです。

その他（１１３件）

福井市全土に FreeWi-Fi を設置する。

学校に最新設備を導入し快適で効率よく勉強できるようにする。

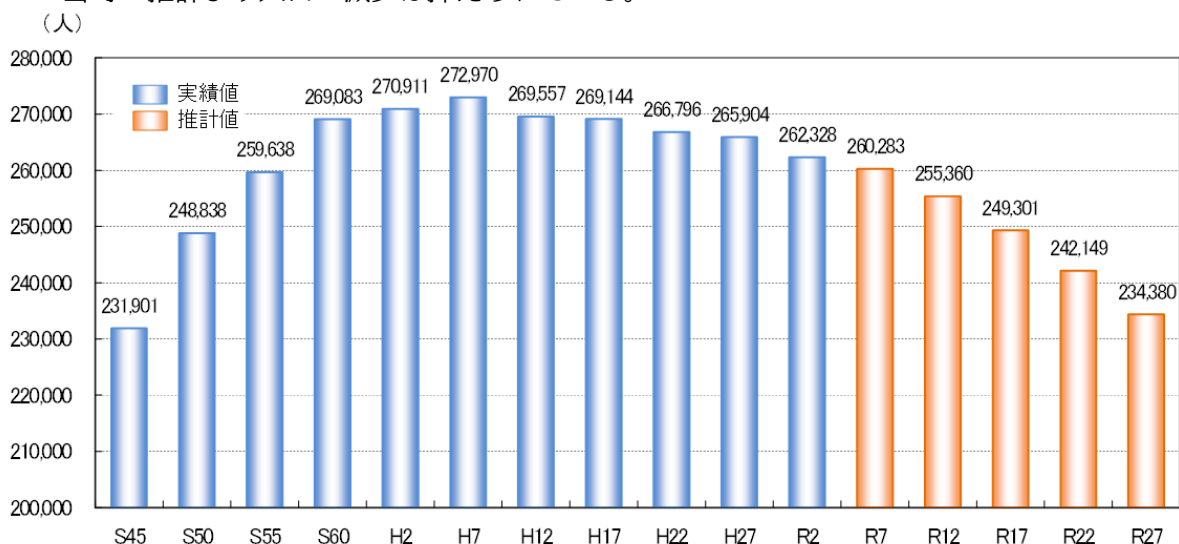
福井は中途半端なので自然豊か！にするか都市化を進めるどちらかの方針にする。

学業では大学で福井を離れる人が多いと感じるので大学、高校、などの整備、学力の向上に徹したいと考えます。

このままでいいと思います。わけはこのままが１番良いから。

1. 人口

- ・人口は、令和 2 年時点で 262,328 人となっており、平成 7 年をピークに近年は減少傾向にある。
- ・推計によると、人口は令和 27 年に 234,380 人まで減少する見込み。
- ・前回改定時（平成 22 年）に算出されていた令和 2 年時点での人口推計値は 255,245 人であり、当時の推計より人口の減少は抑えられている。

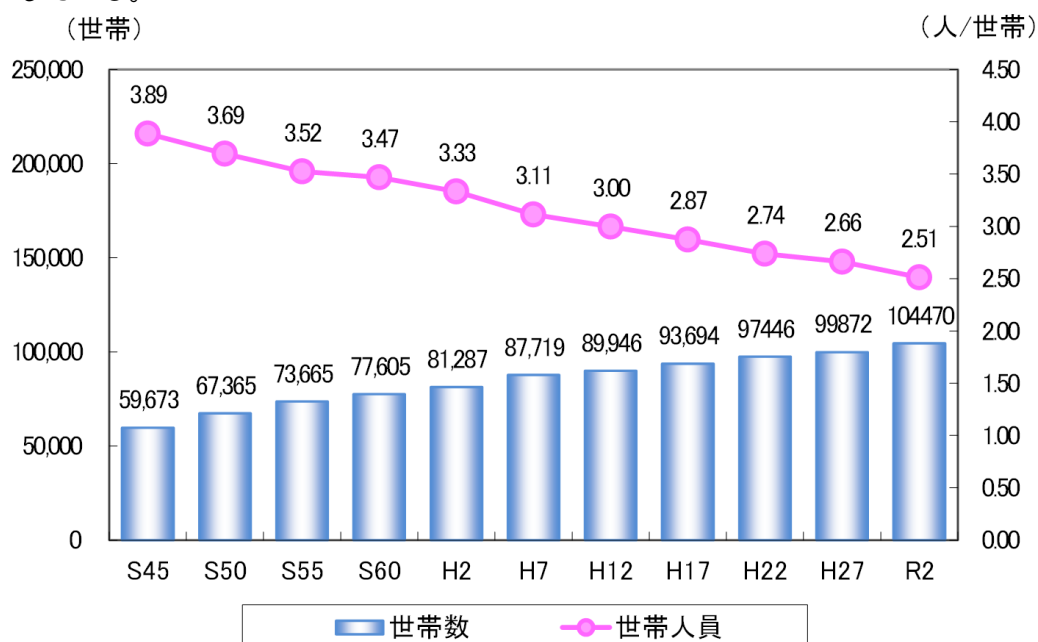


■人口の推移と将来の人口推計

(実績値：国勢調査、推計値：国立社会保障・人口問題研究所の H30 予測より作成)

2. 世帯数、平均世帯人員

- ・世帯数は人口減少に転じた平成 12 年以降も増加傾向が続いており、平均世帯人員は減少傾向にある。
- ・前回改定時（平成 22 年）に算出されていた令和 2 年時点での世帯数の推計値は 100,547 世帯、平均世帯人員の推計値は 2.54 人であり、当時の推計より世帯数は増加し、平均世帯人員は減少している。

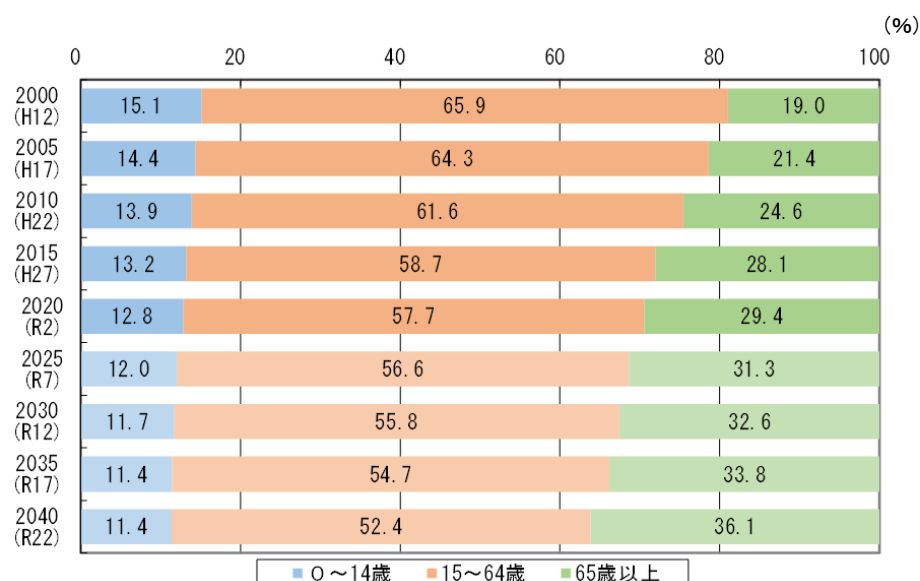


■福井市の世帯数、平均世帯人員の推移

(資料：国勢調査)

3. 年齢階層別構成比

- ・令和 2 年から令和 22 年にかけて、老年人口割合（65 歳以上）は約 36.1%に増加する一方、年少人口割合（0～14 歳）は約 11.4%、生産年齢人口割合（15～64 歳）は約 52.4%に大きく減少すると予測されている。



■福井市の人口、年齢階層別構成比の動向と見通し

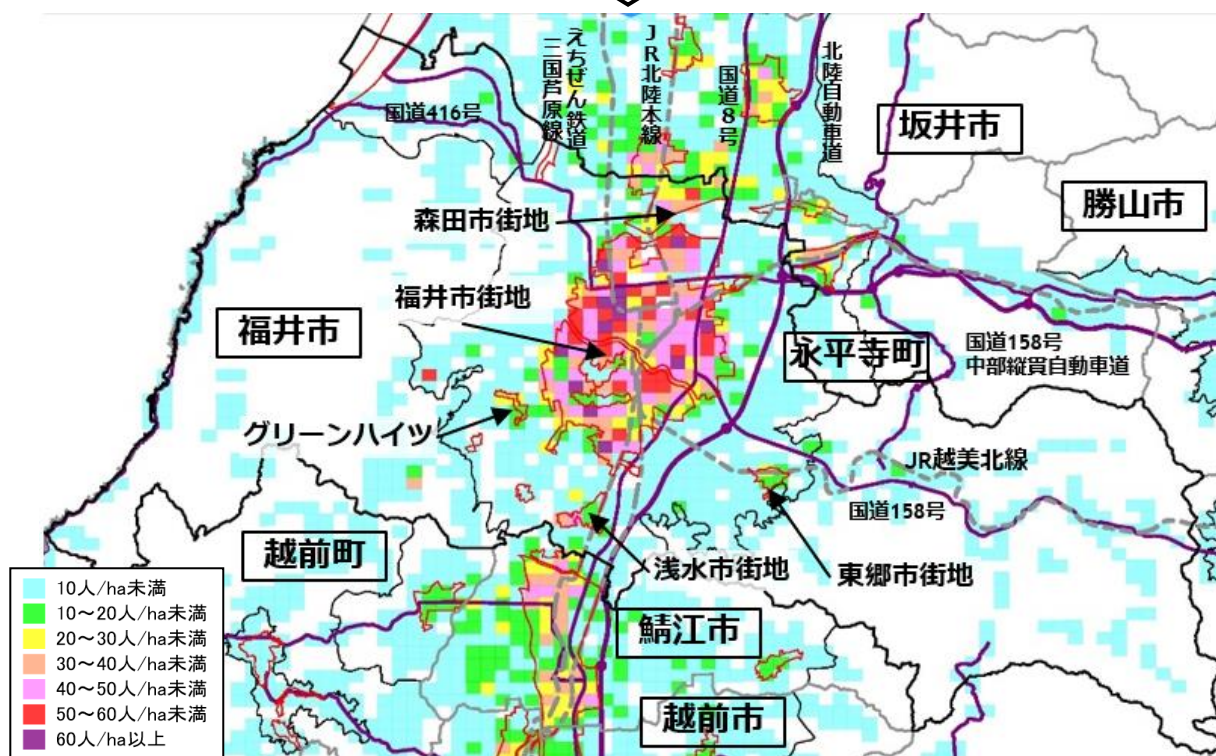
（実績値：国勢調査、推計値：国立社会保障・人口問題研究所の H30 予測より作成）

4. 人口密度の見通し

- ・令和2年の人口密度の現況をみると、福井市街地・森田市街地・浅水市街地は40人/ha以上のエリアを有している。また、グリーンハイツと東郷市街地は20～30人/haのエリアを有している。市街化調整区域の多くには10人/ha未満のエリアが広がっており、10～20人/haのエリアが点在している。
- ・令和22年時点を見ると、令和2年時点と比較して市街化区域内外で人口密度の低下が進んでいる。



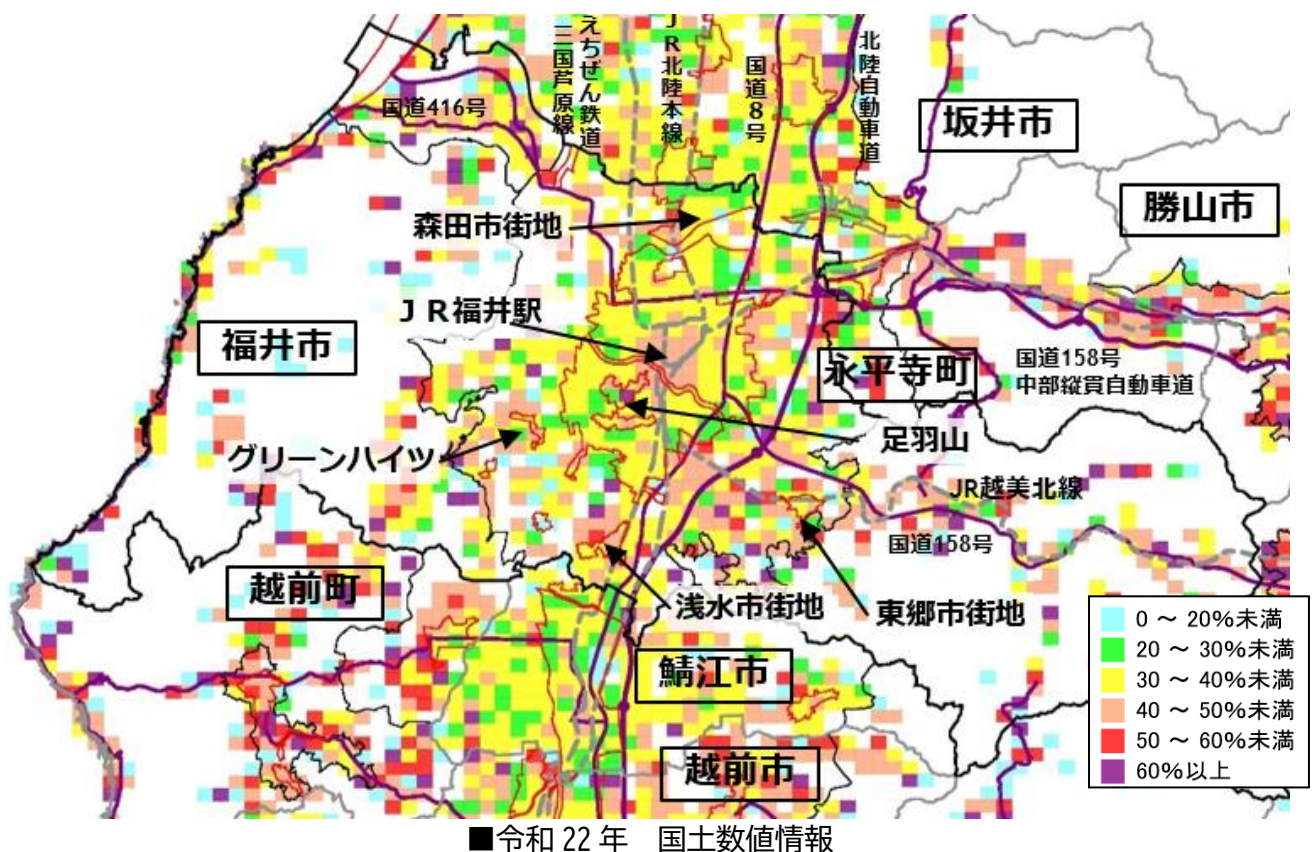
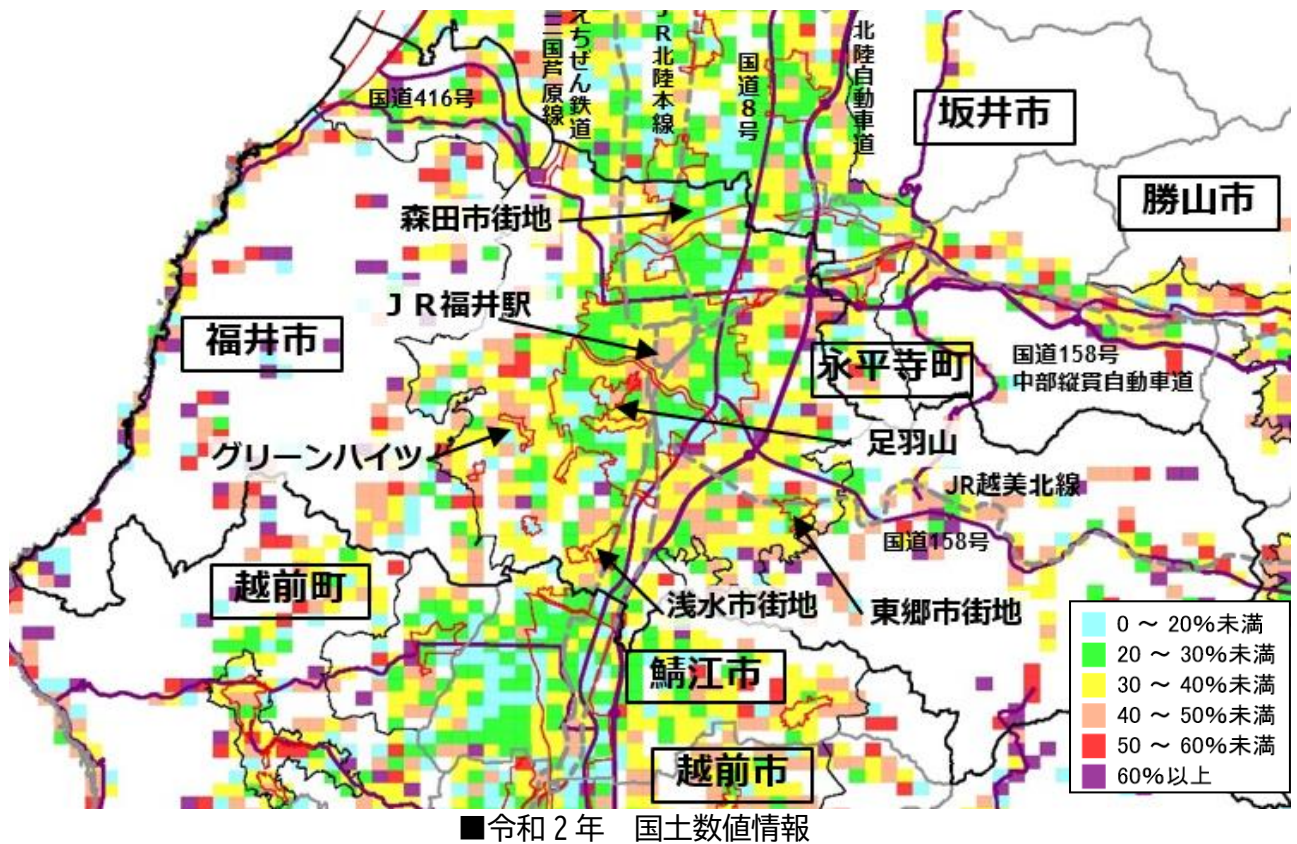
■令和2年 国土数値情報



■令和22年 国土数値情報

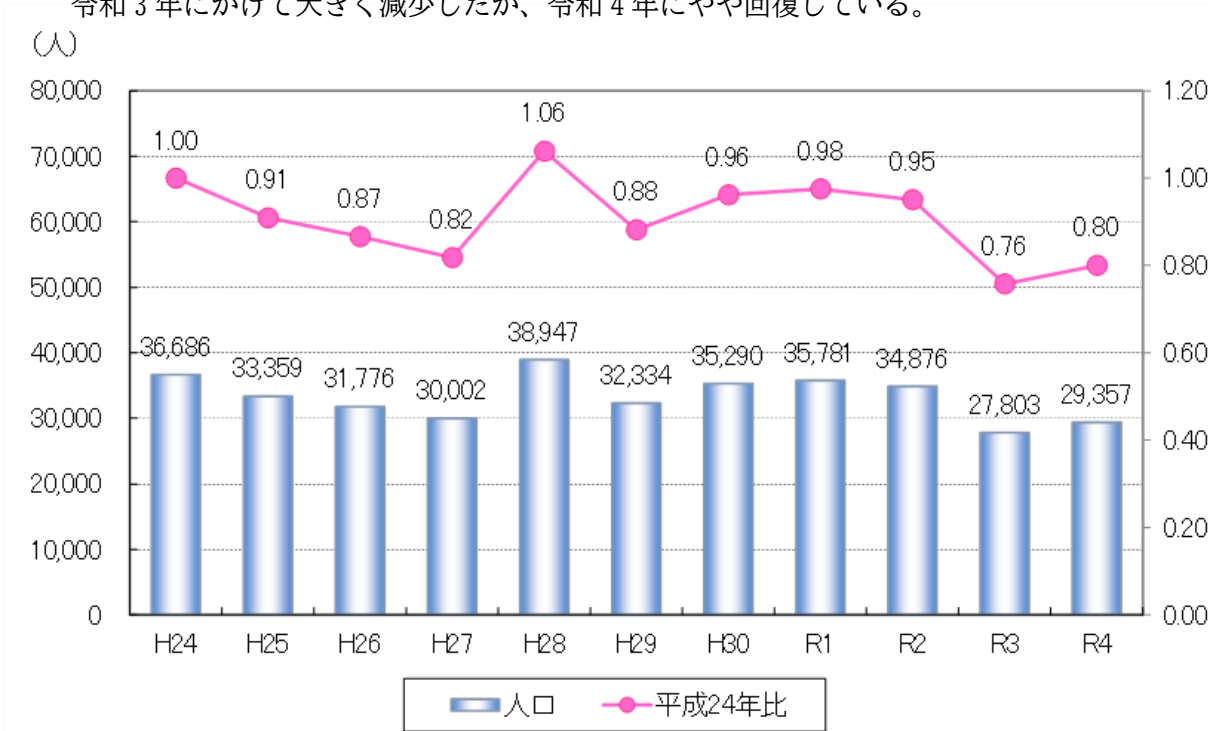
5. 高齢化率の見通し

- ・市街地では、J R福井駅周辺や足羽山周辺に高齢化率 40%以上のエリアが広がっている。その他の市街地では、森田市街地の南部及び北西部などに 40%以上のエリアが点在している。
- ・令和 22 年時点をみると、40%以上のエリアが面的に広がっている。



6. 中心市街地の歩行者交通量（休日・平日の平均）

- ・令和4年における中心市街地の歩行者交通量は、29,357人となっている。
- ・平成28年にピークを迎えて以降は減少傾向にある。コロナ禍の影響等により、令和2年から令和3年にかけて大きく減少したが、令和4年にやや回復している。



■ 中心市街地における歩行者交通量の推移
(福井市調べ)

7. 通勤・通学流動

- ・福井市内のみで通勤・通学している人は、81.5%となっている。
- ・市居住者の市外への通勤・通学先として最も多いのは坂井市で5.0%、次いで永平寺町で3.2%、鯖江市で3.0%が続いている。

		→ 就 業 先 ・ 通 学 先						
↓ 居住地		あわら市	坂井市	永平寺町	福井市	鯖江市	越前市	居住地 県外
	あわら市	51.0	22.2	1.1	19.0	0.4	0.6	51.0 4.3
	坂井市	7.8	53.9	1.7	30.8	0.8	1.0	53.9 2.0
	永平寺町	1.4	7.5	40.6	41.2	1.3	1.5	40.6 1.1
	福井市	1.2	5.0	3.2	81.5	3.0	2.4	81.5 1.2
	鯖江市	0.2	1.1	0.4	22.1	51.0	18.3	51.0 0.9
	越前市	0.1	0.5	0.4	11.1	11.1	70.0	70.0 0.8

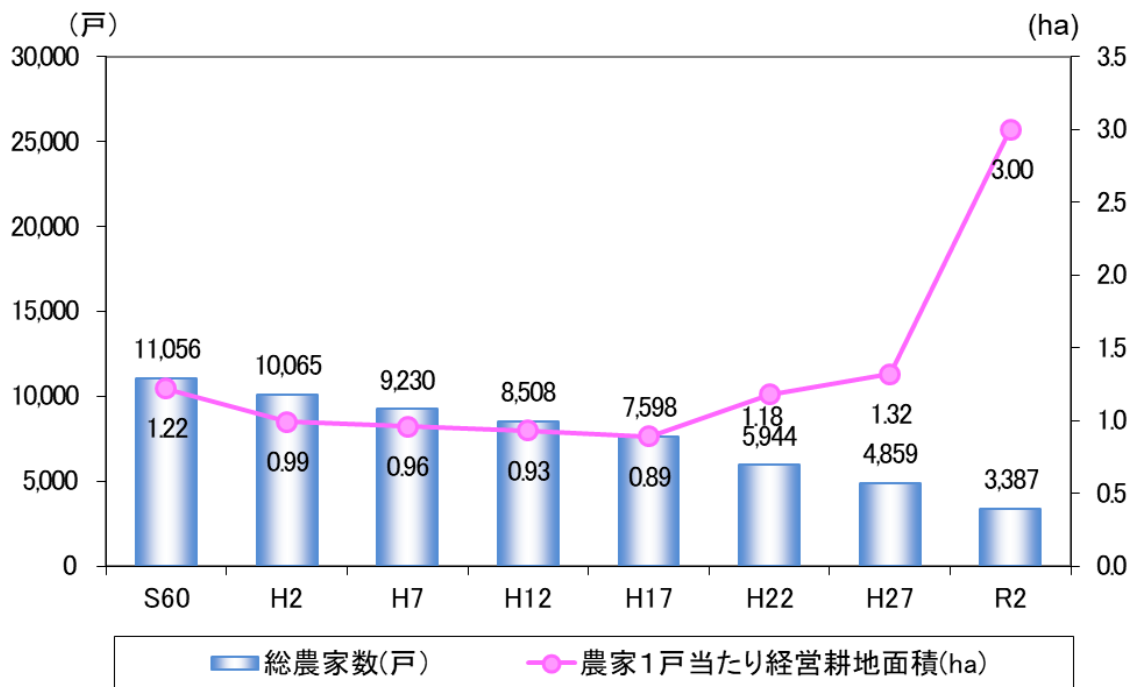
- ：通勤・通学率（総就業・就学者数に占める9市での従業・通学者数の割合）が30%以上
- ：通勤・通学率が20～30%
- ：通勤・通学率が10～20%

※例： 7.8 は坂井市居住者のうちあわら市へ通勤・通学している人の割合

■ 福井市と主な市町の通勤・通学流動（令和2年）
(資料：国勢調査)

8. 農業

- ・総農家数は一貫して減少している一方、農家一戸当たり経営耕地面積は、平成 27 年以降大幅な増加傾向となっている。



■総農家数と農家一戸当たり経営耕地面積の推移
(資料：農林業センサス)

9. 林業

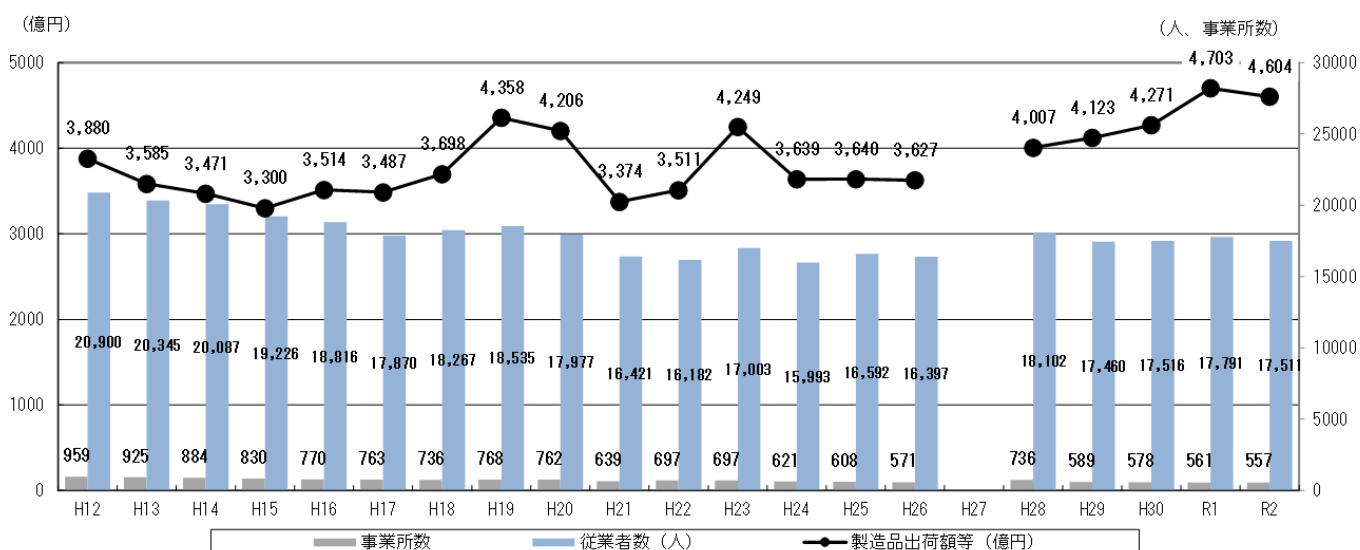
- ・林野面積は、令和 3 年時点で 31,943ha となっており、人工林が 19,356ha で全体の 60.6%を占めている。
- ・保有形態別では、私有林が 30,305ha で全体の 94.9%を占めている。

		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
人工林	針葉樹	19,361	19,362	19,378	19,389	19,360	19,356
	広葉樹	70	70	70	70	70	70
天然林	針葉樹	722	721	721	721	750	750
	広葉樹	10,926	10,917	10,923	10,923	10,923	10,928
竹林		304	303	303	303	303	302
無立木地	伐採跡地	21	21	21	21	21	21
	未立木地	518	517	515	515	515	515
総数		31,921	31,910	31,931	31,943	31,943	31,943
保有形態	国有林	88	88	109	109	109	109
	公有林	1,503	1,530	1,530	1,530	1,530	1,530
	私有林	30,330	30,292	30,293	30,305	30,305	30,305
総数		31,921	31,910	31,931	31,943	31,943	31,943

■林野面積の推移 (ha)
(資料：福井県統計年鑑)

10. 工業

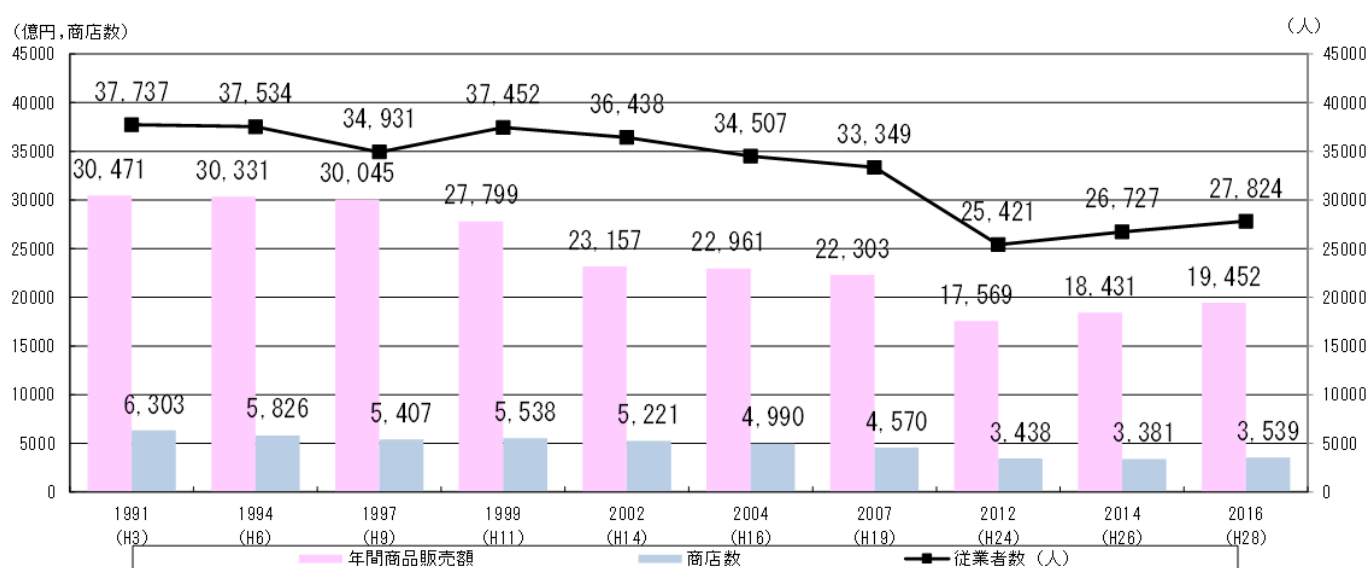
- ・令和2年の事業所数は557事業所、従業者数は17,511人、製造品出荷額等は4,604億円となっている。
- ・推移をみると、事業所数は減少し続けているが、従業者数と製造品出荷額等は増加している。



■製造品出荷額等、事業所数、従業者数の推移
(資料：工業統計調査) ※H27は調査なし

11. 商業

- ・平成28年の年間商品販売額は19,452億円、商店数は3,539店、従業者数は27,824人となっている。
- ・推移をみると、年間商品販売額と従業者数は平成11年をピークとして減少傾向だったが、平成26年から増加傾向に転じている。商店数は平成3年から平成26年まで減少傾向にあったが、平成28年にはやや回復している。



■年間商品販売額、商店数、従業員数の推移
(資料：平成24年までは商業統計調査、平成26年と平成28年は経済センサス活動調査)

12. 観光

- ・主要観光地である一乗谷朝倉氏遺跡や越前海岸の観光客数は、令和4年にはそれぞれ75万人、31.3万人となっている。
- ・市町別にみた観光客入込数は、令和4年時点で324.2万人。令和元年から令和2年にかけてコロナ禍の影響を受けて大きく減少したが、近年は回復傾向にある。

観光地名	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
一乗谷朝倉氏遺跡	901,100	803,100	722,200	1,056,679	850,735	567,482	750,600
越前海岸	482,415	457,506	413,843	384,928	285,188	266,716	312,928

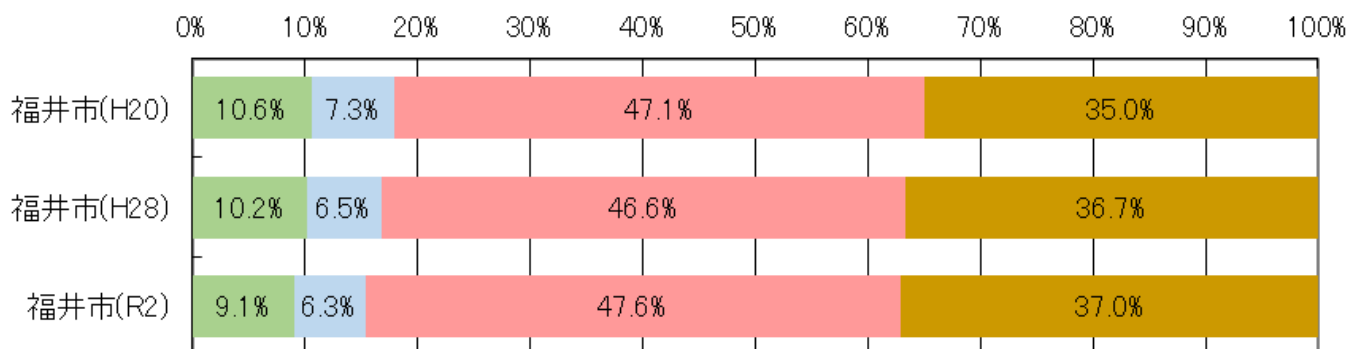
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
福井市	3,986,000	3,865,000	4,188,000	4,204,000	2,445,000	2,714,000	3,242,000
あわら市	1,885,000	1,820,000	1,722,000	1,704,000	1,122,000	1,091,000	1,309,000
鯖江市	1,842,000	1,776,000	1,852,000	1,775,000	993,000	1,198,000	1,526,000
永平寺町	1,206,000	1,141,000	1,140,000	1,229,000	638,000	522,000	715,000
坂井市	5,533,000	5,146,000	5,229,000	5,105,000	3,364,000	2,885,000	3,616,000
勝山市	1,995,000	2,176,000	2,106,000	2,216,000	1,286,000	1,390,000	2,067,000

■観光客入込数

(資料：H28～R4 福井県観光客入込数)

13. 土地利用現況

- ・令和2年における市街化区域内の土地利用構成比は、宅地とその他都市的土地利用の割合が8割以上となっている。
- ・推移をみると、福井市では農地の減少に伴い、宅地とその他都市的土地利用が増加している。



凡 例 (都市計画基礎調査における土地利用分類に基づく)

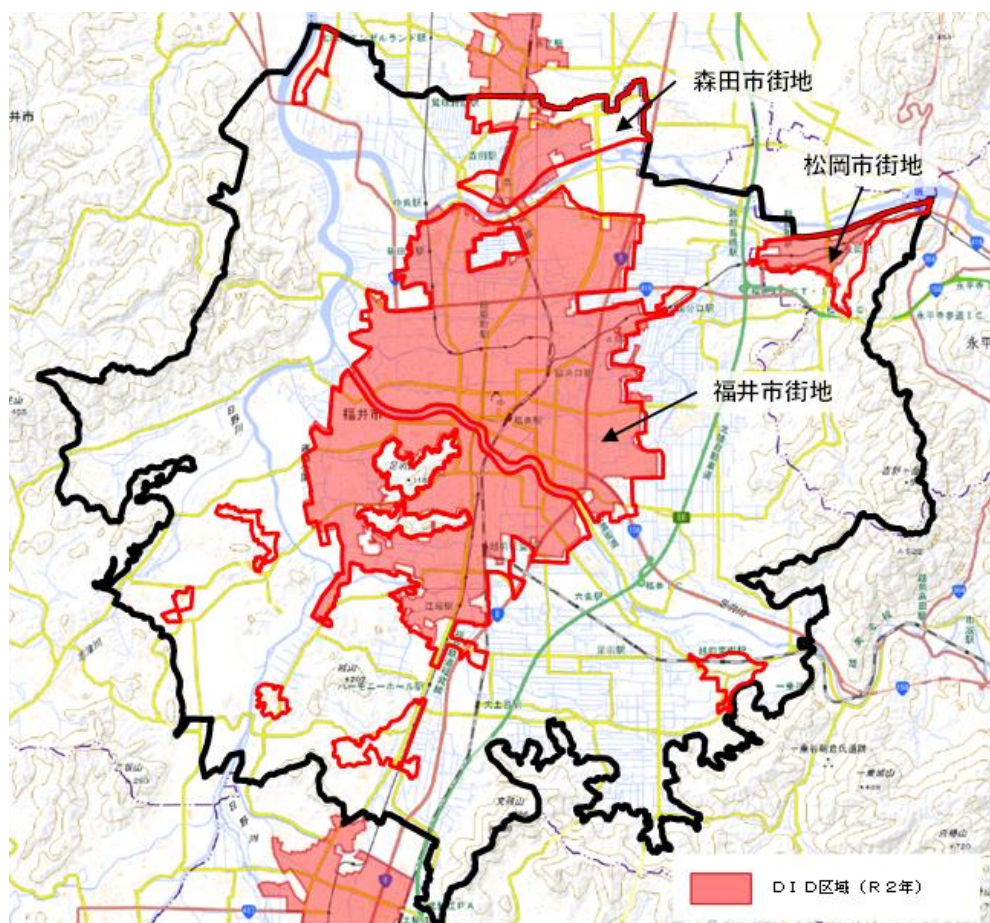
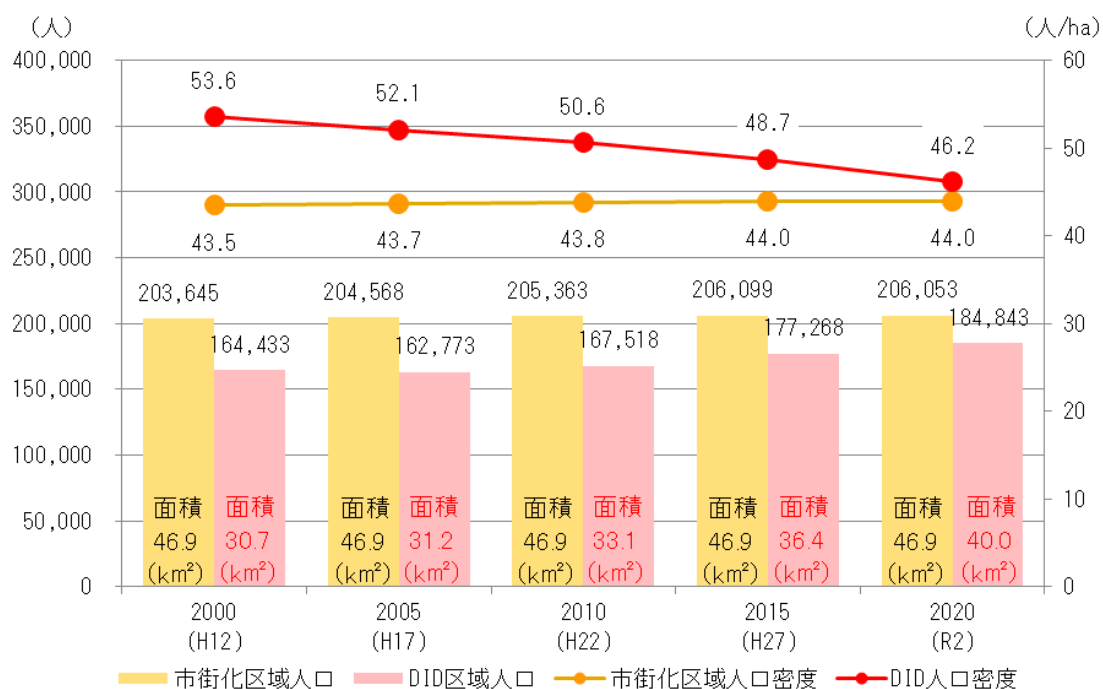
- 農地 : 田・畑(水田、畑、樹園地、採草地、養鶏(牛、豚)場、ビニールハウス、耕作放棄地等)
- その他自然: 農地を除いた自然的土地利用。山林(樹林地)、水面(河川水面、湖沼、ため池など)、その他の自然(原野・牧野、低湿地、河川敷、河川堤防法面、海浜、湖岸)を含む。
- 宅地 : 住宅地、商業用地、工業用地を含む。また、専用住宅、商業・業務施設、工場などの専用駐車場を含む。
- その他都市的: 宅地を除いた都市的土地利用。公益施設用地(官公庁施設、文教厚生施設)、道路用地、交通施設用地(自動車ターミナル、鉄道用地など)、公共空地(公園・緑地、墓園など)、平面駐車場(月極駐車場など)、ゴルフ場・スキー場、都市的未利用地(宅地化工事等の改変工事中の土地、建物跡地、資材置き場など)、太陽光発電システム整備地を含む。

■市街化区域の土地利用構成比の推移

(資料：都市計画基礎調査)

14. DID (人口集中地区)※ 区域、市街化区域

- ・ DID区域の面積は増加傾向にあるが、DID人口密度は経年的に低下している。また、市街化区域内の人口は増加傾向にあるが、人口密度はほぼ横ばいに推移している。
- ・ DID区域が形成されている市街地は、福井市街地、森田市街地となっている。



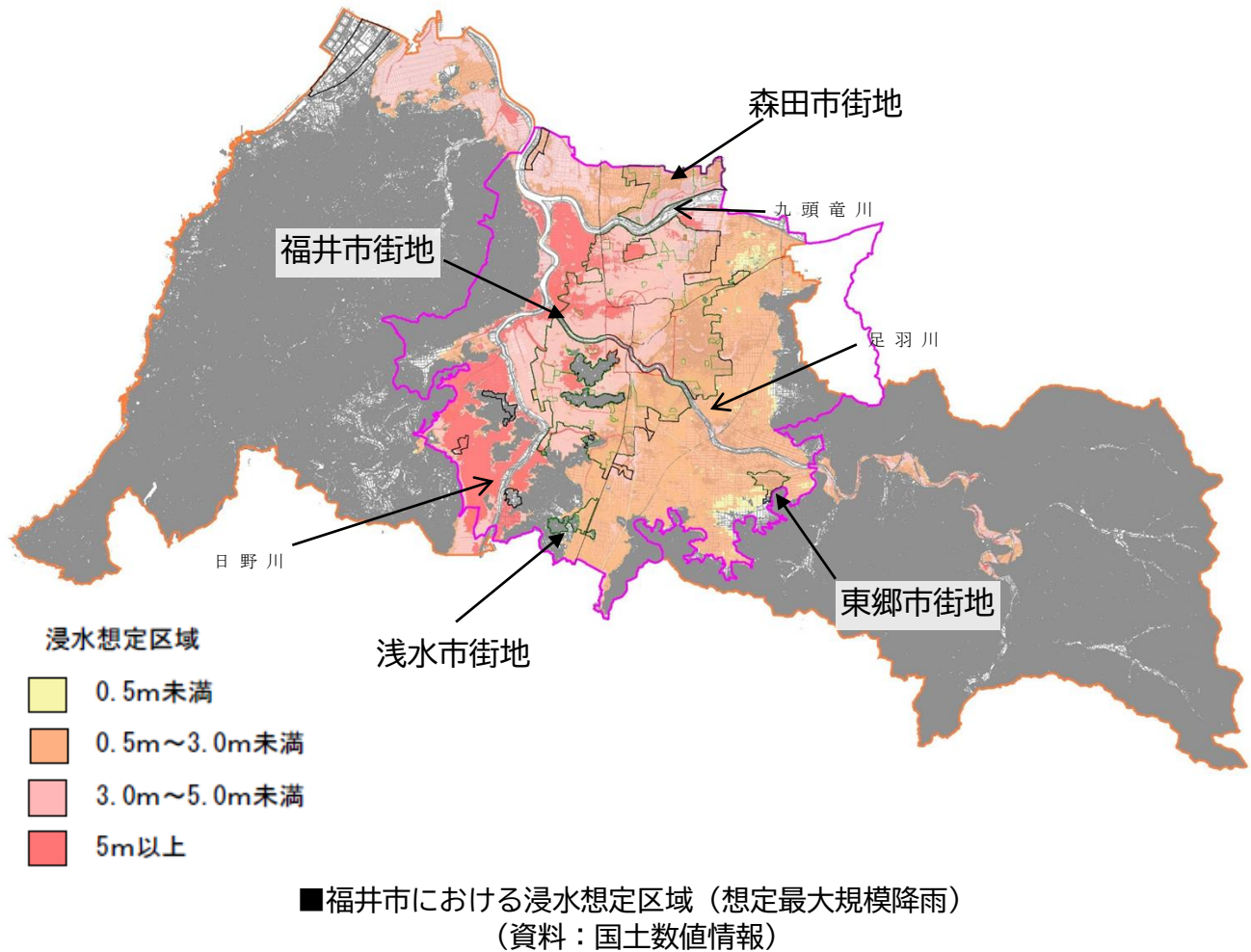
■ 令和2年のDID区域
 (資料：国勢調査)

※DID (人口集中地区)

国勢調査において、基本単位区を基礎単位として、1) 原則として人口密度が1 km²あたり4千人の基本単位区が互いに隣接して、2) それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5千人以上を有する地区を指す。

15. 自然災害の危険性（浸水想定区域）

- ・本市の中心部には福井平野が広がっており、主に南東から北西にかけて九頭竜川、足羽川、日野川などの河川が流れている。
- ・浸水想定区域（想定最大規模降雨）は本市の平野部を中心に分布している。



1. 視点ごとの評価

(1)多様な拠点づくり

- ・これまでの様々な取り組みにより、多様な拠点づくりが進められています。にぎわいの持続に向けては、「様々な交通手段で気軽に訪れることができる環境を整えること」が重要であるとの意見が最も多く、北陸新幹線金沢・敦賀間開業の効果を踏まえつつ、引き続き中心市街地の活性化に向けた取り組みの推進が必要です。
- ・産業を支える拠点づくりに向けては、本市の製造品出荷額等は近年増加傾向にあり、引き続き操業環境の維持・充実に取り組むとともに、新規企業誘致や新たな産業拠点の整備の検討が重要です。
- ・自然や歴史、健康の拠点として位置づけられている各施設の観光客数や利用者数は、コロナ禍から回復傾向にあります。観光客や利用者の増加に向けてさらなる取り組みを行うとともに、施設の老朽化に対する検討が必要です。

(2)身近な生活空間づくり

- ・地域拠点周辺では、多様な都市機能が集積し、住宅用地として活用されるなど、地域拠点の整備が進められています。市民が地域拠点へ行く頻度は「週に1~2回」が最も多く、その主な目的は「日常的な買い物」です。「商店街やスーパーマーケットなどの充実」を求める意見もあり、引き続き都市機能や居住機能の維持・充実を図ることが重要です。
- ・安全・安心なまちづくりに向けては、自然災害に備えたソフト・ハード両面の取り組みが進められています。特に、各地域で今後取り組むこととして「自然災害に対する安全対策」が重要であるとの意見が最も多く、引き続き市民の防災意識の向上と主体的な防災活動の推進が必要です。
- ・公共下水道等の整備や協働のまちづくりが進められ、本市の暮らしやすさは向上しています。引き続き「住みたい、住み続けたい」と思える身近な生活空間づくりの推進が必要です。

(3)移動の骨格づくり

- ・交通対策については「バスの本数や停留所の位置、走行ルートなどを見直し、バスの利用を便利にする」との意見が最も多く、利用環境の整備やバスの利用者数増加に向けた取り組みが必要です。
- ・「徒歩や自転車での移動のしやすさ」については約6割が「感じる」「やや感じる」と回答しています。歩道等の段差解消や歩行者・自転車利用者のネットワーク形成など、引き続き歩行者・自転車利用者の安全で快適な道路空間づくりに取り組むことが必要です。
- ・本市では骨格的な都市計画道路の整備が進んでおり、「車での移動のしやすさ」について満足度が高い評価を得られています。引き続き未整備の都市計画道路の整備推進を図るとともに、市民の日常生活や都市活動を支える交通環境を適切に維持・充実していくことが重要です。

(4)水と緑の空間づくり

- ・森林保全や緑地面積の確保、農山漁村地域における里地・里山の活性化に向けた取り組みなど、自然環境と調和した都市づくりが進められています。「自然の豊かさ」については満足度が高く、特に「川辺など、水にふれあえる状況にある」は中学生から満足度が高い評価を得ています。一方で農地面積は減少し、不作付地も多く見られます。引き続き自然との共生・調和を基本として、秩序ある土地利用の推進や農地等の保全に向けた取り組みが必要です。
- ・福井市固有の景観づくりや保全に向けた取り組みが進められ、景観に対する印象の評価は大きく向上しています。特定景観計画区域の指定など、引き続き歴史や文化、生活と調和した都市づくりに向けた取り組みの推進が必要です。

2. 推進方針ごとの評価

(1) 推進方針：多様な拠点づくり

魅力や活力を高めるために、都市活動やにぎわいのある人々の交流を育むよう、県都・福井市を支える多様な拠点づくりを進めます。

1) にぎわい交流の拠点づくり

J R 福井駅を中心とした都心部は、県都の活力を支えるにぎわい交流拠点として、市民・県民だけでなく、県外からの来訪者・観光客にとっても魅力ある拠点づくりを進めます。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
1	中心市街地における歩行者・自転車通行量(休日・平日の平均)	36,000 人/日	29,357 人/日	82%	通行量の増加
2	まちなか住まい支援住戸数	290 件 (累計)	329 件	達成	支援住戸数の増加
3	中心市街地に訪れる頻度「ほとんど毎日」「週に 1~2 日」の合計	21%	未調査	78% (H29 16.4%)	頻度の増加

【評価・検証の視点】

中心市街地、その周囲を取り囲むにぎわい交流の拠点が、魅力や活力、にぎわいのある交流・連携の場となっているか。

【評価・検証】

- ・ 中心市街地における歩行者・自転車通行量は、平成 28 年の 38,947 人をピークとして減少傾向にあります。特に、令和 2 年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、大幅に減少しています。
- ・ まちなか住まい支援住戸数は、平成 24 年の 71 件から着実に増加し続け、令和元年の時点で目標値を達成しています。
- ・ 中心市街地に訪れる頻度が「ほとんど毎日」「週に 1~2 日」の合計は、平成 24 年は 16.0%、平成 26 年は 15.1%、平成 28 年は 13.9%と減少傾向にありましたが、平成 29 年は 16.4%まで回復しています。

【総括】

- ・ 北陸新幹線金沢・敦賀間開業の効果を踏まえつつ、駅前電車通り北地区 A 街区再開発事業の進捗と合わせて、引き続き、歩行者・自転車利用者の増加を図る取り組みが必要です。
- ・ まちなか地区への居住促進は、目標値を達成していますが、引き続き居住誘導に向けて取り組むことが重要です。
- ・ 中心市街地への来訪者数増加に向け、引き続き空き店舗の活用や、歩行者利便増進制度の活用などにより魅力的なまちなか空間を整備し、にぎわい創出のための取り組みが必要です。

2) 産業を支える拠点づくり

既存の工場・流通業務の集積地を産業の拠点と位置づけ、県都としての役割を踏まえたバランスの取れた産業の拠点づくりを進めます。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
4	テクノポート福井、テクノパーク福井の空き区画数	0 区画	0 区画	達成	空き区画数の減少
5	製造業粗付加価値額※1	1,700 億円	—	達成 (R2 2,081 億円)	額の増加

※1 売上高から原材料費や仕入れ原価などの変動費を差し引いたもの

【評価・検証の視点】

産業拠点の操業環境が維持・向上され、活力ある都市活動が行われているか。

【評価・検証】

- ・テクノポート福井、テクノパーク福井の空き区画数は、令和4年に残っていた1区画が売却されたことで、0区画となっています。
- ・製造業粗付加価値額は平成22年から経年的に増加しており、平成28年以降目標値を達成しています。

【総括】

- ・産業拠点については、操業環境の維持・充実に取り組むとともに、引き続き新規企業誘致や新たな産業拠点の整備の検討を行うことが重要です。

3) 交流や連携を育む自然や歴史、健康の拠点づくり

福井市固有の歴史や文化、自然に加え、既存の大規模公園及び健康施設を健康・レクリエーション拠点として位置づけ、交流や連携を育む拠点づくりを進めます。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
6	一乗谷朝倉氏遺跡、越前海岸の観光入込客数	1,600,000 人/年	1,063,528 人/年	66%	入込客数の増加
7	フェニックスパーク、福井市体育館、東山健康運動公園の利用者数	303,496 人/年	261,760 人/年	86%	利用者数の増加

【評価・検証の視点】

自然や歴史とのふれあいの場として広く活用され、感性の育成、健康づくりやレクリエーションに効果が見られるか。

【評価・検証】

- ・どちらの数値目標も、新型コロナウイルス感染症の影響などにより令和2年以降大幅に減少しましたが、現在は回復傾向にあります。
- ・一乗谷朝倉氏遺跡は、令和4年10月に博物館がオープンしたことや全国旅行支援の影響もあり、令和3年に比べ約30%増加しています。また、越前海岸については、令和3年に比べ約20%増加しています。

- ・フェニックスパーク等の利用者数は目標値の８割を超えており、市民の健康づくりやレクリエーションの場として活用されています。現在、令和６年３月供用開始を目指して改修している施設もあり、供用開始後は稼働日数が増えることから、更なる使用者増加が見込まれます。

【総括】

- ・一乗谷朝倉氏遺跡や越前海岸については、各種イベントの企画など、引き続き集客にむけた取り組みが必要です。
- ・フェニックスパーク等については、引き続き利用客の増加に取り組む一方で、施設の老朽化に対応するため、優先度の高いものから機器等の更新についても検討が必要です。

(2)推進方針：身近な生活空間づくり

市民が安全に安心して、快適に日常生活を過ごせるよう、きめ細やかな生活空間づくりを進めます。

1) 持続可能な地域を支える拠点づくり(地域拠点の形成)

自動車に過度に依存した行動を見つめなおし、一定のまとまりを有する日常生活圏ごとに、公共交通と連携した場所を地域拠点と位置づけ、日常生活を支える機能の集積を誘導します。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
8	地域拠点周辺の農地面積割合※2	1.5%	未調査	達成 (R2 1.4%)	面積割合の減少

※2 都市計画基礎調査で概ね5年毎に調査

【評価・検証の視点】

地域拠点などを活かした「歩く」視点に立った都市づくりが行われているか。

【評価・検証】

- ・地域拠点周辺の農地面積の割合は、平成20年の3.1%から令和2年には1.4%に減少しており、都市的土地利用が進展しています。

【総括】

- ・地域拠点周辺では、多様な都市機能が集積し、住宅用地として活用されるなど、地域拠点の整備が進められています。引き続き、都市機能や居住機能の維持・充実に努めることが重要です。
- ・一方で、社会情勢の変化に伴い、拠点周辺の状況にも変わりつつあることから、現状に合わせた拠点の在り方の検討が必要です。

2) 安全・安心なまちづくり

予測を上回る大規模な自然災害の発生に備え、未然にできる限り被害を軽減するため、公共施設の防災性の強化や、地域における防災体制づくりなど、行政と住民等の協働で安全・安心なまちづくりを進めます。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
9	自主防災組織の結成率	97%	95.89%	99%	結成率の増加
10	学校校舎・体育館耐震化率	100%	100%	達成	耐震化率の増加
11	木造住宅の耐震化件数	250件 (累計)	307件	達成	耐震化件数の増加

【評価・検証の視点】

災害に強い地域社会が形成され、市民が安全・安心して生活できているか。

【評価・検証】

- ・自主防災組織の結成率はほぼ達成しています。
- ・1次避難所として活用される小中学校の校舎や体育館の耐震化率は、平成27年の時点で目標値の100%を達成しており、避難所として安全に活用できる状態にあります。

- ・また、木造住宅の耐震化件数も令和2年の時点で目標を達成しており、災害時における家屋倒壊等の被害を未然に防ぐ取り組みが進められています。

【総括】

- ・自然災害に備えたソフト・ハード両面の取り組みにより、災害に強い都市づくりが進められています。引き続き、安全・安心なまちづくりに向けた取り組みが重要です。
- ・自主防災組織については、結成された組織体制を維持しつつ、引き続き未結成の地区に対し自主防災組織の重要性を周知するなど、結成に向けた働きかけが必要です。
- ・木造住宅の耐震化については、耐震化の必要性を啓発し、補助制度といった所有者の負担軽減策を周知するなど、引き続き耐震化戸数の増加に向けた取り組みが重要です。

3)『住みたい、住みつづけたい』と思える身近な生活空間づくり

住民が、身近な生活空間に対して抱いている課題意識や、地域の個性を生かしたまちづくりへの意識を大切にし、「身近なまちづくり推進条例」などの制度の活用を通じて支援しながら、「住みたい、住み続けたい」と思える身近な生活空間づくりを進めます。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
12	総合的にみた福井の暮らしやすさ 「感じる」「やや感じる」の合計	80%	未調査	達成 (R2 87%)	「感じる」 「やや感じる」 の増加
13	公共下水道施設区域内の人口普及率	96.2%	98.3%	達成	普及率 の増加
14	地区計画策定数の累計 [まちづくり組織の認定数の累計]	22 地区 [9 組織]	18 地区 [4 組織]	策定数 82%	策定数 の増加

【評価・検証の視点】

公共公益施設の配置など、地域の特性を踏まえた快適な生活環境が整えられているか。

協働のまちづくりが進んでいるか。地域の特徴や今ある資源を活かしながら、個性豊かな地域づくりに取り組む地区が増加しているか。

【評価・検証】

- ・総合的にみた暮らしやすさを「感じる」「やや感じる」の合計は増加傾向にあり、市民の満足度が向上しています。
- ・公共下水道施設の人口普及率は年々向上しており、令和元年の時点で目標値を達成しています。
- ・地区計画は、令和元年度以降新たな策定はなく、策定数は目標値の約8割に留まっています。

【総括】

- ・公共下水道の整備も順調に進んでおり、本市の暮らしやすさは向上しています。引き続き、市民が「住みたい、住み続けたい」と思える身近な生活空間づくりの推進が重要です。
- ・協働のまちづくりには、引き続き制度の周知など、組織認定や計画策定に向けた取り組みが必要です。

(3)推進方針：移動の骨格づくり

誰もが自由に行動でき、人々の生き生きとした生活や交流を支え、様々な交流や連携に対応できるよう「歩く」視点から交通の骨格づくりを進めます。

1) 公共交通の骨格づくり

J R福井駅を中心として、既存ストックを活かした公共交通ネットワークを実現するため6方向（南北2方向・東西4方向）の公共交通幹線軸を基本として鉄道やバスなどの利便性を高めるとともに、拠点となる駅やバス停などへのアクセス向上を進めます。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
15	えちぜん鉄道乗車人員	356.6 万人	339.1 万人/年	95%	乗車人員の増加
16	福井鉄道乗車人員	204.9 万人/年	187.3 万人/年	91%	乗車人員の増加
17	福井駅発着のバスにおける一人当たりの利用回数	17.42 回/年	15.8 回/年	91%	利用回数の維持
18	コミュニティバスすまいる乗車人員	55 万人/年	30 万人/年	55%	乗車人員の増加
19	日常的に公共交通機関を利用する人の割合	17%	未調査	69% (H29 11.7%)	利用者割合の増加

【評価・検証の視点】

子どもから高齢者まで、誰もが自由に行動できる公共交通機関の環境が整えられ、市民に広く利用されているか。

【評価・検証】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、鉄道・バスの利用者数は令和2年に大幅に減少しましたが、現在は回復傾向にあります。
- ・えちぜん鉄道、福井鉄道については、令和3年以降順調に利用者が増加していますが、コミュニティバスすまいるについては、令和3年に減便したこともあり低調となっています。
- ・日常的に公共交通機関を利用する人の割合は、平成29年で11.7%となっています。

【総括】

- ・公共交通機関の環境整備など、引き続き利用促進に向けた取り組みが必要です。
- ・鉄道と比較してバスの乗車人員数が低調のため、引き続きバスの利用者数増加に向けた事業者と連携した取り組みが必要です。

2) 歩行者・自転車利用者の空間づくり

道路が有する機能や役割、地域の特性、自動車中心の道路空間から歩行者・自転車利用者中心の道路空間への見直し・再配分など、安全で快適な道路空間づくりを進めます。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
20	徒歩や自転車での移動のしやすさ 「感じる」「やや感じる」の合計	60%	未調査	達成 (H26 62.8%)	「感じる」 「やや感じる」 の増加
21	歩道整備延長	83km	82.2km	99%	歩道整備 距離の増加

【評価・検証の視点】

生活圏相互を繋ぐ道路などにおいて、歩行者や自転車利用者の移動空間が整えられ、市民に広く利用されているか。

【評価・検証】

- ・平成 26 年には、徒歩や自転車での移動のしやすさを「感じる」「やや感じる」の合計は 62.8%と目標値を達成しており、取り組みの効果が表れています。
- ・歩道の整備は経年的に進められ、ほぼ目標値を達成しています。

【総括】

- ・段差の解消や自転車利用ネットワークの形成など、引き続き安全で快適な道路空間づくりにむけて取り組むことが重要です。

3) 幹線道路の骨格づくり

都市圏及び市内各地域間の交流や連携を育むため、国道や主要地方道を活かした幹線道路ネットワークの形成を図ります。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
22	都市計画道路整備率	85.5%	85.0%	99%	整備率 の増加
23	交通安全満足度、通勤通学満足度 「不満」「やや不満」の合計	交通安全 25%	未調査	88% (H26 28.3%)	「不満」 「やや不満」 の減少
		通勤通学 23%	未調査	92% (H26 25.0%)	
24	一般国道 8 号の 24 時間自動車類交通 量上下合計※3	基準値より 減少 H22 49,071 台	未調査	達成 (R3 47,372 台)	交通量 の減少

※3 道路交通センサスで概ね 5 年毎に調査

【評価・検証の視点】

市民の日常生活や都市活動を支える幹線道路が適切に整備され、機能しているか。

【評価・検証】

- ・都市計画道路の整備率はほぼ目標値を達成しており、幹線道路ネットワークの形成が進んでいます。

- ・交通安全や通勤通学の「不満」「やや不満」の合計割合は減少しており、交通安全や通勤通学に対する満足度が上がっています。
- ・国道 8 号の 24 時間自動車交通量上下線合計は、各幹線道路の整備により国道 8 号の交通量が分散されたことで、交通量が減少したと考えられます。

【総括】

- ・本市では骨格的な都市計画道路の整備が進んでいるため、引き続き、未整備の都市計画道路の整備推進を図るとともに、市民の日常生活や都市活動を支える交通環境を適切に維持・充実していく必要があります。

(4)推進方針：水と緑の空間づくり

恵まれた自然環境や景観の大切さを見つめなおし、交流や連携、地域への誇りと愛着を育むよう、地域の特性を活かした水と緑の空間づくりを進めます。

1) 環境特性に応じた都市づくり

市街地と農山漁村部は、自然との共生・調和を基本として、それぞれの特性を活かした秩序ある土地利用を推進します。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
25	森林面積※4	31,900ha	未調査	達成 (R2 31,943ha)	森林面積の維持
26	農地面積※5	7,384ha	未調査	94% (R1 6,919ha)	農地面積の維持
27	福井都市計画区域、嶺北北部都市計画区域の緑地面積率	3.2%	2.92%	91%	緑地面積率の増加
28	緑や自然の豊かさに関する満足度「満足」「ほぼ満足」の合計	70%	未調査	達成 (H28 77.3%)	「満足」「ほぼ満足」の増加

※4 福井県林業統計書による調査予定。令和4年度の数字は令和6年度統計書で公表予定

※5 農業センサスで5年毎に調査

【評価・検証の視点】

市街地及び農山漁村部のそれぞれにおいて環境に負荷を与えない、水と緑あふれる潤いある都市づくりがされているか。

【評価・検証】

- ・森林面積は維持されていますが、農地面積は荒廃による山林化等により減少傾向にあります。
- ・福井都市計画区域、嶺北北部都市計画区域の緑地面積率は公園の整備等により経年的に増加しています。
- ・緑や自然の豊かさに関する満足度「満足」「ほぼ満足」の合計は平成28年で77.3%となっており、市民の満足度が向上しています。

【総括】

- ・自然環境と調和した都市づくりが進められています。引き続き、自然との共生・調和を基本として、市街地と農山漁村部それぞれの特性を活かした秩序ある土地利用の推進が必要です。

2) 水と緑のネットワークづくり

自然環境と都市との関わりや、地域住民との結びつきを重視した水と緑のネットワークの新たな管理の仕組みを創設し、身近に水と緑にふれあうことのできる環境づくりを進めます。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
29	認定里川数	9カ所	11カ所	達成	認定里川数の増加
30	市道街路樹延長	85km	88.2km	達成	街路樹整備距離の増加

【評価・検証の視点】

気軽に水と緑にふれあうことができ、広くネットワークされているか。また、適切に活用・維持管理されているか。

【評価・検証】

- ・認定里川数は平成 28 年の時点で目標値を達成しており、人々に親しまれる昔ながらの風景を残した川が大切に守られています。
- ・市道街路樹延長は経年的に整備が進められ、令和元年の時点で目標値を達成しています。

【総括】

- ・認定里川数と市道街路樹延長はともに目標値を達成しており、水と緑のネットワークが形成されています。引き続き、11 カ所の里川を始めとした水と緑に触れ合える環境を維持していくことが重要です。

3) 農山漁村部を支える交流や連携の仕組みづくり

農山漁村地域における自然環境を活かし、都市との多様な交流・連携の仕組みと、定住促進のための仕組みづくりを進めます。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
31	里地・里山活性化事業の取り組み数	30 事業 (累計)	30 事業	達成	取り組み数の増加
32	不作付地面積	282ha	377ha	75%	不作付地面積の減少

【評価・検証の視点】

水と緑の空間を活用した多様な交流・連携活動が行われているか。誇りや愛着の育成に効果が見られるか。

【評価・検証】

- ・里地里山活性化事業の取り組み数は経年的に増加し、目標値を達成しています。
- ・不作付地面積は、水稻の生産調整の影響や担い手不足により、削減が低調となっています。

【総括】

- ・農山漁村地域における里地・里山の活性化に向けた取り組みが進められています。引き続き、農業や地域資源を生かした魅力ある地域の取り組みを支援していくことが重要です。
- ・引き続き農地中間管理機構などの制度を活用し、農地集積と不作付地解消を推進することが必要です。

4) 心に残る美しい風景都市づくり

歴史や文化、生活と調和した福井市固有の美しい景観を、これからの都市づくりにおいて欠かすことのできない魅力的な要素として、市民とともに育てていきます。

	数値目標	目標値(R12)	現在値(R4)	進捗率	目指す方向性
33	特定景観計画区域の地区の指定数	8 カ所	7 カ所	88%	指定数の増加
34	景観に対する印象の評価 「良い」「まあまあ良い」の合計	45.0%	未調査	達成 (R2 83.0%)	「良い」「まあまあ良い」の増加
35	景観づくり地域団体認定数の累計	11 団体	7 団体	64%	認定数の増加

【評価・検証の視点】

美しいまちなみにより、世界に誇れる美しい福井が創られ、市民とともに育まれているか。

【評価・検証】

- ・特定景観計画区域の指定数は7カ所となっており、目標達成まで残り1箇所となっています。
- ・景観に対する印象の評価は令和2年で83.0%と目標値を大幅に上回っており、取り組みの効果が表れています。
- ・景観づくり地域団体は令和4年で7団体となっており、目標達成まで残り4団体となっています。

【総括】

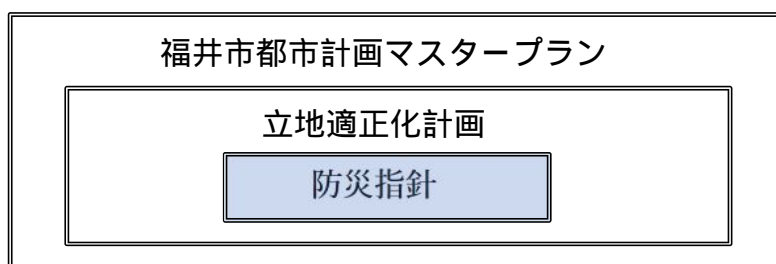
- ・景観づくりが進められ、景観に対する印象の評価は大きく向上しています。引き続き、特定景観計画区域の指定など、歴史や文化、生活と調和した都市づくりに向けた取り組みが必要です。

都市の現状と災害リスク分析について

1. 防災指針の背景と目的

近年、激甚化・頻発化する自然災害に備えるため、令和2年の都市再生特別措置法の改正において、持続可能で安全・安心して暮らせる都市づくりを推進する立地適正化計画に「居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針」(以下、「防災指針」という。)を定めることが、新たに位置付けられました。

防災まちづくりにおいては、災害リスク(種類、規模、頻度)の他、土地利用、都市基盤など地域特性に応じた取り組みが必要です。本市では、居住誘導区域等の安全性を高めるため、災害リスクをできるだけ回避あるいは低減に必要な防災・減災対策を計画的に実施していくことを目的に、防災指針を定めます。

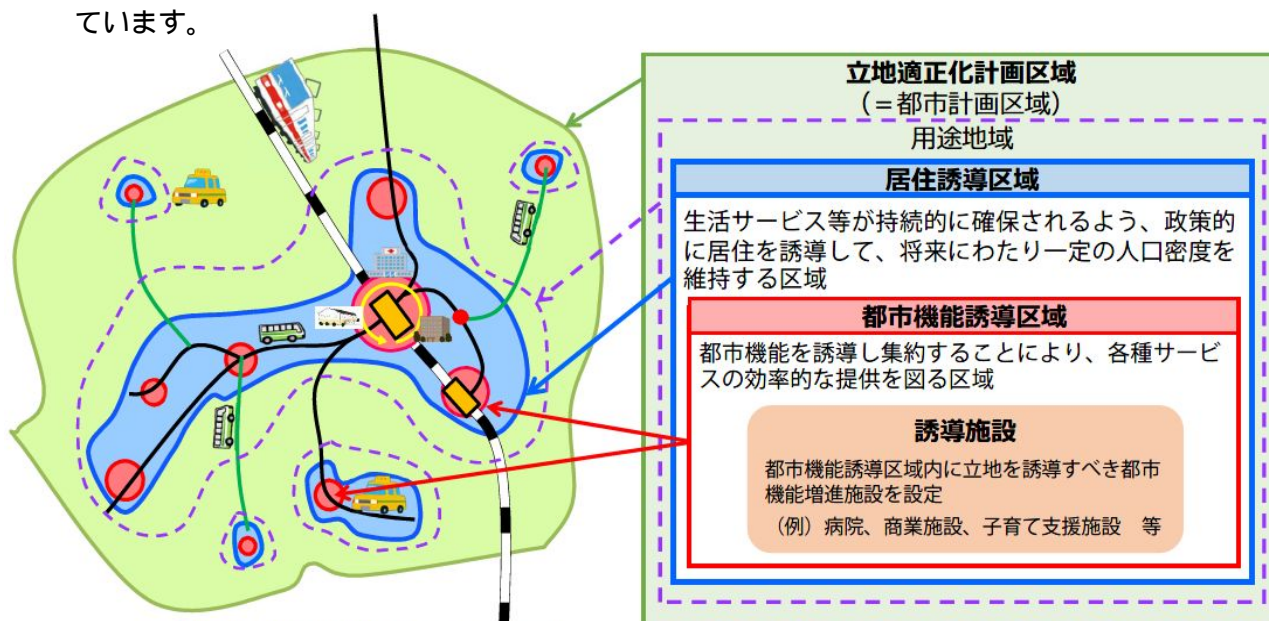


2. 立地適正化計画について

(1) 計画の概要

立地適正化計画とは、人口の急激な減少と高齢化等を背景として、都市計画法を中心とした従来の土地利用の計画に加えて、居住機能や都市機能の誘導によりコンパクトシティ形成に向けた取組を推進するため、平成26年に制度化された計画です。立地適正化計画では、計画対象区域は都市計画区域全体を基本とし、主に市街化区域の内側に居住を誘導する居住誘導区域を、福祉、医療、商業などの都市機能の立地を誘導する都市機能誘導区域を定めています。

本市では、行政区域(福井市都市マスタープランの対象区域)のうち、「福井都市計画区域」を計画の対象区域とし、平成28年度に都市機能誘導区域を、平成30年度には居住誘導区域を定めています。

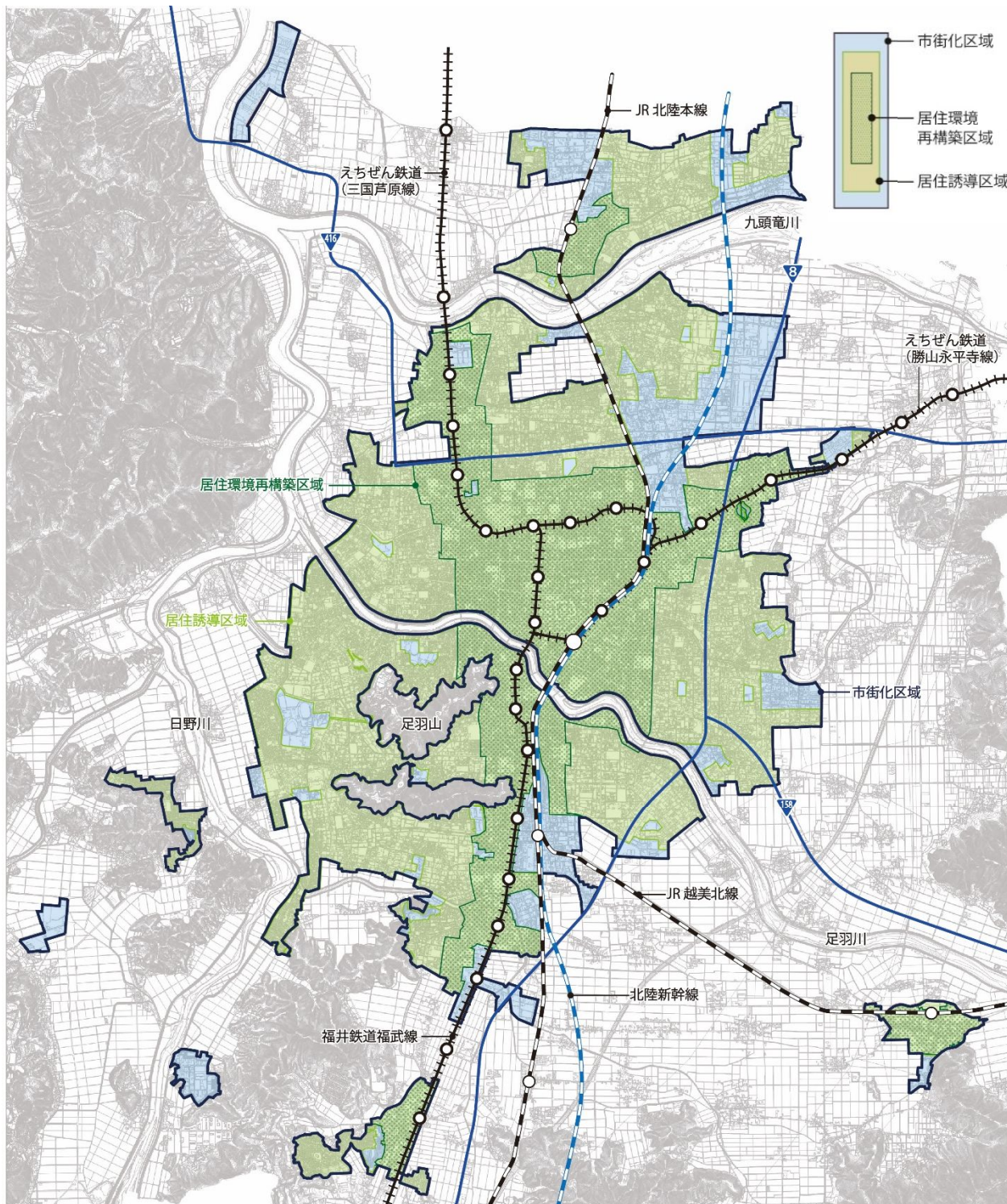


(※出典：改正都市再生特別措置法等について(国土交通省))

(2) 福井市立地適正化計画について

1) 居住誘導区域

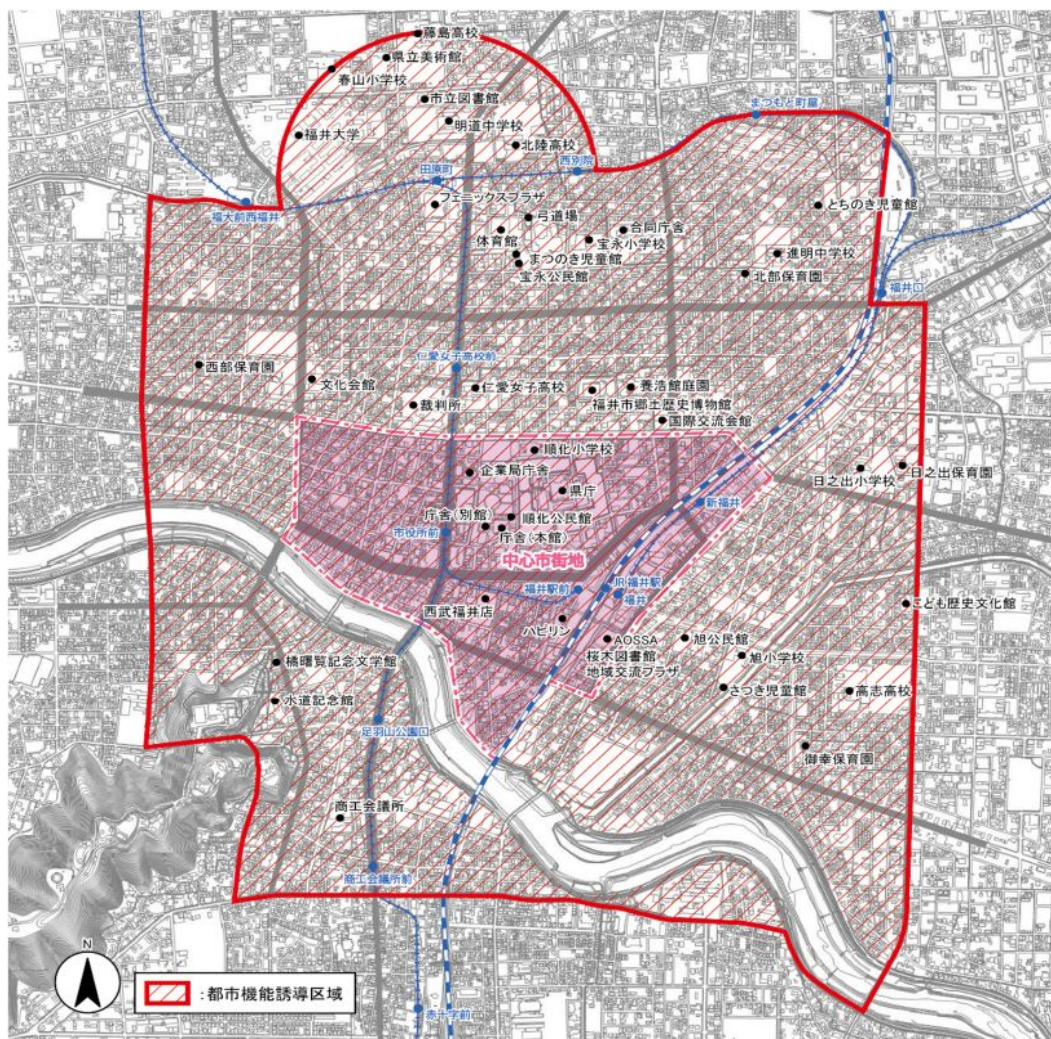
福井市立地適正化計画では、市街化区域内において土地区画整理事業による都市基盤の整備を積極的に進め、計画的な都市づくりを行った結果、医療施設、福祉施設、商業施設などの生活サービス施設は、市街化区域全体に立地し、戸建て住宅を中心とした良好な居住環境が形成されています。これまでの土地利用の経緯、特性を踏まえ、都市基盤ストックを活かした生活利便性の高い市街地において一定の人口密度を保つ区域を居住誘導区域として設定しています。



■ 居住誘導区域

2) 都市機能誘導区域

福井市立地適正化計画では、福井県及び福井市の中心的な役割を果たしてきた地区であるまちなか地区及び教育文化施設等の公共施設が集積し、まちなか地区と隣接する田原町駅周辺を、一体的に都市機能誘導区域として設定しています。



- 都市機能誘導区域（まちなか地区・田原町駅周辺）
市街化調整区域及び都市計画関連の規制等におけるレッドゾーンを除く

都市機能誘導区域内に定める誘導施設は、本市が県全体の中心都市であることを踏まえ、大学や行政サービス施設など、利用対象者が市民にとどまらず県民にも及ぶ広域的な施設を誘導施設として設定し、県全体の中心都市にふさわしい施設の維持、誘導を図っています。

誘導施設	■ まちなかのにぎわいを生み出す機能 (以下に掲げる施設のうち広域的な機能を有する施設とする。) ○ 行政サービス施設 : 市役所、県庁等 ○ 教育文化施設 : 国立大学 : 図書館、博物館、美術館 : 大規模ホールを有する複合交流施設 : 体育館（学校体育館、地域体育館などを除く。）等 ○ 商業施設 : 百貨店 ■ 高齢化の中でまちなか居住を支える機能 ○ 福祉施設 : 通所介護施設、通所リハビリテーション施設（これらの施設のうち、地域密着型サービスを提供する施設を除く。）
------	--

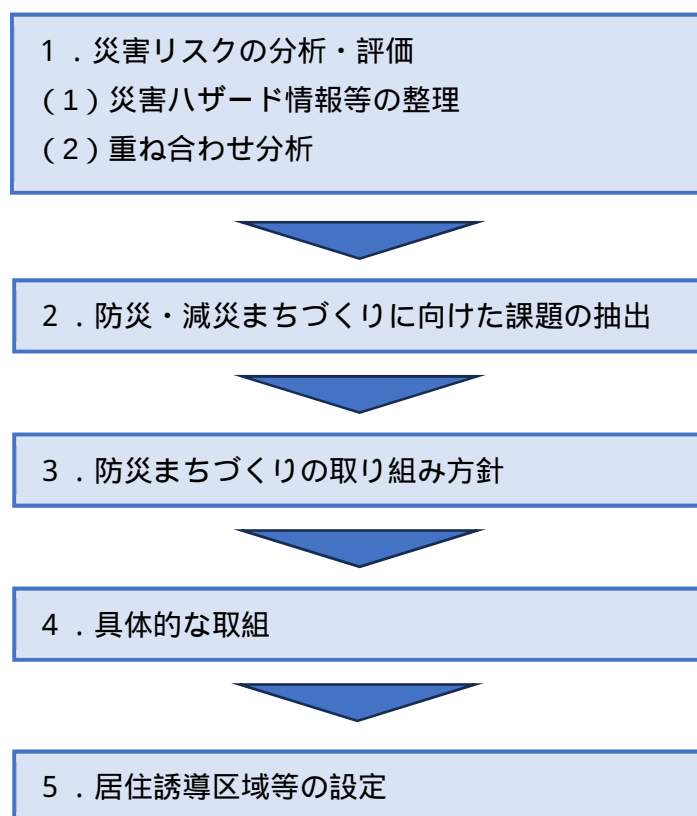
3.防災指針策定の流れ

防災指針は、以下の検討フローに基づき、分析した地区ごとの課題を踏まえて、取り組み方針を定め、ハード・ソフトの両面から災害リスクの回避、低減に必要な具体的な取り組みを位置づけることとします。対象とする区域は、居住誘導区域を基本とします。

災害ハザードのうち、浸水想定区域については、最大想定規模を基本とします。

災害ハザードのうち、内水浸水想定区域は、「福井市下水道ハザードマップ」で示している区域であり、下水道で雨水対策を実施している区域において、雨水が下水道に流しきれないことにより生じる浸水が想定される区域とします。

福井市地域防災計画と整合を図りながら、取り組み方針、具体的な取り組みを検討していきます。



4. 災害リスクの分析・評価

(1) 災害ハザード情報の整理

災害ハザード情報は、「都市計画関連の規制等」におけるレッドゾーンと、イエローゾーンのうち「災害発生時の危険度が高い地域」、大規模盛土造成地を対象とします。

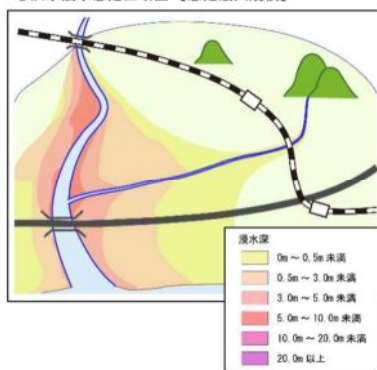
表 都市計画関連の規制等におけるレッドゾーン

	災害ハザード	区域の概要
レッドゾーン	災害危険区域	建築基準法に基づく県・市の条例により、急傾斜地の崩壊、出水等による危険が著しいとして指定する区域
	地すべり防止区域	ア) およびイ) を包括する地域 ア) 地すべり区域 ・ 地すべりしている区域 ・ 地すべりするおそれのきわめて大きい区域 イ) 地すべり区域に隣接する区域 ・ 地すべりを助長、誘発している地域 ・ 地すべりを助長、誘発するおそれがきわめて大きい区域
	急傾斜地崩壊危険区域	崩壊するおそれのある急傾斜地（傾斜度が 30 度以上の土地）で、その崩壊により相当数の居住者その他の者に被害のおそれのある区域
	土砂災害特別警戒区域	土砂災害（土石流、急傾斜地、地すべり）が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域
	浸水被害防止区域	洪水が発生した場合に人の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域
	津波災害特別警戒区域	最大クラスの津波が発生した際に、建築物が損壊または浸水し、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域

表 都市計画関連の規制等におけるイエローゾーンのうち「災害発生時の危険度が高い地域」

	災害ハザード	区域の概要
イエローゾーン	洪水浸水想定区域	想定浸水深が 3m 以上の区域
		浸水継続時間が 3 日以上以上の区域
		家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）
		家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）
	内水浸水想定区域	内水による浸水が想定される区域
	土砂災害警戒区域	土砂災害（土石流、急傾斜地、地すべり）が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域
	津波災害警戒区域	最大クラスの津波が発生した際に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがある区域

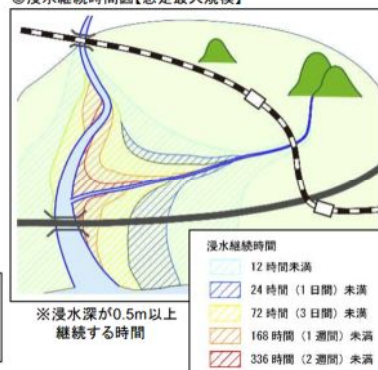
◎洪水浸水想定区域図【想定最大規模】



◎家屋倒壊等氾濫想定区域図【想定最大規模】



◎浸水継続時間図【想定最大規模】



分析・評価するハザード

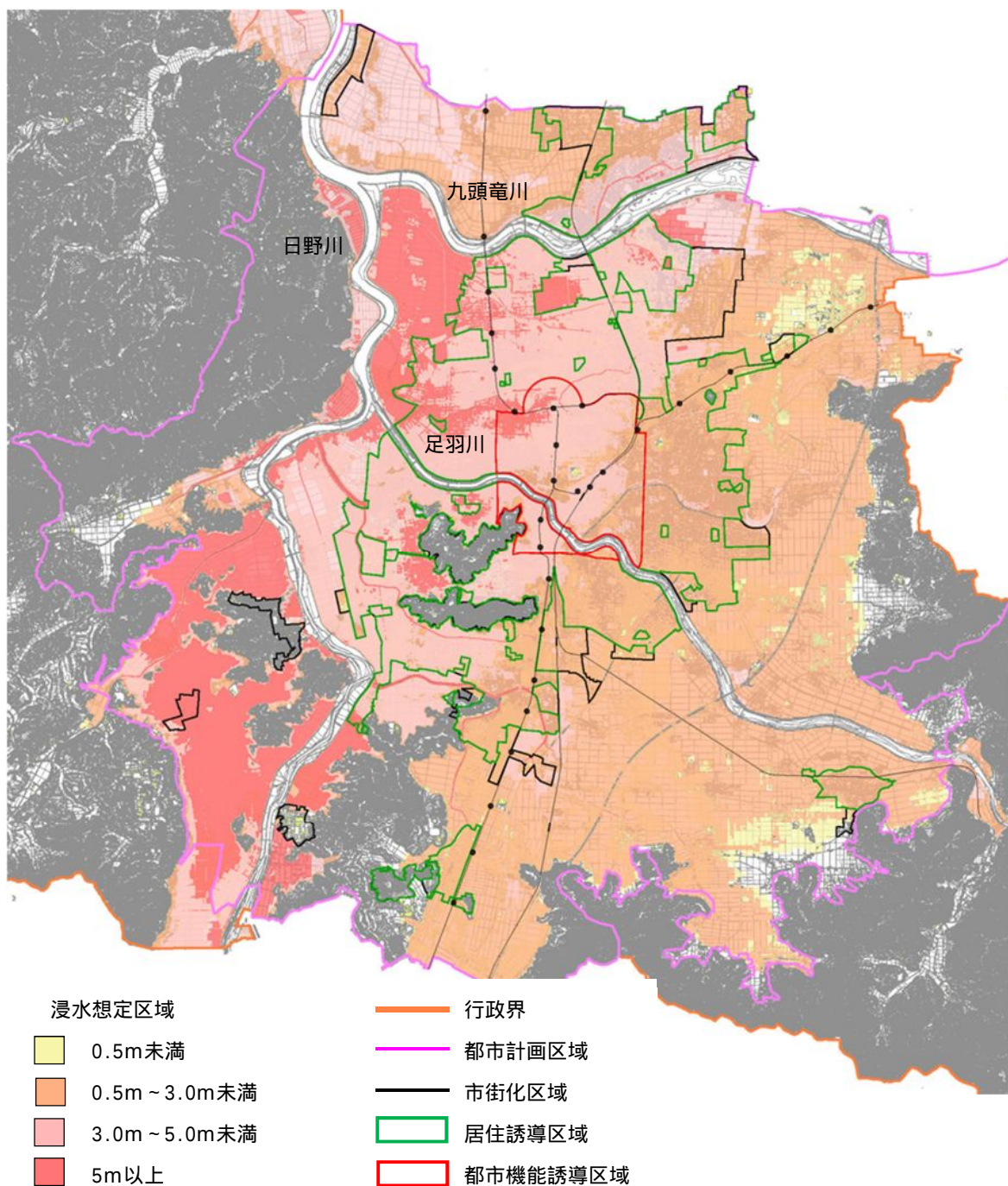
災害ハザード	
想定浸水深が3m以上の地域 ■ 浸水深と人的被害のリスク(出典:立地適正化計画策定の手引き)	浸水深が3mを超えると、一般的な家屋の1階部分が水没し、2階まで水が来ることから自宅での垂直避難が困難となる 2階部分も水没 5.0m 1階部分が水没 3.0m 人の背丈を超える浸水深となるおそれ 0.5m
浸水継続時間が3日以上地域	各家庭の飲料水や食料等の備蓄は3日以内の家庭が多いと推察され、3日以上孤立すると健康障害の発生や最悪の場合は生命の危機が生じるおそれがある(資料:立地適正化計画作成の手引き)
家屋倒壊等氾濫想定区域	洪水時に家屋の流失・倒壊をもたらすような氾濫流が発生するおそれがある範囲であり、屋内に避難した場合でも災害に巻き込まれる危険がある 氾濫流 河川堤防の決壊または洪水氾濫による水の流れにより、木造家屋の倒壊のおそれがある区域 河岸浸食 洪水時の河岸浸食により、木造・非木造の家屋倒壊のおそれがある区域 写真・図 氾濫流や河岸浸食による家屋への被害 出典:国土交通省、厚木市
土砂災害警戒区域	土砂災害(土石流、急傾斜地、地すべり)が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがある
大規模盛土造成地	大規模な地震発生時において、盛土が滑動崩落することが原因で宅地被害が生ずるおそれがある
内水浸水想定区域	降雨が排水施設の排水能力を上回り、排水できなくなることで、浸水被害が生じるおそれがある

(2) 災害リスクの分析・評価

災害ハザード情報と関連する都市の情報を重ね合わせて、災害リスクを分析・評価します。

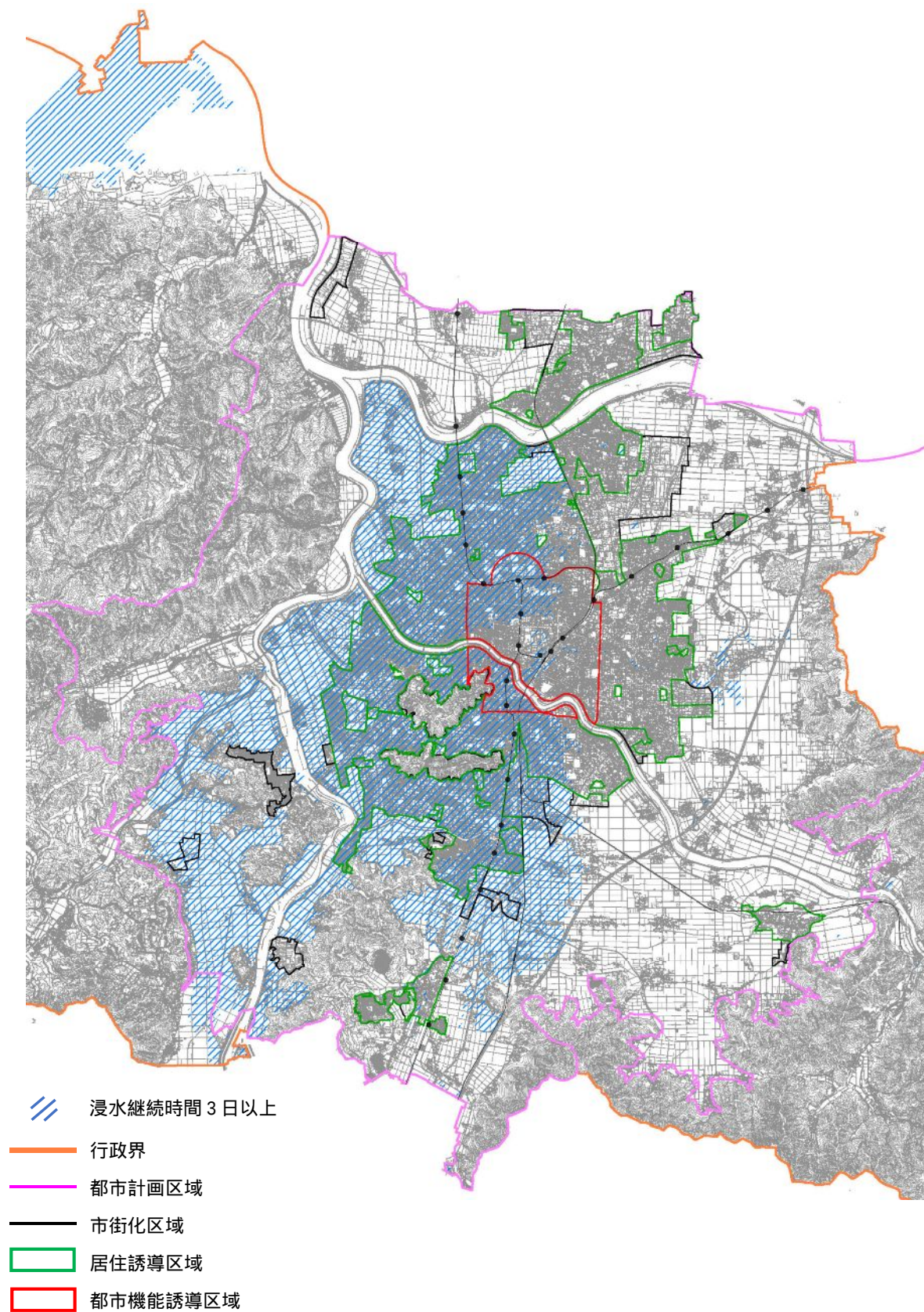
洪水浸水想定区域（想定最大規模）

- ・市街地全域に洪水浸水想定区域が広がっています。
- ・特に市街地西側には3.0m以上の区域が広く分布しており、九頭竜川、日野川、足羽川の合流部には、5.0m以上の区域も見られます。



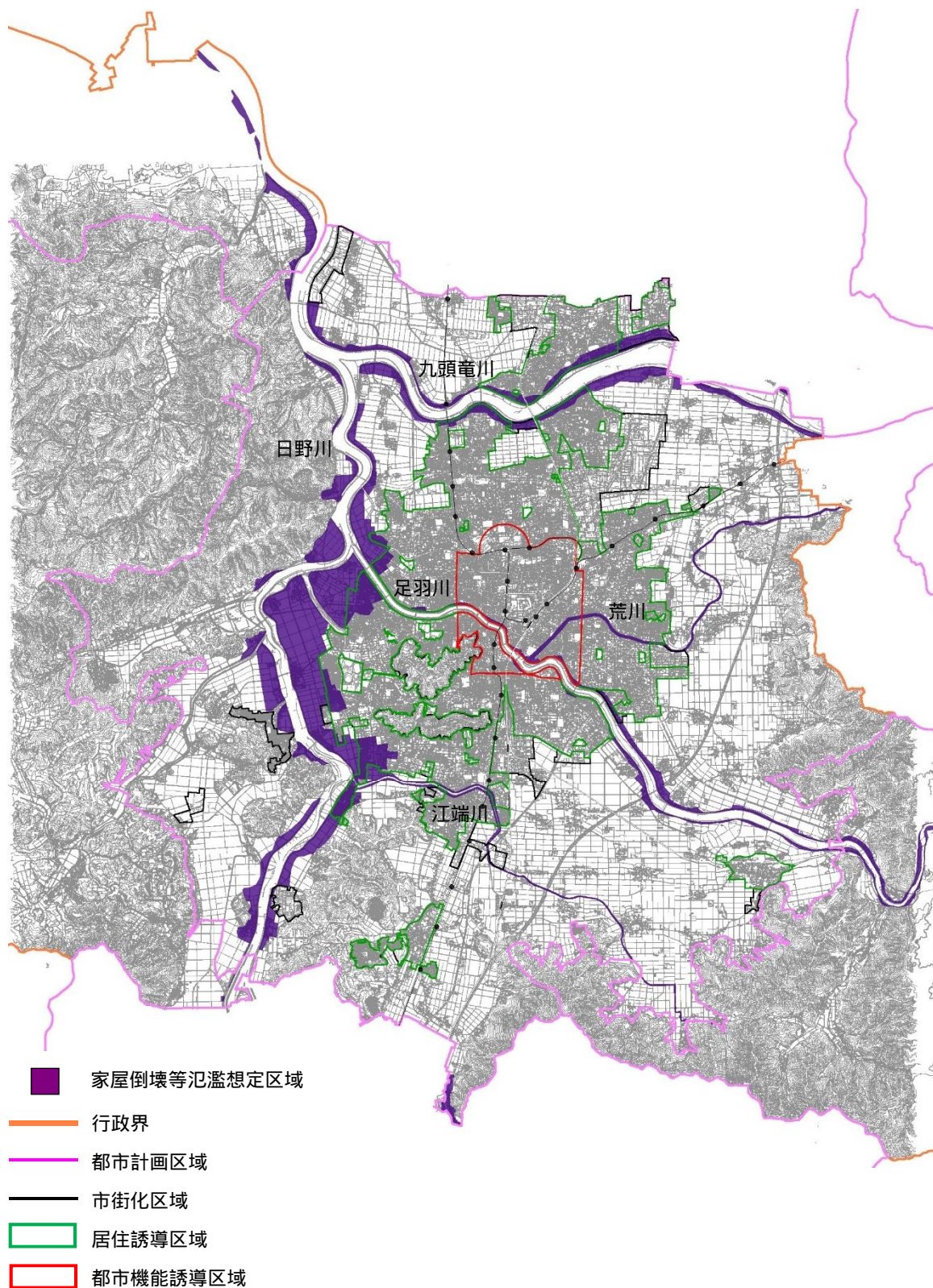
浸水継続時間 3 日以上区域（想定最大規模）

- ・市街地の西側に広く分布しています。



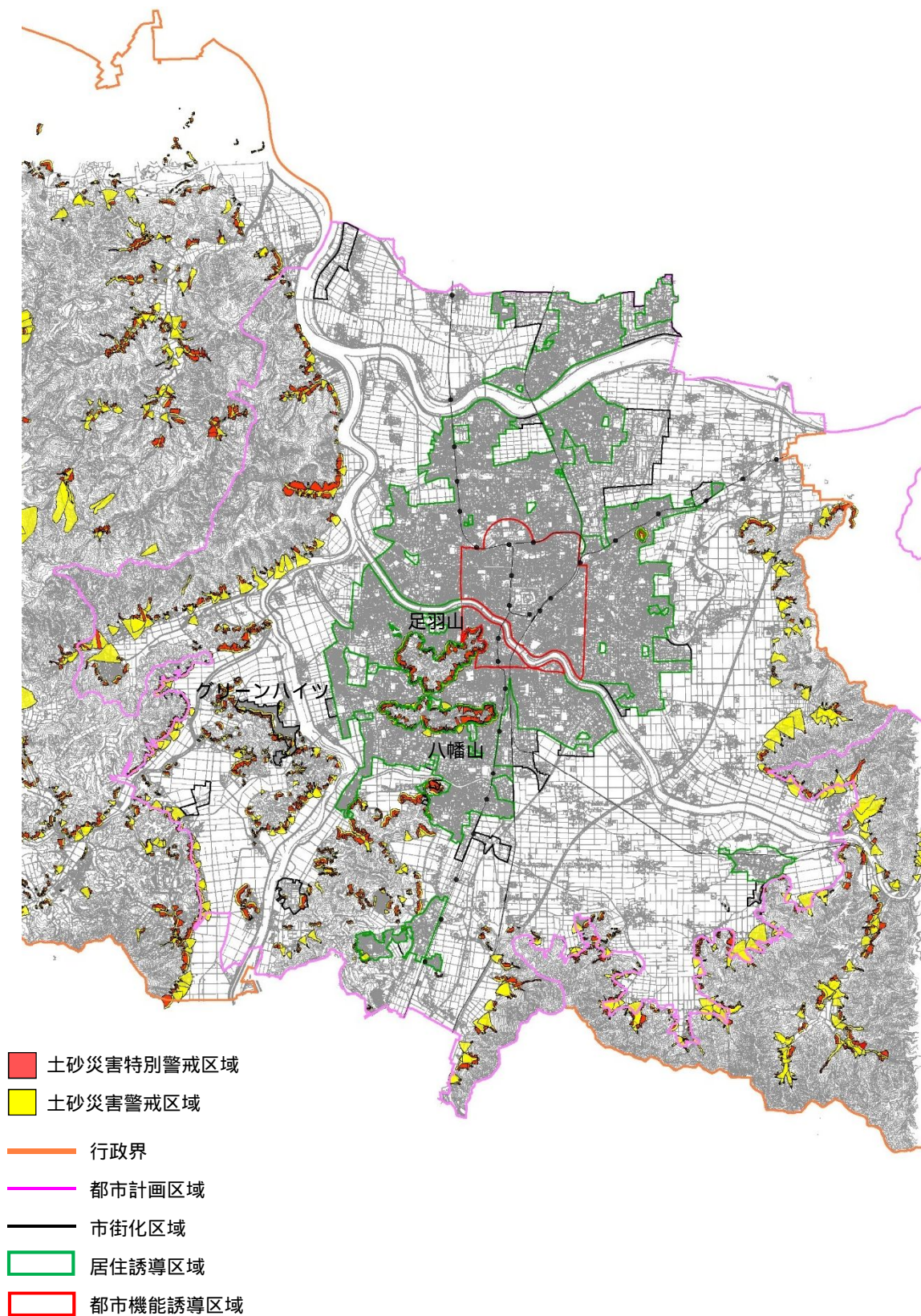
家屋倒壊等想定区域（河岸浸食、氾濫流）（想定最大規模）

- ・九頭竜川、日野川、足羽川、荒川、江端川周辺に家屋倒壊等氾濫想定区域が分布しています。



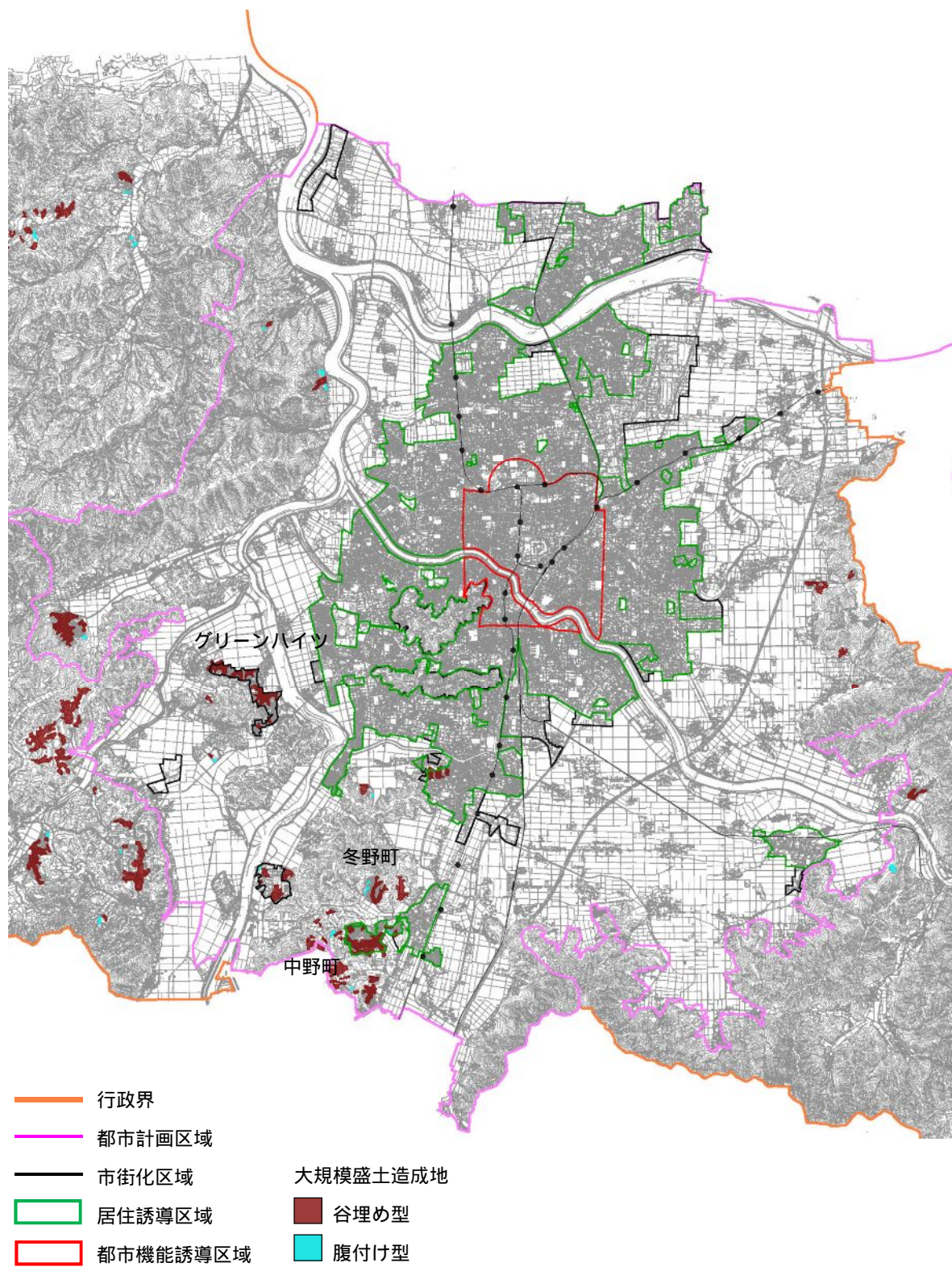
急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域

- ・急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域は、山際に分布しています。
- ・市街地においては、足羽山、八幡山、グリーンハイツの周辺に分布しています。



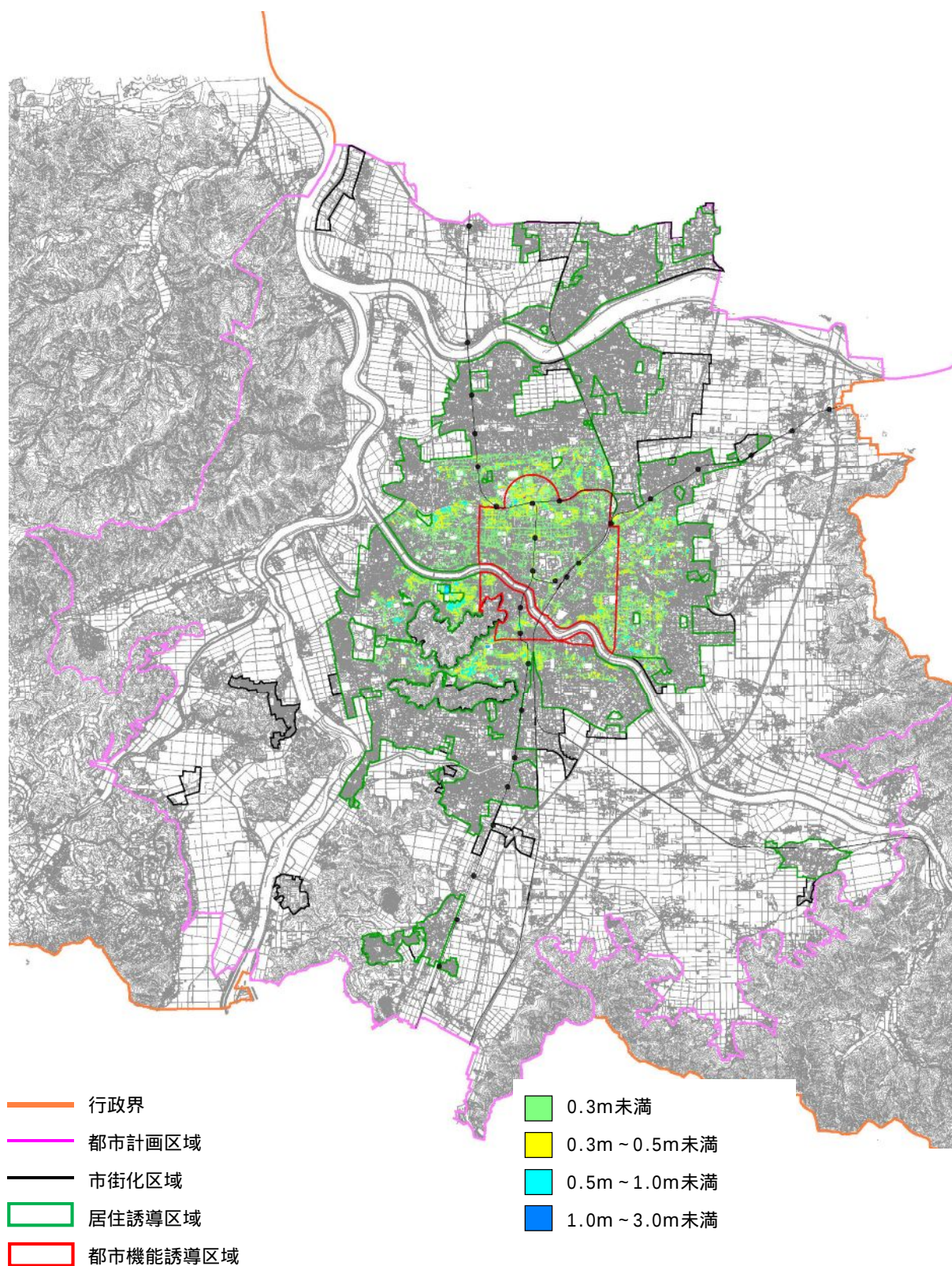
大規模盛土造成地

- ・大規模盛土造成地は、山際に分布しています。
- ・グリーンハイツ周辺や中野町・冬野町周辺の大規模盛土造成地には、住宅地が形成されています。



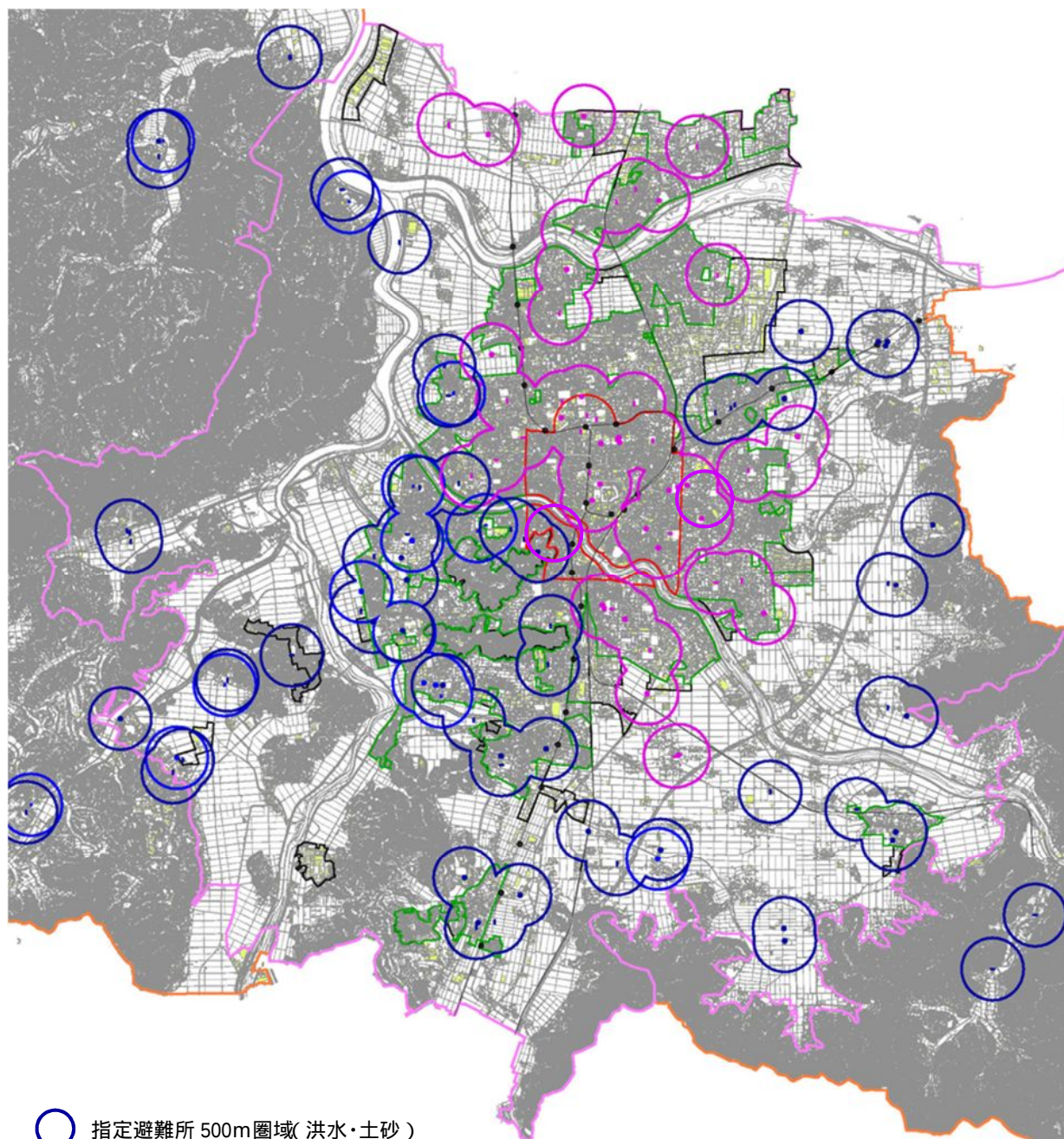
内水浸水想定区域

- ・内水浸水想定区域は、都市機能誘導区域周辺に分布しています。0.3m 未満、0.3m～0.5m 未満の浸水深が多いですが、一部 0.5m 以上の浸水深が見られます。



指定避難所 500m圏域（洪水、土砂）

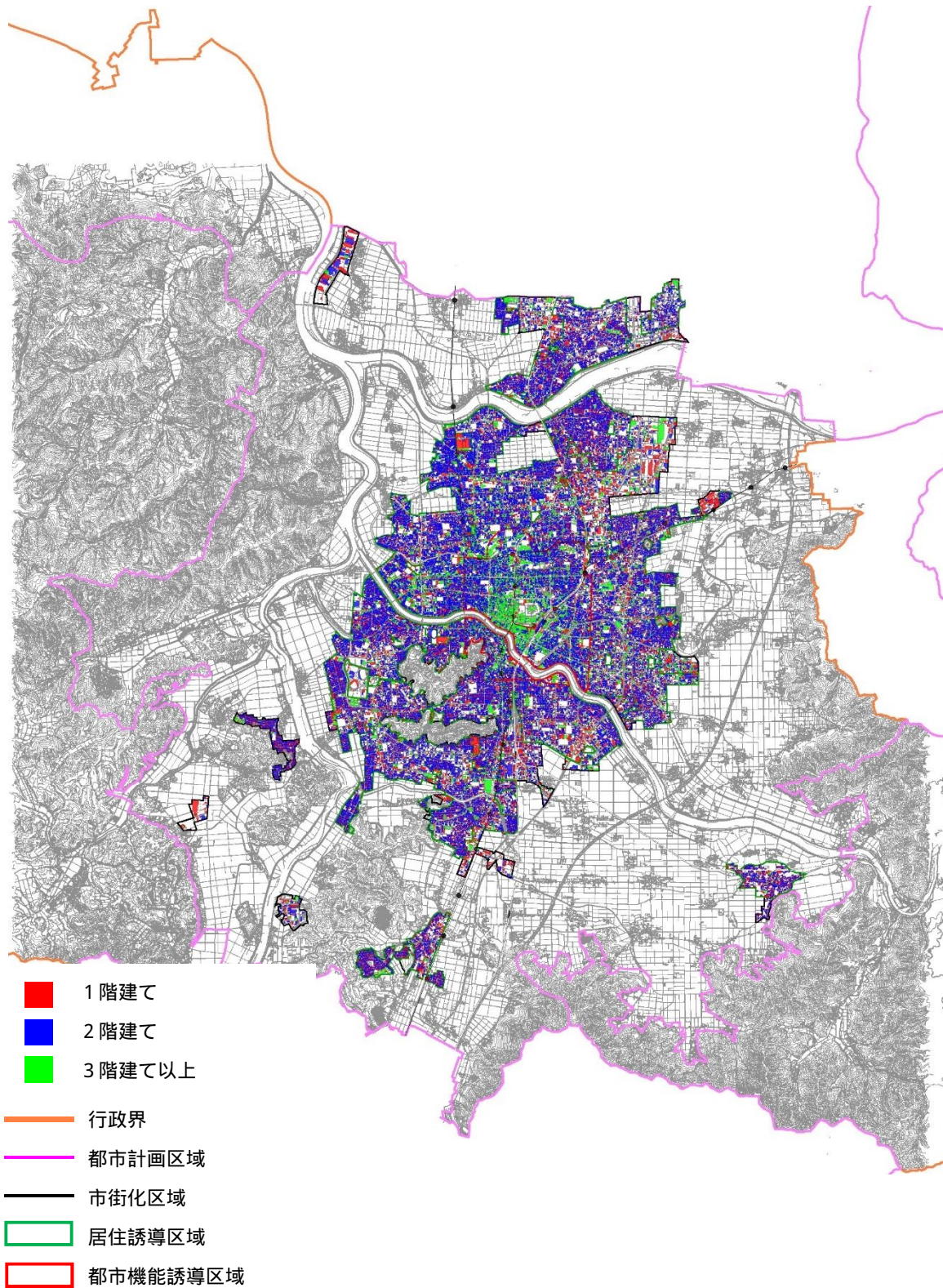
- ・指定避難所 500m圏域は、市街地を概ねカバーするように分布しています。



- 指定避難所 500m圏域(洪水・土砂)
- 指定避難所 500m圏域(洪水)
- 指定避難所 500m圏域(土砂)
- 行政界
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 都市機能誘導区域

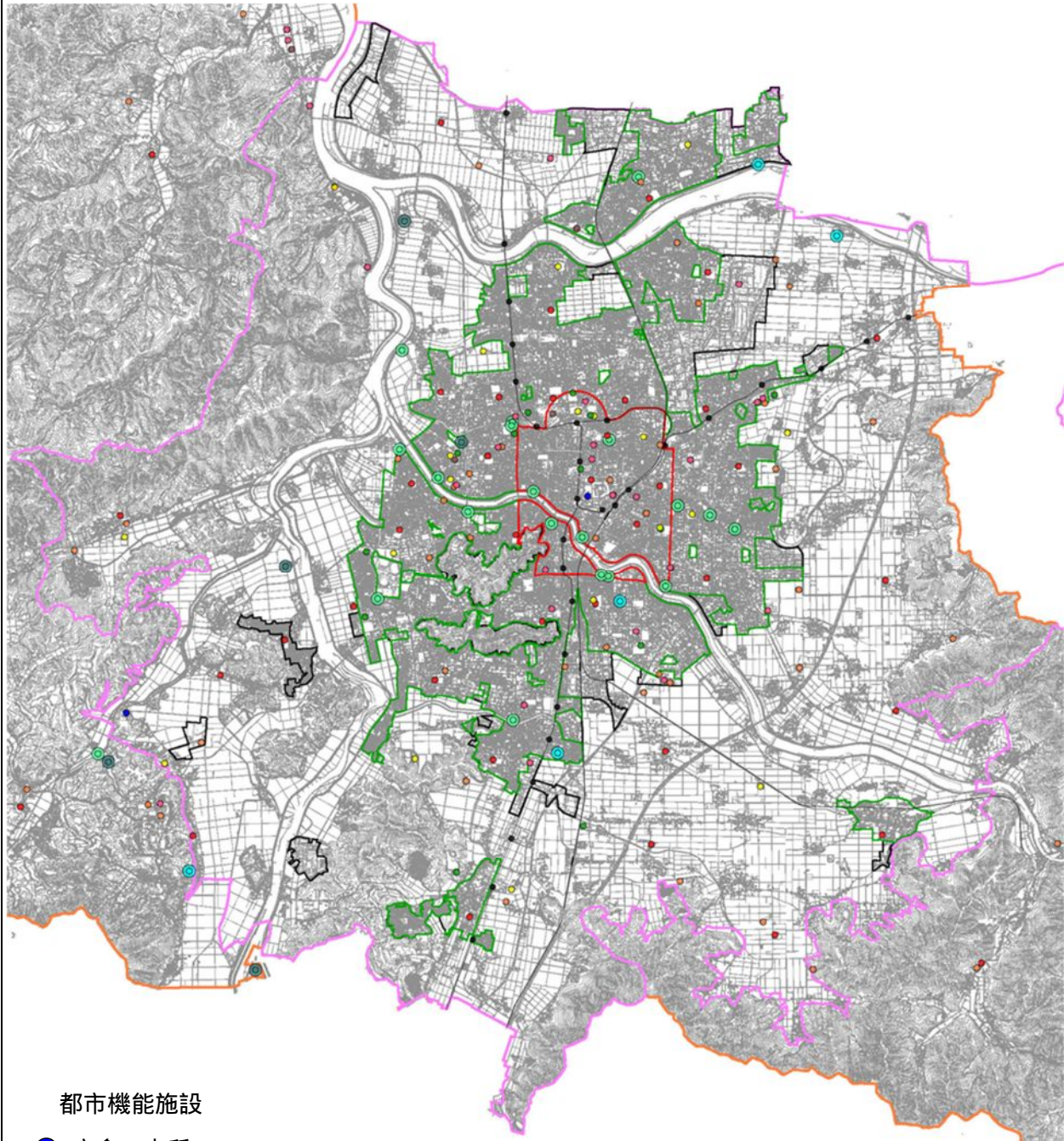
建物分布（階数）

- ・市街地内の多くは2階建て建築物が立地しており、3階建て以上の建築物は中心市街地周辺に多く立地しています。



都市機能施設、インフラ施設

- ・市街地を中心に、都市機能施設、インフラ施設が立地しています。



都市機能施設

- 庁舎・支所
- 病院
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 大学
- 福祉施設

インフラ施設

- 浄水場
- ポンプ場
- 処理場施設

- 行政界
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 都市機能誘導区域

重ね合わせ分析について

災害ハザード情報については、本市に広く分布している想定最大規模による洪水浸水想定区域、浸水継続時間3日以上区域、家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食、氾濫流）、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域の状況について重ね合わせます。

都市の情報については、避難所500m圏域、建物分布（構造階数、立地状況）、都市機能施設・インフラ施設の状況について重ね合わせます。

分析の視点については、災害ハザード情報と都市の情報を重ね合わせることで課題を抽出し、ソフト・ハード両面からの対策の立案につなげます。

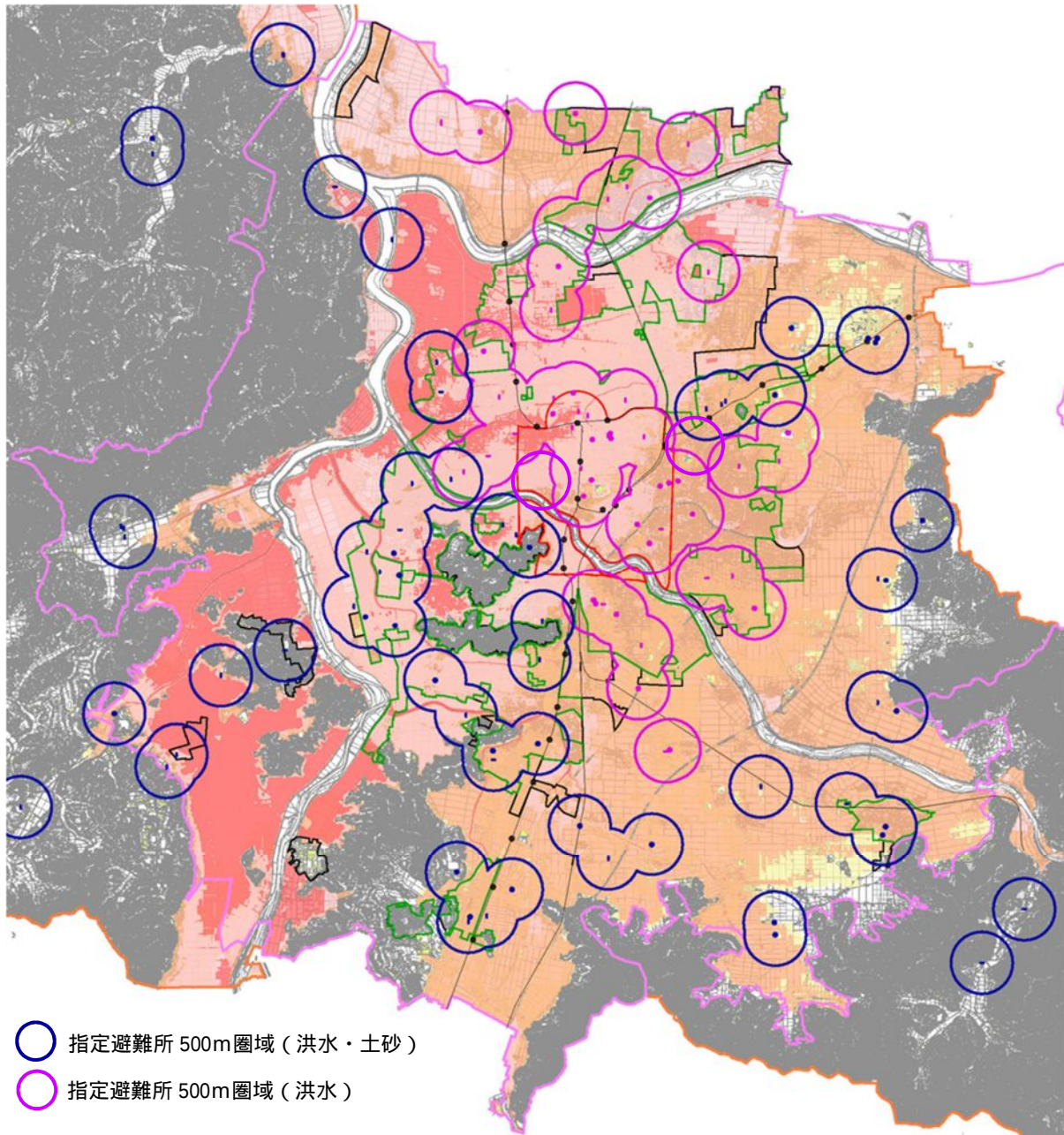
表 重ね合わせる情報と分析の視点

災害ハザード情報		都市の情報		分析の視点
・洪水浸水想定区域 （想定最大規模）	×	建築物の構造階数	→	災害時に垂直避難が可能か
・浸水継続時間3日以上区域	×	都市機能施設※	→	災害時にそれぞれの機能を維持できるか
・家屋倒壊等氾濫想定区域 （河岸浸食・氾濫流）	×	指定避難所	→	災害時に避難所としての機能を維持できるか
・土砂災害特別警戒区域	×	インフラ施設 （上・下水道関連施設）	→	インフラ施設の機能停止のおそれがないか
・土砂災害警戒区域	×		→	
・急傾斜地崩壊危険区域	×		→	
・大規模盛土造成地	×		→	
・内水浸水想定区域	×		→	
上記のリスクの 重ね合わせ	×		→	複合災害のおそれがないか

都市機能施設は、「庁舎・支所」、「病院」、「学校」、「福祉施設」を対象とする

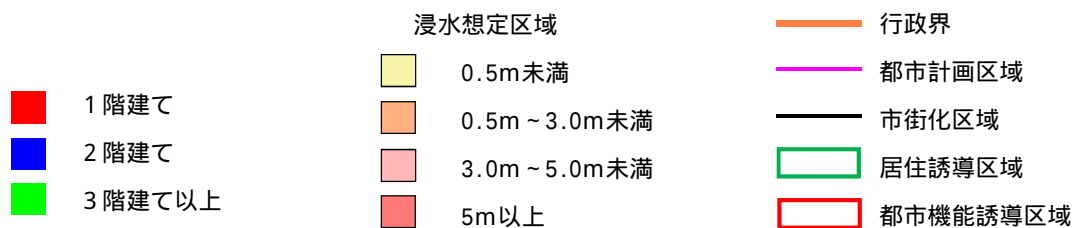
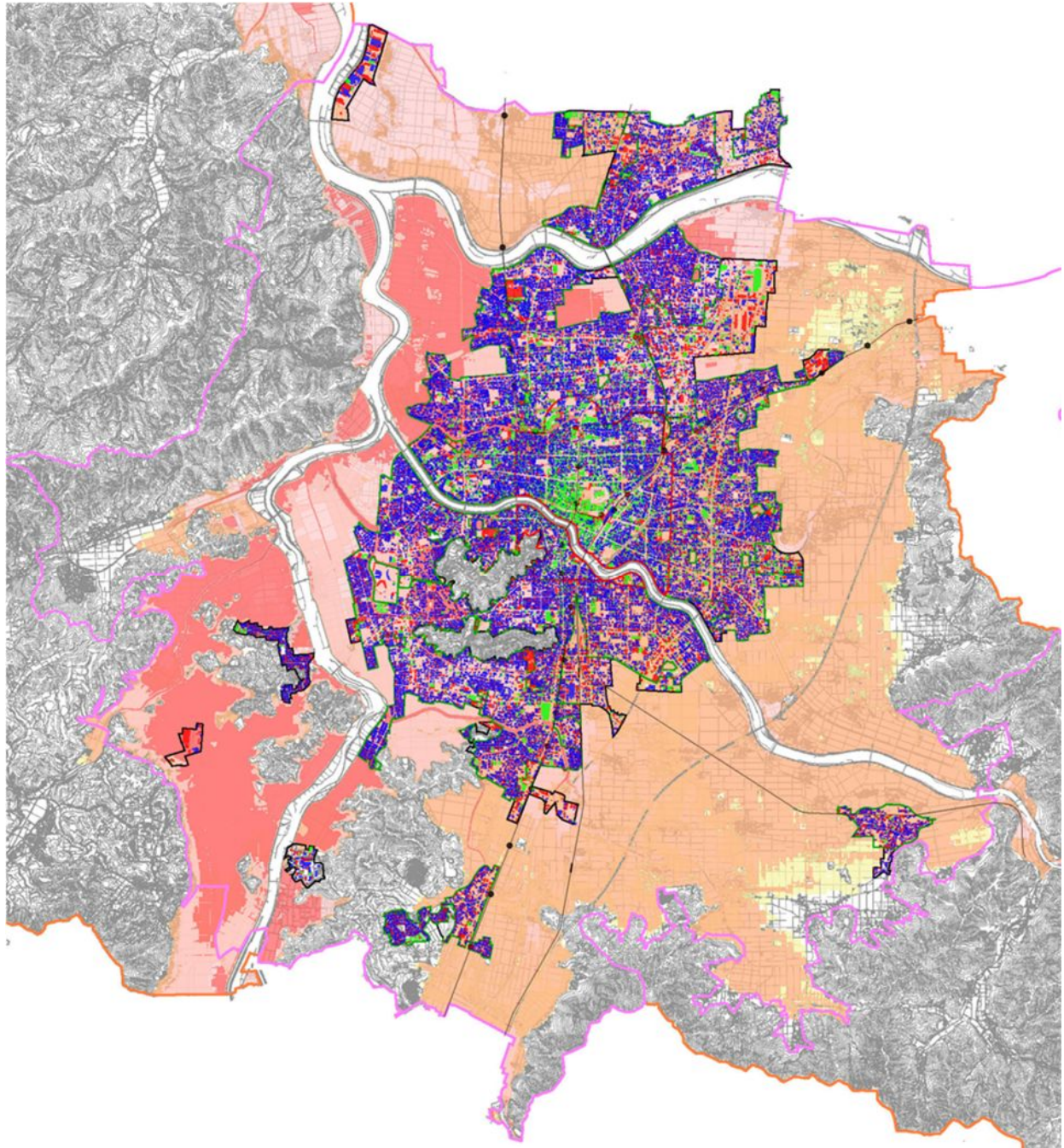
洪水浸水想定区域（想定最大規模）× 指定避難所（洪水）500m圏域

- ・避難が困難となる浸水深 0.5m 以上のエリアが広く分布していることが分かります。
- ・浸水深 3.0m 以上のエリアが広がっており、災害時に避難が困難となったり、学校の体育館等は避難所としての機能が維持できないおそれがあります。



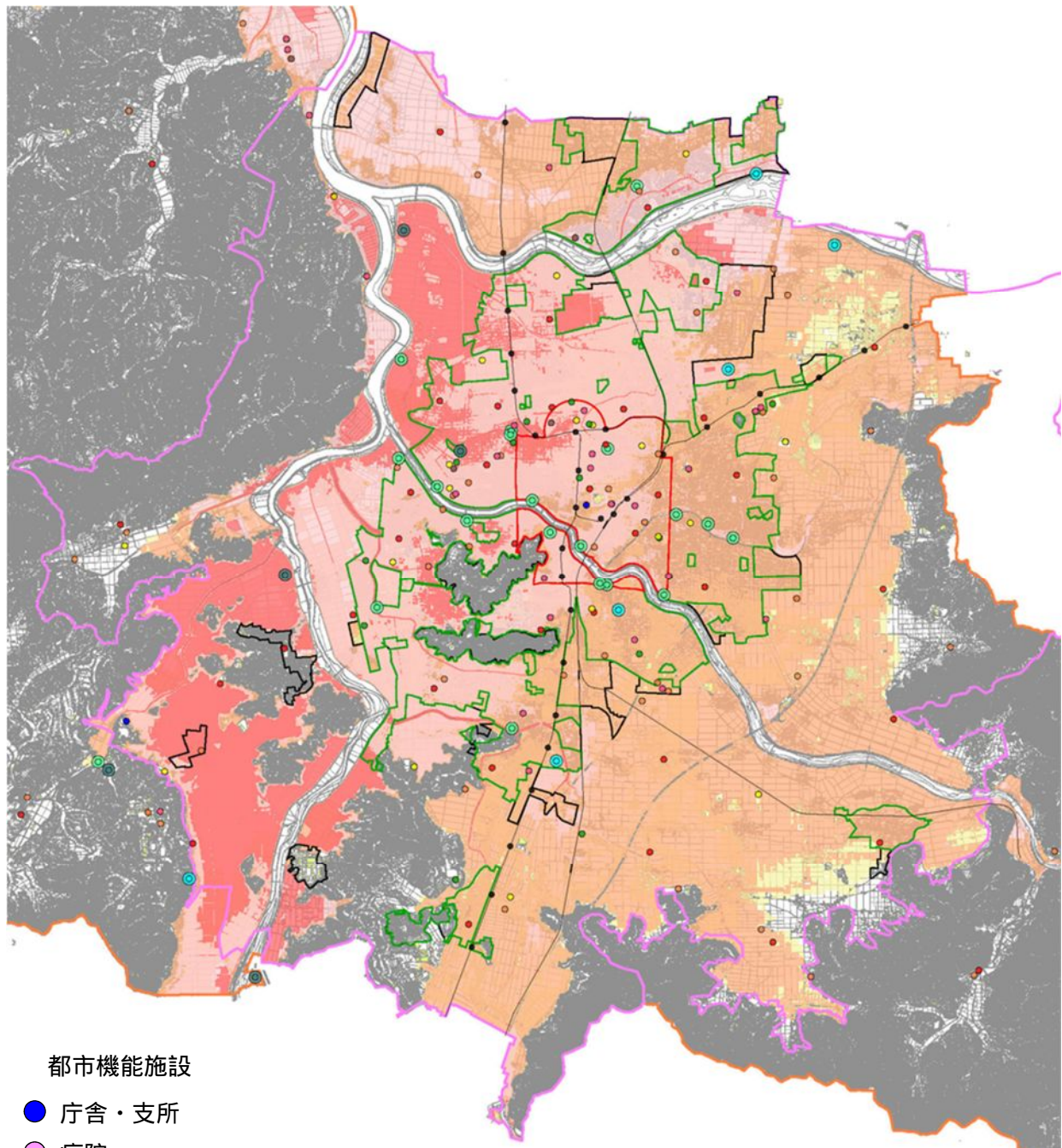
洪水浸水想定区域（想定最大規模）× 建物分布（階数）

- ・洪水浸水想定区域内には、2階建て以上の建物が多いものの、1階建ての建物も点在しています。
- ・浸水深 3.0m以上が想定される区域において、想定される浸水深に比べて階数が低い建物が多く立地しており、建物内での垂直避難が困難になることから、早期避難が求められます。



洪水浸水想定区域（想定最大規模）×都市機能施設、インフラ施設

- ・洪水浸水想定区域内に要配慮者が利用する病院や福祉施設、子供が集まる学校など都市機能施設が多く立地している。インフラ施設は、浸水によって機能が維持できなくなるおそれがあります。



都市機能施設

- 庁舎・支所
- 病院
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 大学
- 福祉施設

インフラ施設

- 浄水場
- ポンプ場
- 処理場施設

浸水想定区域

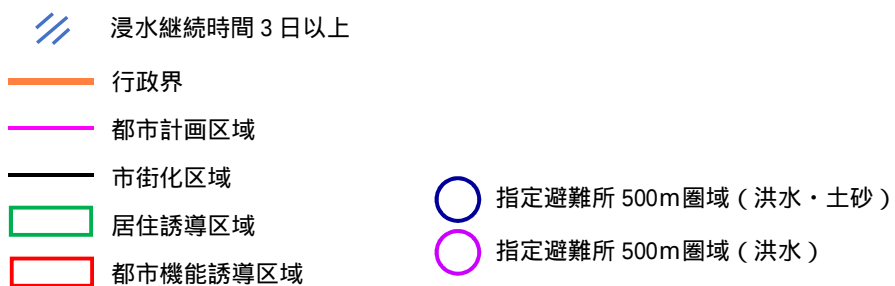
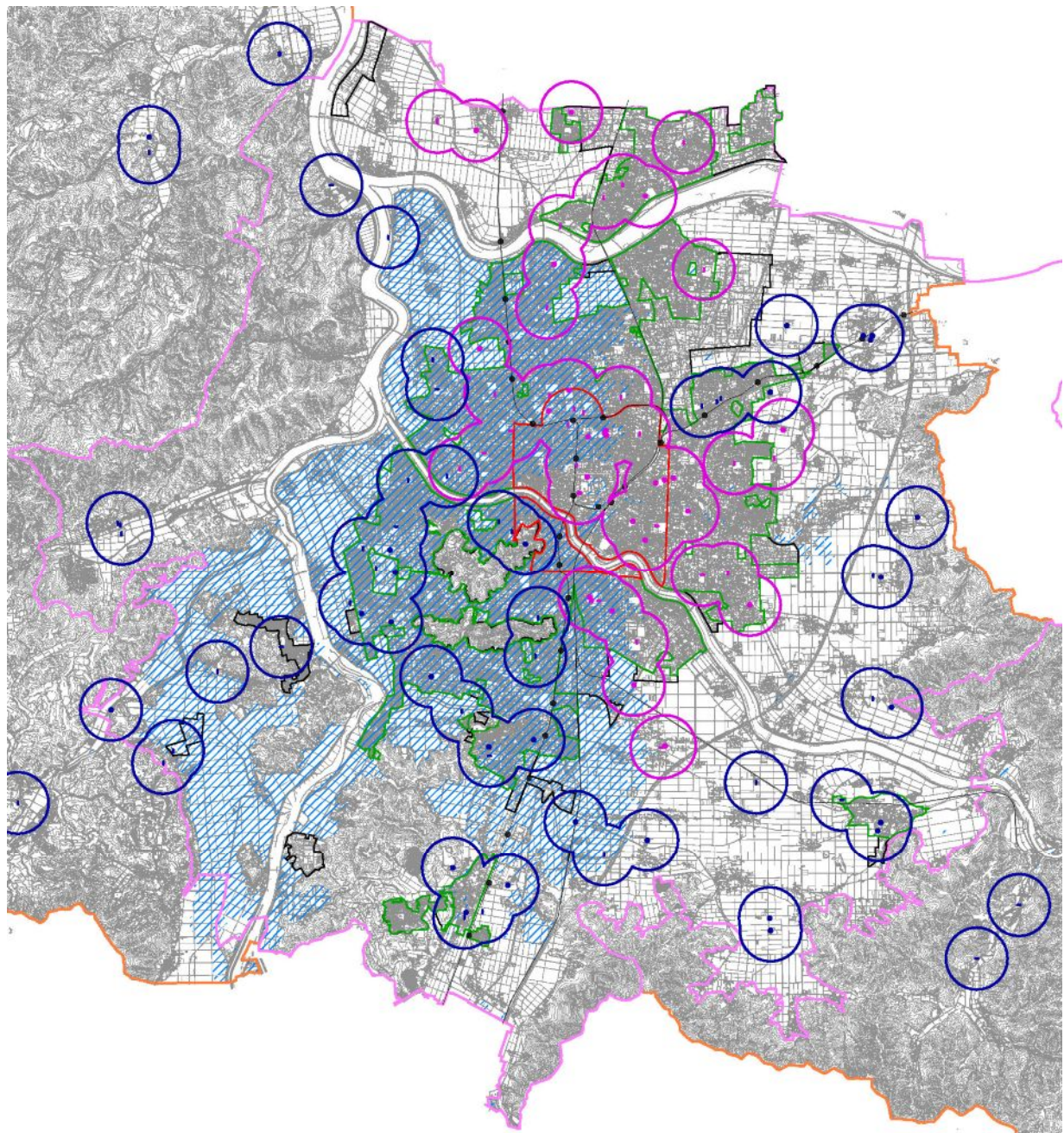
- 0.5m未満
- 0.5m～3.0m未満
- 3.0m～5.0m未満
- 5m以上

行政界

- 都市計画区域
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 都市機能誘導区域

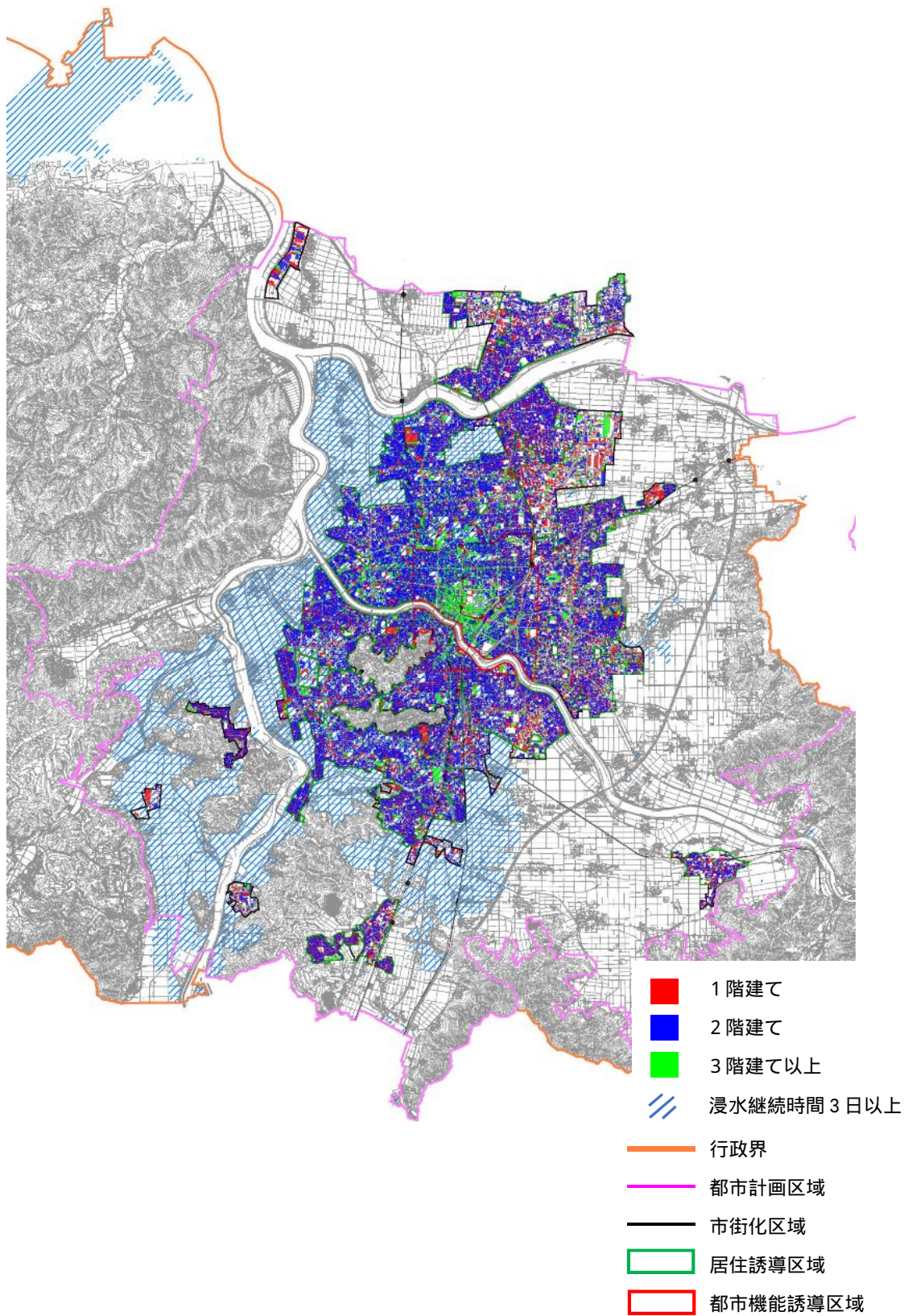
浸水継続時間 3 日以上区域（想定最大規模）× 指定避難所（洪水）

- ・市街地の西側において、浸水継続時間 3 日以上区域に指定避難所が多く含まれており、学校の体育館等は避難所としての機能が維持できないおそれがあります。



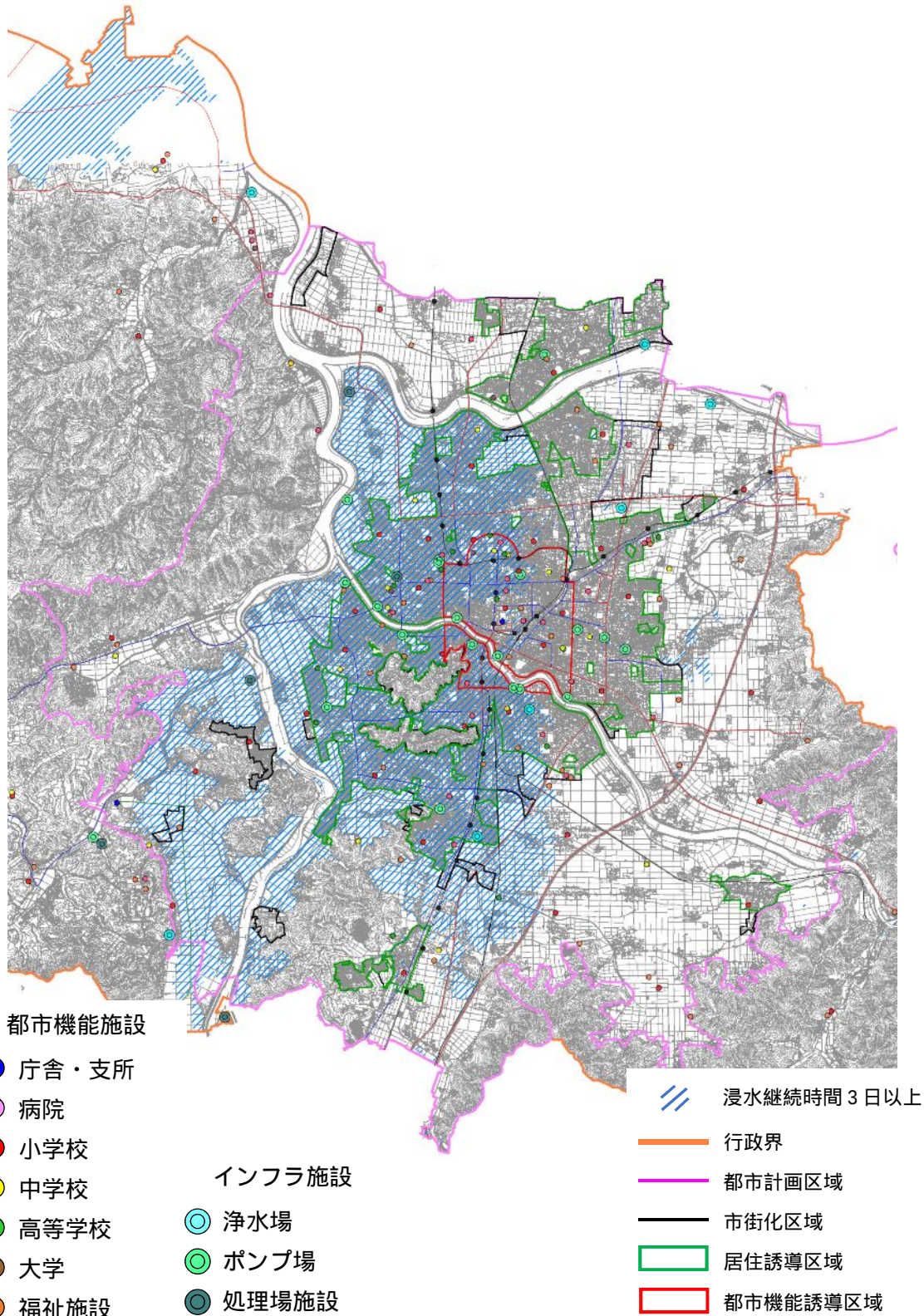
浸水継続時間 3 日以上区域（想定最大規模）× 建物分布

- ・ 浸水継続時間 3 日以上区域内に建物分布が多く分布しており、長期間に渡り移動や買い物などができなくなるおそれがあります。



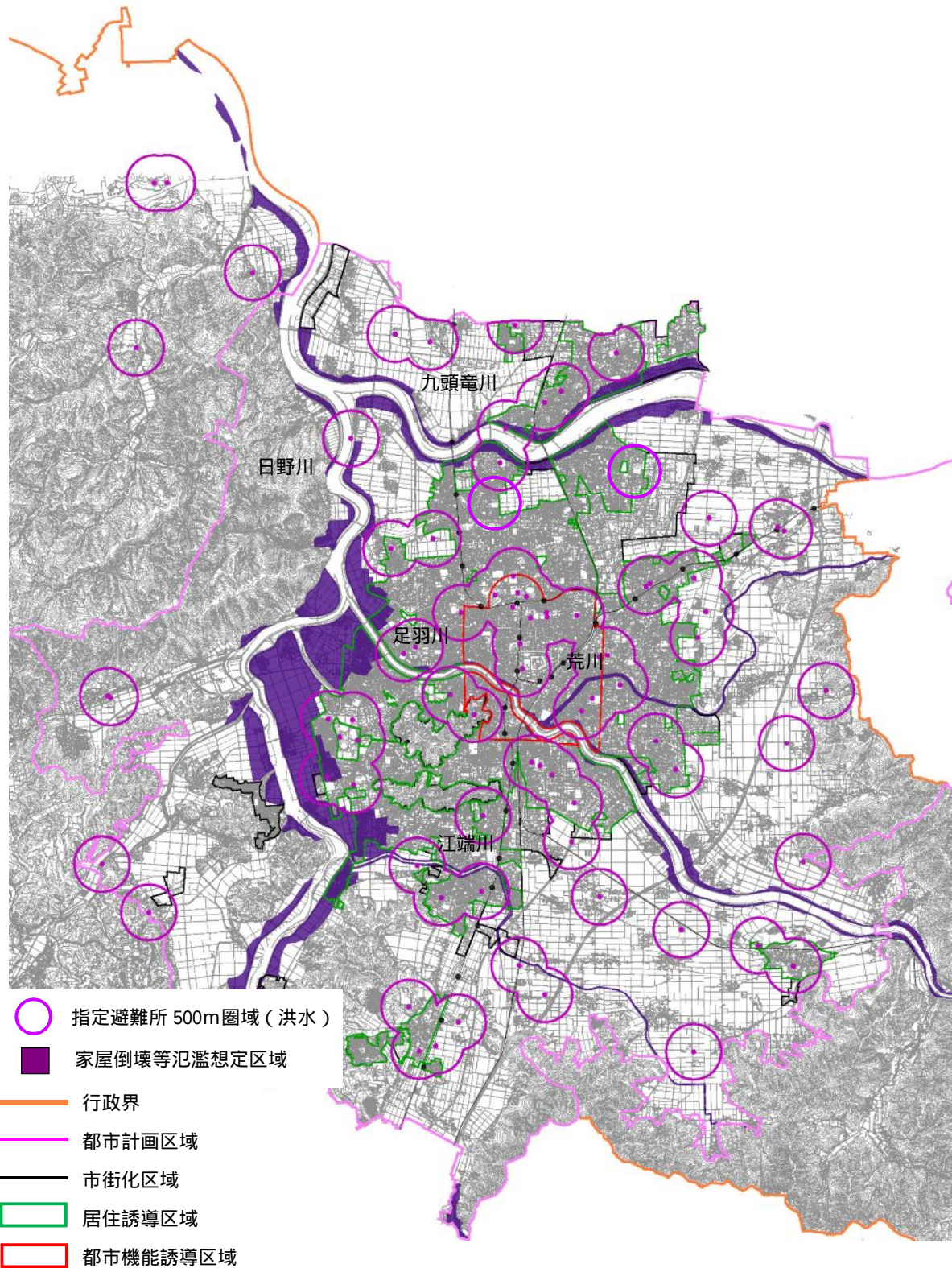
浸水継続時間 3 日以上区域（想定最大規模）× 都市機能施設、インフラ施設

- ・ 浸水継続時間 3 日以上区域に都市機能施設が立地しており、要配慮者や子供が長期間に渡り移動や生活物資の補給ができなくなるおそれがあります。



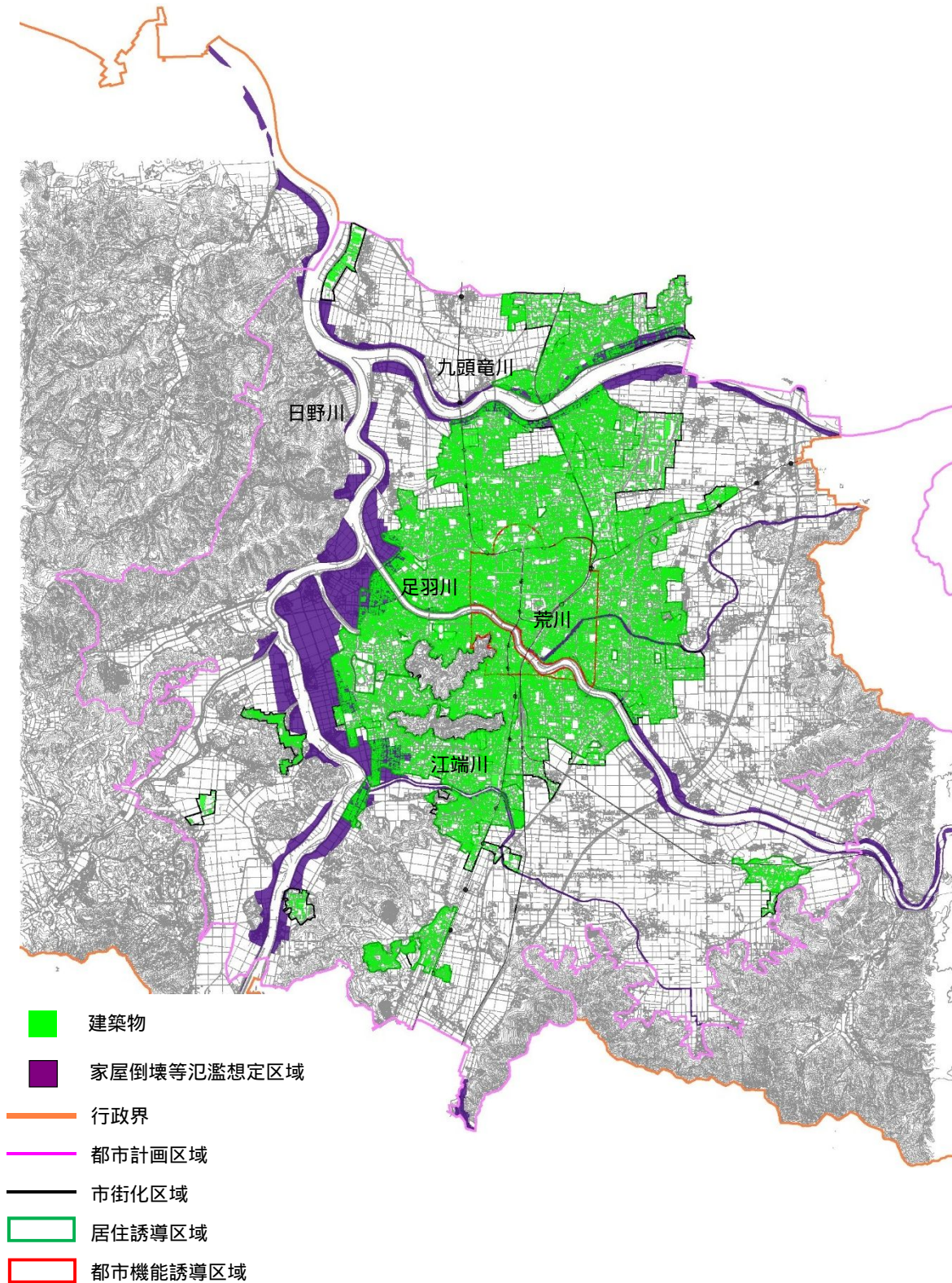
家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模）×指定避難所（洪水）

- ・一部の指定避難所が家屋倒壊等氾濫想定区域に含まれており、避難所としての機能が維持できなくなるおそれがあります。



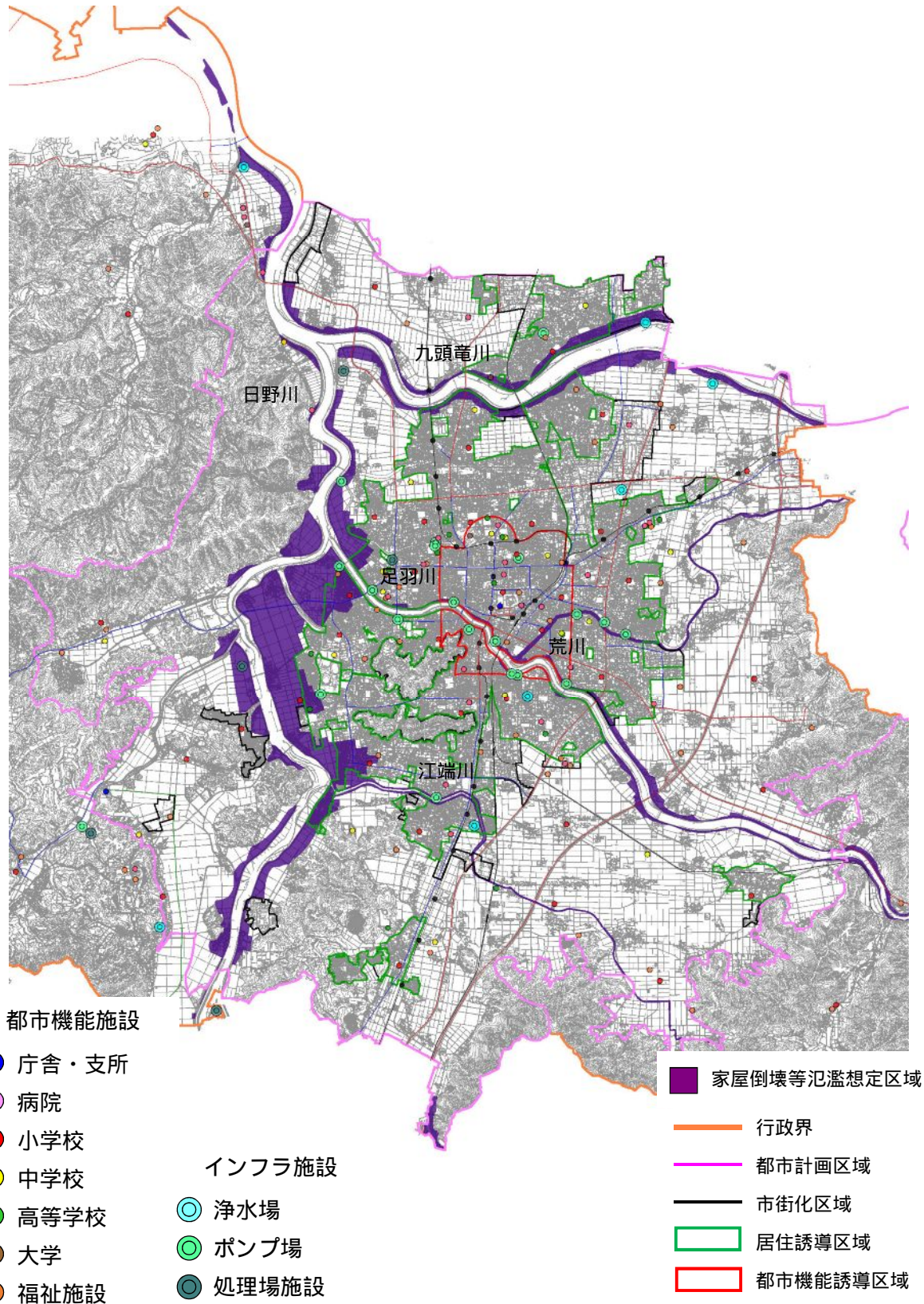
家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模）× 建物分布

- ・ 九頭竜川、日野川、足羽川、荒川、江端川の周辺で家屋倒壊等氾濫想定区域に建物が分布しており、建物の倒壊のおそれがあります。



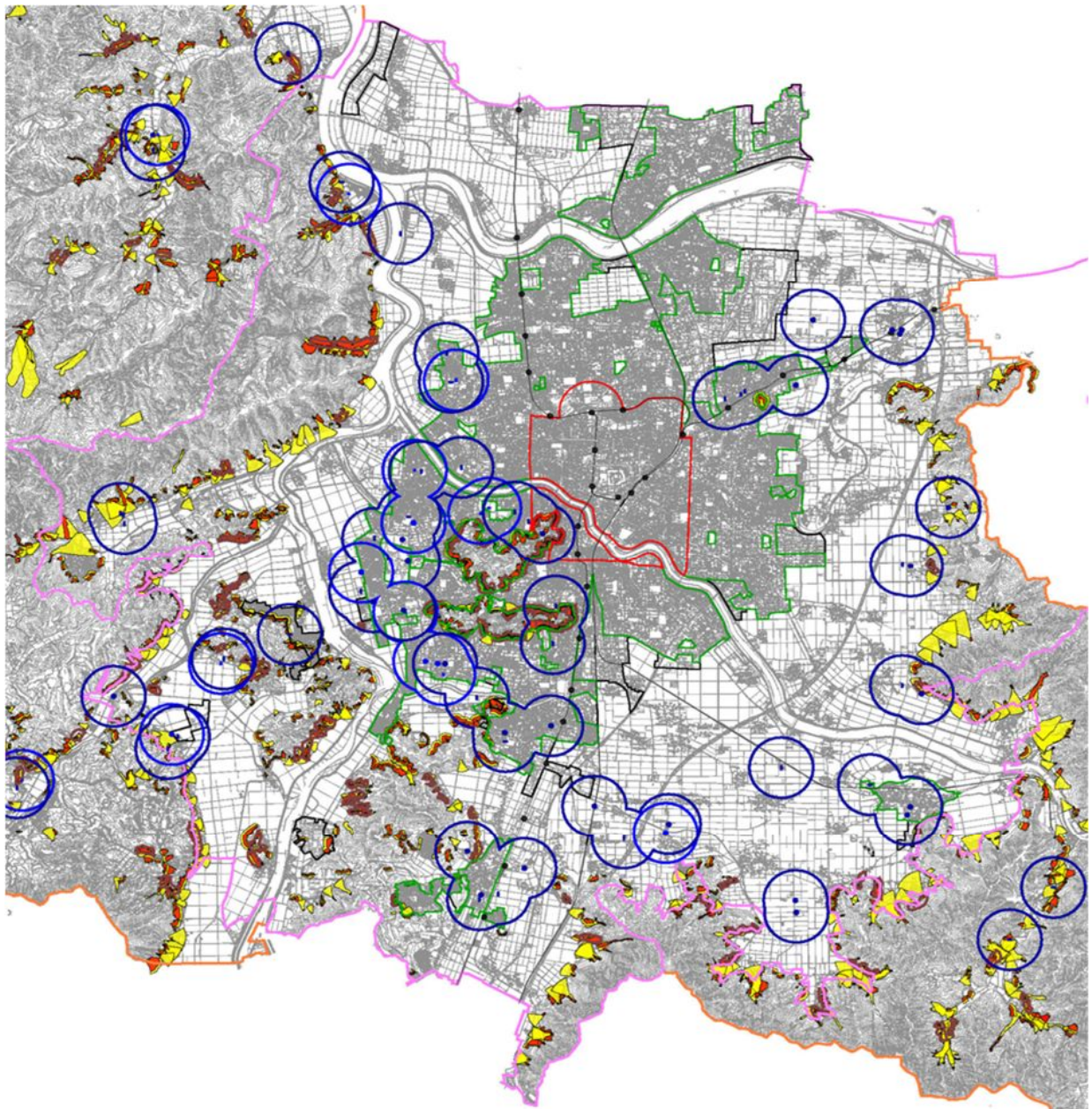
家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模）×都市機能施設、インフラ施設

- ・家屋倒壊等氾濫想定区域に立地している都市機能施設、インフラ施設があり、災害時に倒壊や機能が維持できなくなるおそれがあります。



急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域×指定避難所（土砂）

- ・一部の指定避難所が土砂災害警戒区域に立地しています。



○ 指定避難所 500m圏域（洪水・土砂）

○ 指定避難所 500m圏域（土砂）

— 行政界

— 都市計画区域

— 市街化区域

— 居住誘導区域

— 都市機能誘導区域

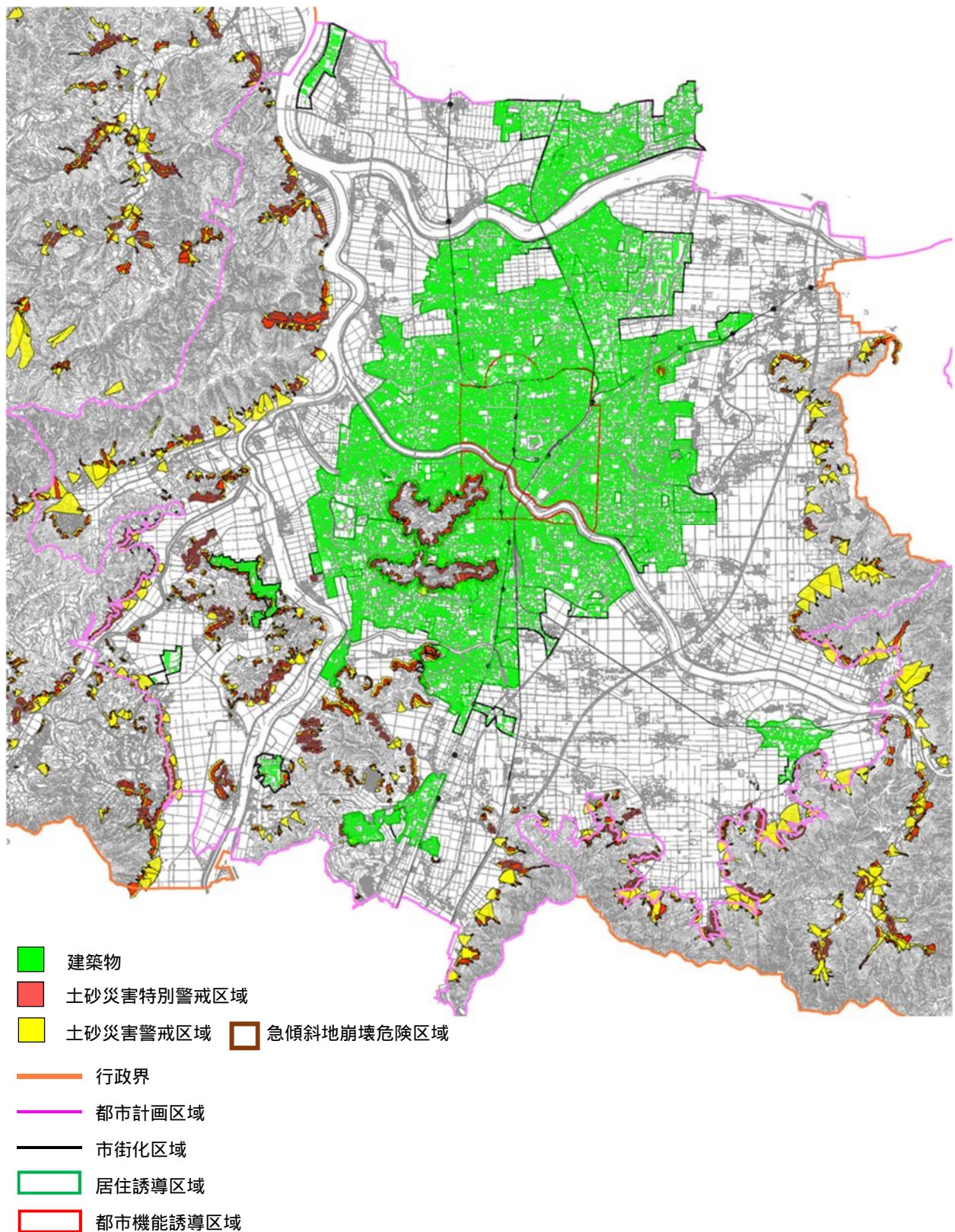
■ 急傾斜地崩壊危険区域

■ 土砂災害特別警戒区域

■ 土砂災害警戒区域

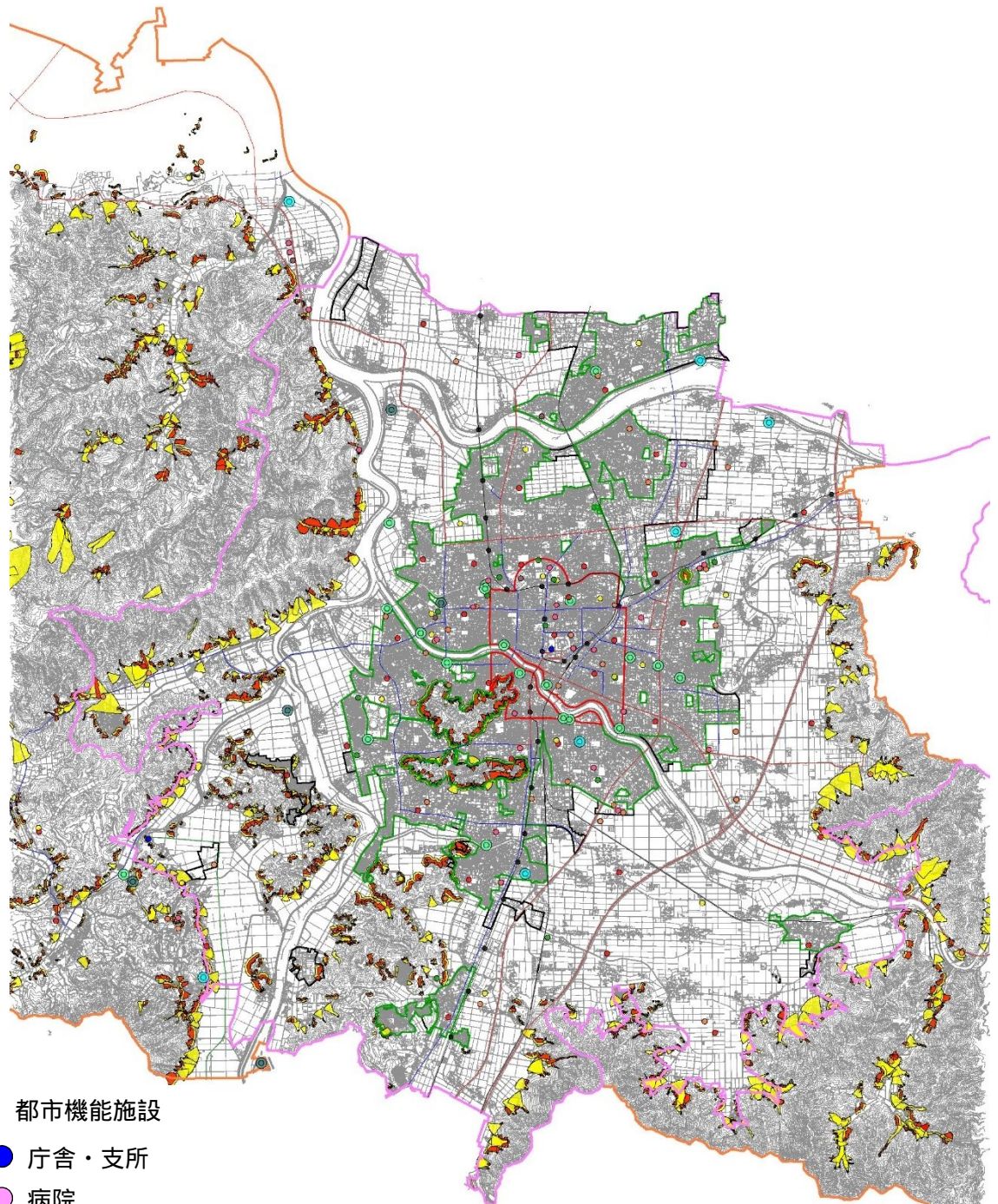
急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域×建物分布

- ・急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に立地している建築物があり、災害時に倒壊する住宅や施設の機能が維持できなくなるおそれがあります。



急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域×都市機能施設、インフラ施設

・土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に立地している建築物もあり、災害時に倒壊や機能が維持できなくなるおそれがあります。



都市機能施設

- 庁舎・支所
- 病院
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 大学
- 福祉施設

インフラ施設

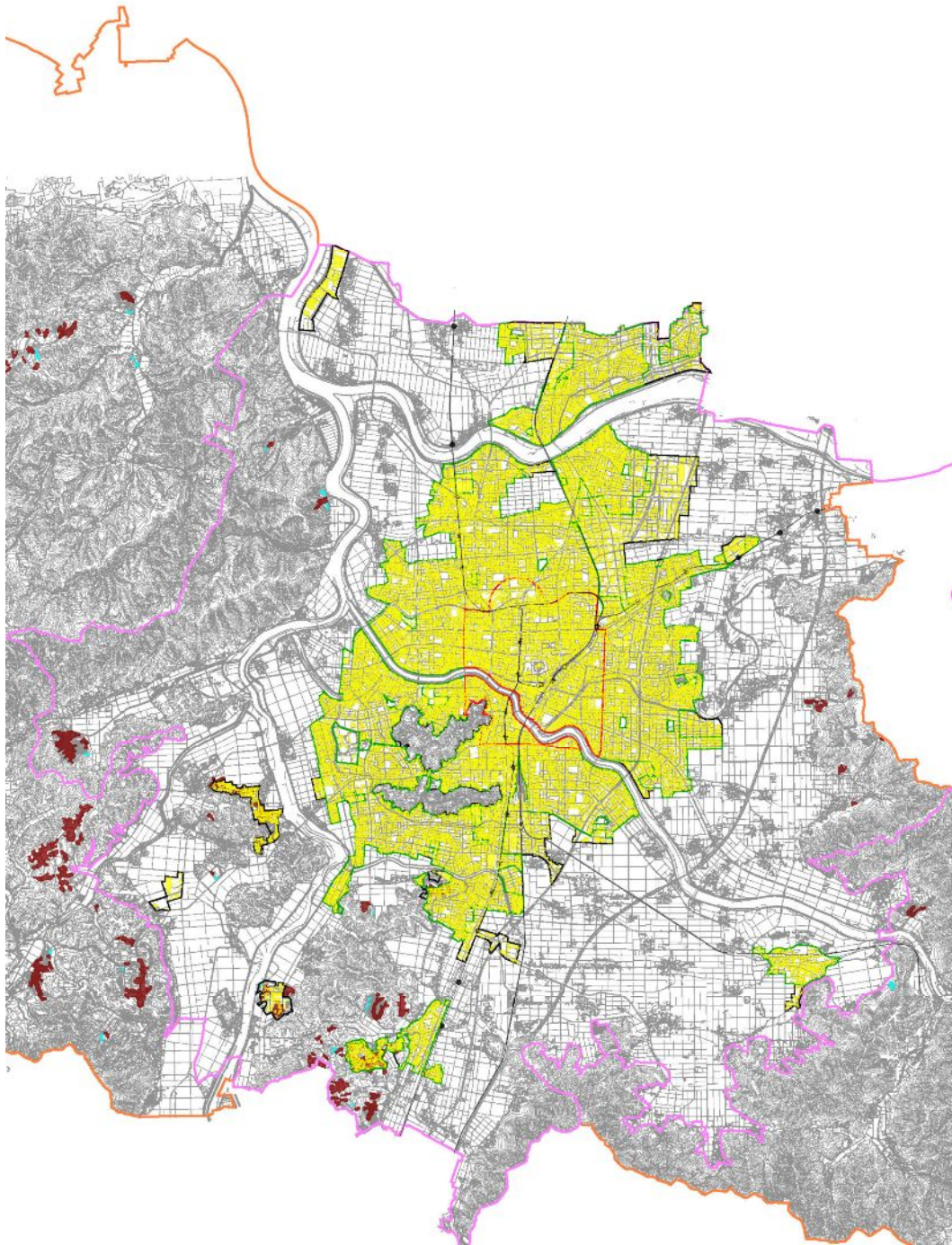
- 浄水場
- ポンプ場
- 処理場施設

- 急傾斜地崩壊危険区域
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

- 行政界
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 都市機能誘導区域

大規模盛土造成地×建物分布

- ・大規模盛土造成地内に立地している建築物もあり、災害時に倒壊する住宅や機能が維持できなくなるおそれがある施設があります。



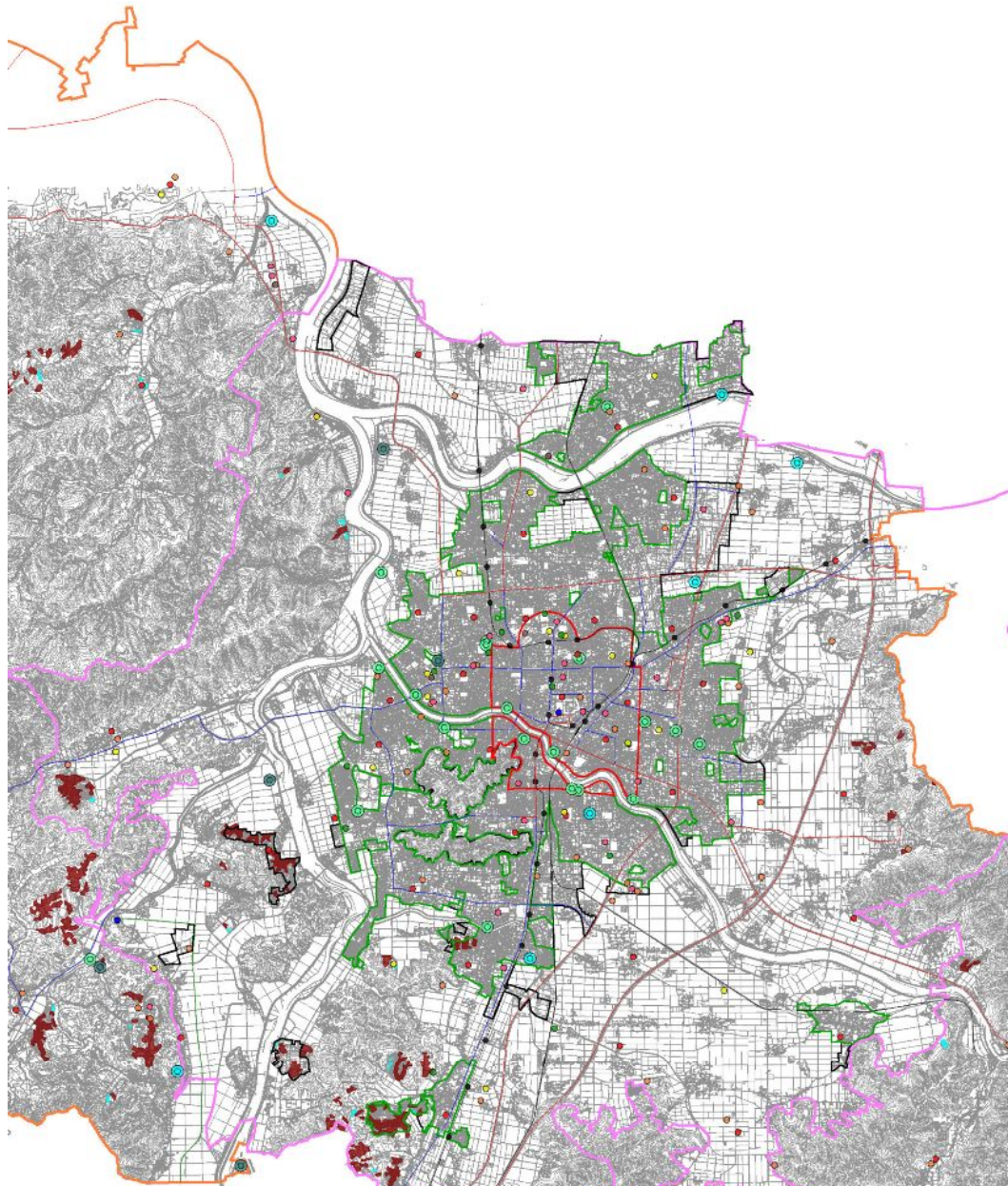
- 行政界
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 都市機能誘導区域

大規模盛土造成地

- 谷埋め型
- 腹付け型
- 建築物

大規模盛土造成地 × 都市機能施設、インフラ施設

- ・大規模盛土造成地内に立地している施設もみられ、災害時に機能が維持できなくなるおそれがあります。



都市機能施設

- 庁舎・支所
- 病院
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 大学
- 福祉施設

インフラ施設

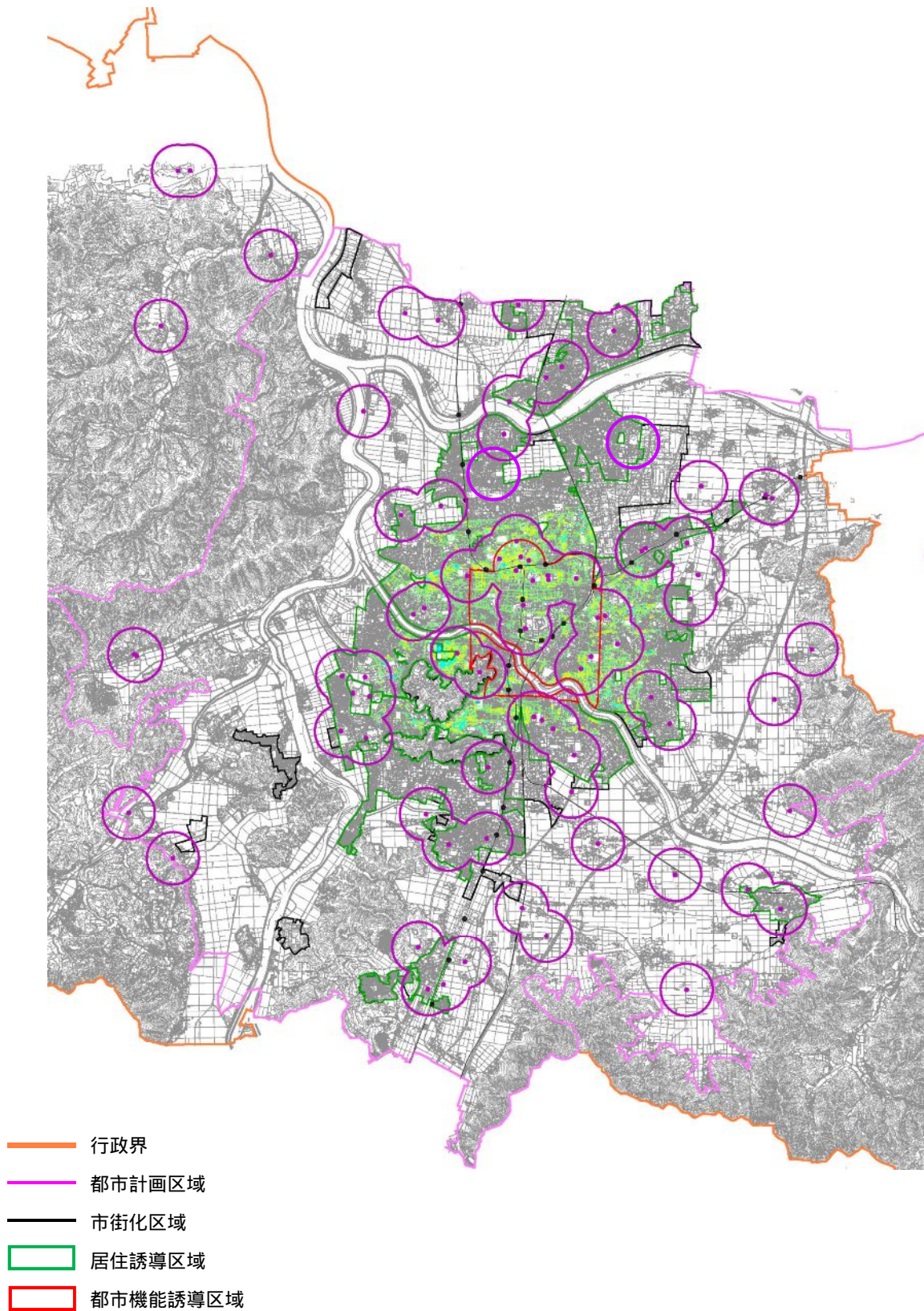
- 浄水場
- ポンプ場
- 処理場施設

大規模盛土造成地

- 谷埋め型
- 腹付け型
- 行政界
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 都市機能誘導区域

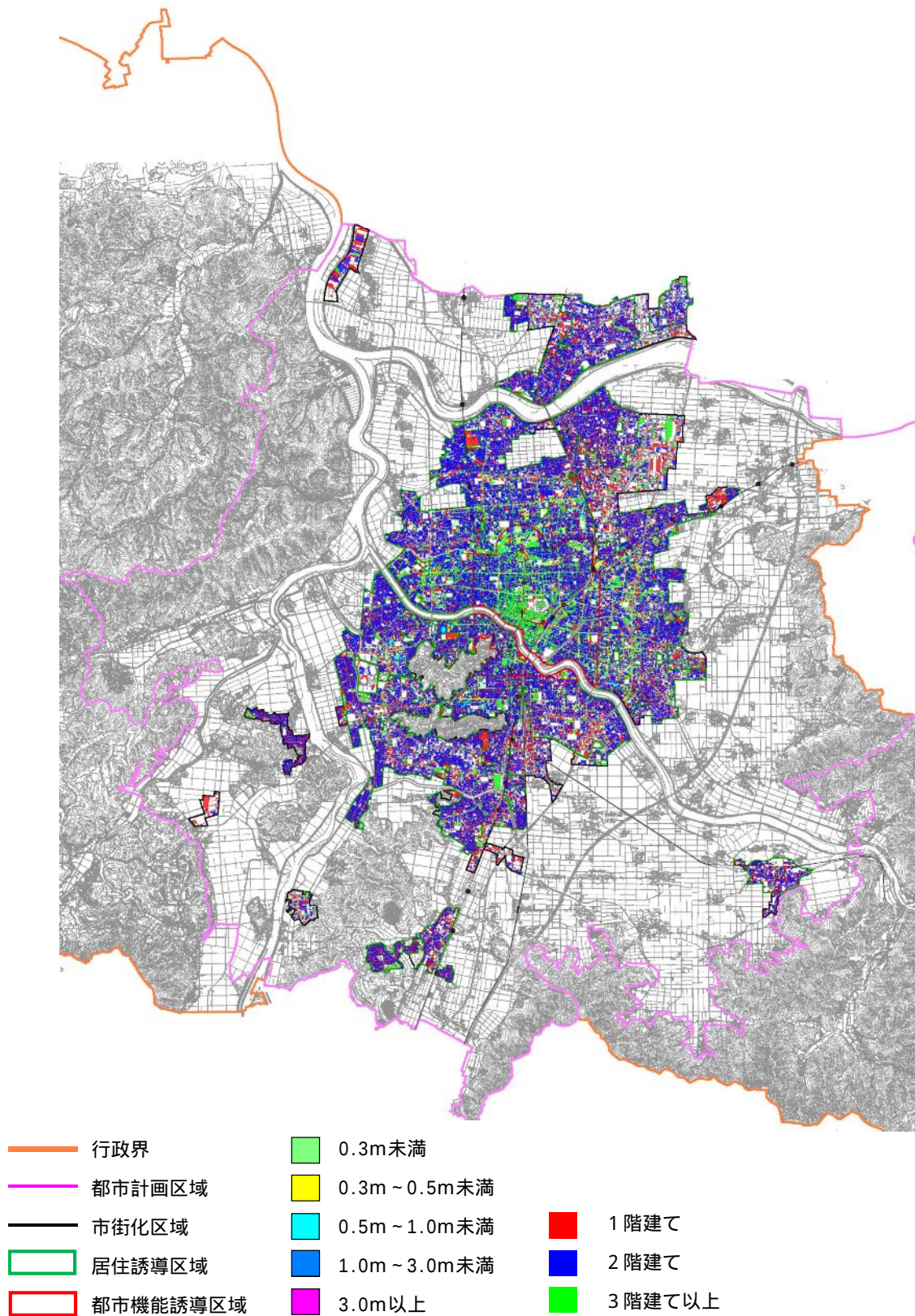
内水浸水想定区域（想定最大規模）× 指定避難所（洪水）

- ・ 一部の指定避難所が内水浸水想定区域に立地しています。



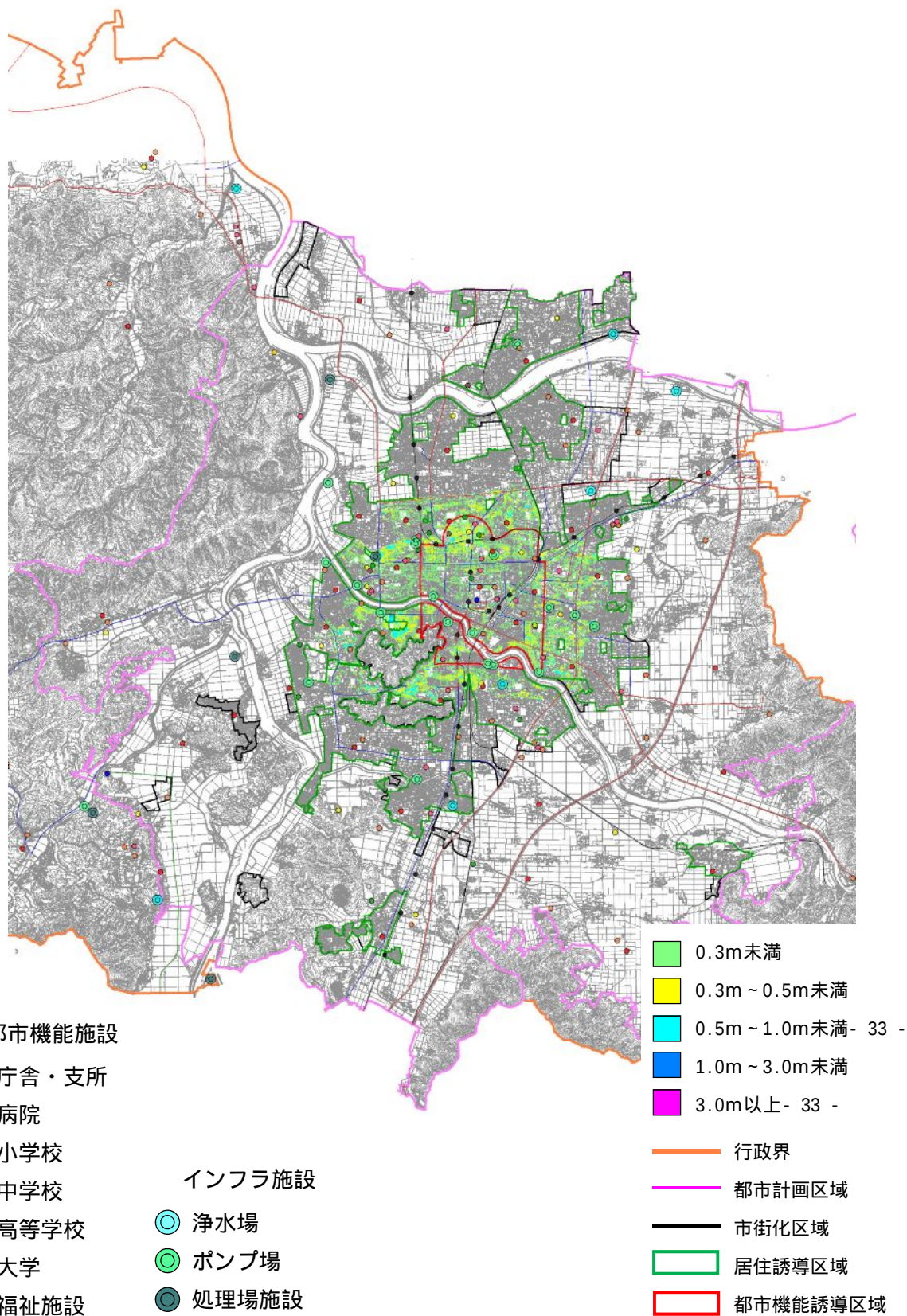
内水浸水想定区域（想定最大規模）× 建物分布

- ・ 内水浸水想定区域に立地している建築物は2階建て以上の建築物が多く、垂直避難が可能な状況にあります。



内水浸水想定区域×都市機能施設、インフラ施設

- ・内水浸水想定区域に立地している都市施設があり、要配慮者や子供の避難が困難になるおそれがあります。



(3) 各区域における災害リスク

都市計画区域全体

福井都市計画区域において、中央に位置する平地部は九頭竜川、日野川、足羽川に囲まれており、洪水による災害ハザードエリアが広く分布しています。特に、下流側である西部は浸水深が大きく、浸水時間 3 日以上区域が広く分布しています。福井都市計画区域の約 3 割が想定最大規模で 3.0 m 以上の浸水深となっており、浸水継続時間が 3 日以上区域が約 2 割となっています。九頭竜川、日野川、足羽川の合流部、河川沿いには、家屋倒壊等氾濫想定区域が分布しており、洪水時に家屋の倒壊・流出のおそれがあります。山際は、土砂災害のリスクが高くなっています。福井都市計画区域の平地部には、都市機能施設である学校や病院、福祉施設が多くあり、特に水害のリスクが高いエリアに立地しています。インフラ施設である浄水場や下水ポンプ場、処理場は機能上、河川の近くに分布していることが多く、水害のリスクが高いことがうかがえます。

市街化区域

市街化区域は、浸水深 3.0m 以上、浸水継続時間 3 日以上が区域の約 5 割を占めており、洪水による災害ハザードエリアが広く分布しています。九頭竜川、日野川、足羽川、江端川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が分布しており洪水時に家屋の倒壊・流出のおそれがあります。足羽山、八幡山、グリーンハイツの周辺などに土砂災害のリスクが分布しており、既に市街化が進んでいることから災害時の危険性が高い区域となっています。

居住誘導区域

居住誘導区域内では、浸水深 3.0m 以上区域及び浸水継続時間 3 日以上区域がそれぞれ約 5 割を占めており、洪水による災害ハザードエリアが広く分布しています。九頭竜川、日野川、足羽川、江端川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が分布しており洪水時に家屋の倒壊・流出のおそれがあります。足羽山、八幡山、グリーンハイツの周辺などに土砂災害のリスクが分布しており、既に市街化が進んでいることから災害時の危険性が高い区域となっています。

都市機能誘導区域

都市機能誘導区域内では、浸水深 3.0m 以上区域が約 6 割、浸水継続時間 3 日以上区域が約 4 割を占めています。足羽川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が分布しており洪水時に家屋の倒壊・流出の恐れがあります。土砂災害による災害ハザードエリアが一部（足羽山）分布しています。

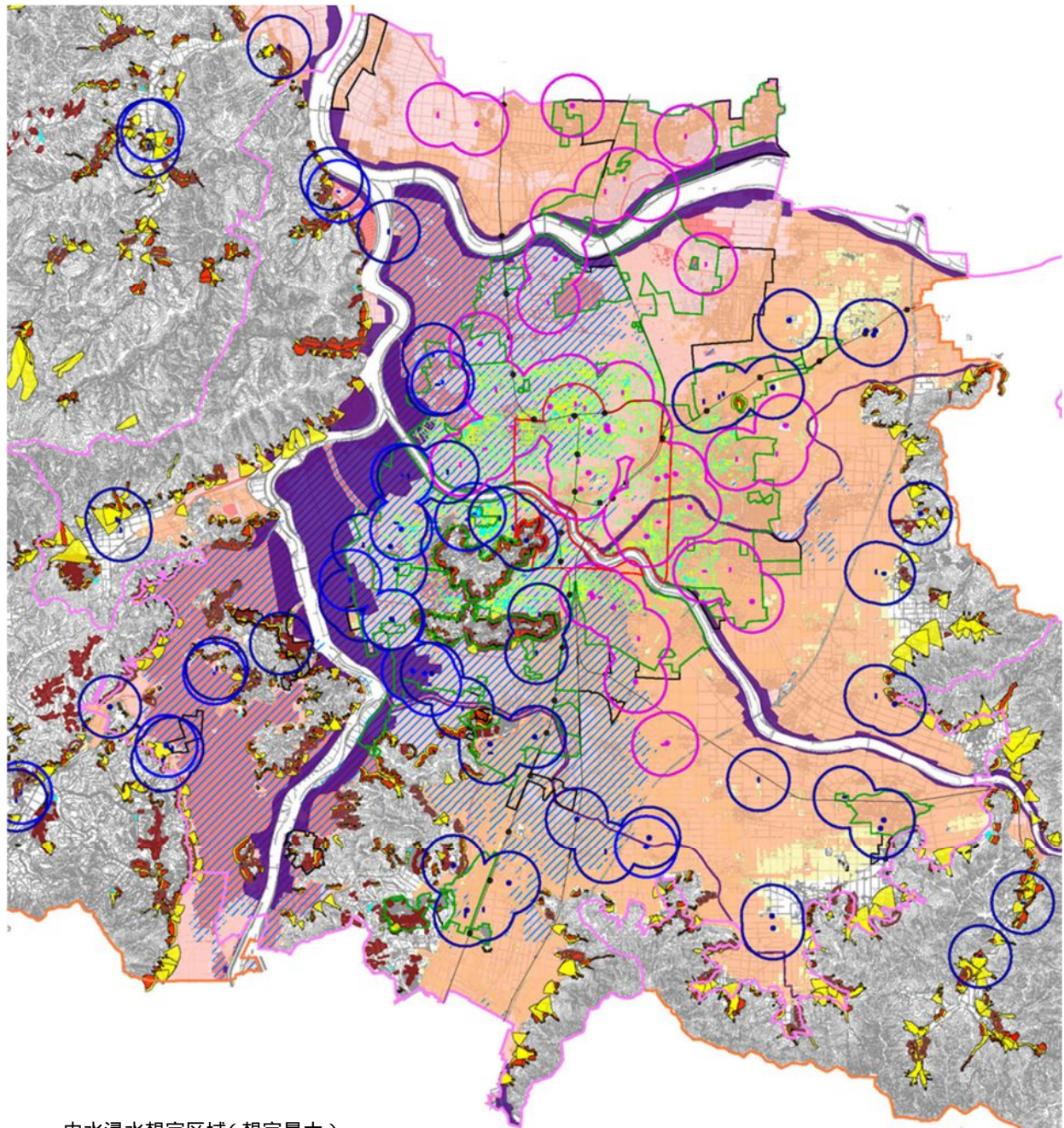
5. 防災・減災まちづくりに向けた課題の抽出

災害リスクの分析・評価結果をもとに、災害リスク別に防災まちづくりに向けた課題を抽出します。

■ 災害リスク別の課題の抽出

災害リスク	防災まちづくりに向けた主な課題
想定浸水深 (想定最大規模) および 浸水継続時間 3 日 以上区域	・ 一般的な住宅での垂直避難が困難な浸水深 3.0m 以上の区域、浸水継続時間 3 日以上が居住誘導区域の約 5 割を占めている ・ 浸水深 3.0m 以上、浸水継続時間 3 日以上に指定避難所や都市機能施設、インフラ施設が多く立地している
家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流、河岸浸食)	・ 居住誘導区域に家屋倒壊等氾濫想定区域が一部含まれている ・ 都市機能誘導区域に家屋倒壊等氾濫想定区域が一部含まれている ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域に指定避難所や都市機能施設、インフラ施設が立地している
土砂災害	・ 居住誘導区域に土砂災害警戒区域が一部含まれている ・ 都市機能誘導区域に土砂災害警戒区域が一部含まれている ・ 土砂災害警戒区域に指定避難所や都市機能施設、インフラ施設が立地している
大規模盛土造成地	・ 大規模盛土造成地に住宅団地や都市機能施設が立地している
内水浸水想定区域	・ 居住誘導区域に浸水深 0.3m 以上の区域が分布している

複合災害×指定避難所（洪水、土砂）



内水浸水想定区域(想定最大)

0.3m未満

0.3m～0.5m未満

0.5m～1.0m未満

1.0m～3.0m未満

3.0m以上

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域

浸水継続時間3日以上

家屋倒壊等氾濫想定区域

大規模盛土造成地

谷埋め型

腹付け型

浸水想定区域

0.5m未満

0.5m～3.0m未満

3.0m～5.0m未満

5.0m以上

指定避難所（洪水・土砂）500m圏域

指定避難所（洪水）500m圏域

指定避難所（土砂）500m圏域

行政界

都市計画区域

市街化区域

居住誘導区域

都市機能誘導区域